論　文

ベトナム人の社会意識

—村落生活実態調査を中心に—

恩田　守雄

1．序

本論文は2007年３月に行ったベトナム村落の生活実態調査から，社会に対する意識についてまとめたものである。これまで2002年と2005年にも断片的に調査してきたが，質問紙による体系的な調査は今回が初めてであった。この調査のうちベトナムと日本の互助意識を比較した論考は既に発表しているが[1]，本稿はキン族（狭義のベトナム人）とムオン族（少数民族）の農村生活の実態を紹介し，また日本社会との違いを明らかにすること，さらにその比較を通して日本が失いつつある社会意識について考察したいという意図をもっている。ベトナムでは農村を対象にしているため都市部のベトナム人の意識が示されているわけではなく，単純に比較することはできないが，日越両国の社会を比較するうえで参考になるデータは得られたように思われる[2]。

本調査はデプス・インタビュー（21人）と質問紙インタビュー（149人）から成り，ホアビン省を中心に一部バクニン省でも行った（**表１**：「ベトナム現地調査の概要」参照）[3]。前者は調査票に基づき自由な意見（自由回答）を中心に聞いたインタビュー（非指示的面接）調査で，後者は選択肢の質問を多くした調査票を用いたアンケート式インタビュー（指示的面接）調査である[4]。デプス・インタビュー調査は質問紙インタビュー調査のプリ・テストという位置づけではなく，後者の調査ではわからない生の声

表１：ベトナム現地調査の概要

省	行政村	自然村	人口	世帯数	民族	質問紙	デプス
ホビアン	ドンライ	タンライ	546人	134世帯	キン族	28	5
		クイバイ１	380人	94世帯	ムオン族	30	5
		クイバイ２	571人	106世帯	ムオン族	22	2
	タンホイ	タンフォン１	358人	89世帯	キン族	33	5
	トゥルンホア	タム	286人	60世帯	ムオン族	17	2
バクニン	タムソン	タイ	1,100人	260世帯	キン族	19	2
合　計						149	21

注：人口および世帯数は調査時点2007年３月現在のデータ。

をより多く聞くことに重点を置いた。以下，質問紙イタンビュー調査の結果を中心に述べ，それを補足する意味でデプス・インタビュー調査の内容も紹介したい。

2．調査の概要

(1)調査の内容

①デプス・インタビュー調査

デプス・インタビュー調査では，生活意識，生活態度，相互扶助，地域づくりについて質問した。生活意識では暮らしぶり，生活の問題，生活態度では生きがい，大切な価値，規律やしきたり，相互扶助ではつきあい，生活困難の対応，助け合い，互助行為，他者からの支援，互助組織，共有地（コモンズ）の活用，相互扶助の将来，地域づくりでは開発の現状，将来の方向，国際協力について質問した（**資料1－1**：「デプス・インタビュー調査」（日本語），**資料1－2**：「デプス・インタビュー調査」（ベトナム語）参照）。

②質問紙インタビュー調査

質問紙インタビュー調査では同様に，生活意識，生活態度，相互扶助，地域づくりについて聞いた。生活意識では階層帰属意識，物質的豊かさ（暮らしぶり），生活に対する満足度，精神的豊かさ（心の豊かさ），社会に対する満足度について，生活態度では大切なもの，大切な道徳，生き方，国民性，規範と価値，一番ほしいもの，相互扶助ではつきあい，助け合い，互助行為，他者からの支援，共同作業，互助組織，相互扶助の現状・将来と自由意見，地域づくりでは開発の現状，将来の方向，開発の主体，国際協力，自由意見について質問した（**資料2－1**：「質問紙インタビュー調査」（日本語），**資料2－2**：「質問紙インタビュー調査」（ベトナム語）参照）。

(2)調査対象者の属性（フェースシート）

①性，年齢，民族，家族

性別は，デプス・インタビュー調査では男性9人（43%），女性12人（57%），質問紙イタンビュー調査では男性74人，女性74人，不明1人（面接員のチェック漏れ）であった（**表2－1**：「デプス・インタビュー調査の概要」，**表2－2**：「質問紙インタビュー調査の概要」参照）。年齢は，デプス・インタビュー調査では50代が6人（28.6%）で最も多く，以下30代が5人（23.8%），40代が4人（19%），60代が3人（14.3%），20代が2人，10代が1人であった。質問紙インタビュー調査では30代が32人（21.5%）で最も多く，以下40代が31人（20.8%），50代が25人（16.8%），20代が21人（14.1%）で，10代と60代がともに15人（10.1%），70代以上が7人，不明が3人であった。

民族は，デプス・インタビュー調査ではキン族12人（57.1%）に対してムオン族が9

表２－１：デプス・インタビュー調査の概要

性別	年齢	民族	職業	収入	学歴	家族	子供
男性　９人	10代　１人	キン族　12人	農　業　19人	500万ドン　５人	小卒　10人	３人世帯　４件	１人　４件
女性　12人	20代　２人	ムオン族　９人	小学教師　１人	1,000万ドン　６人	中卒　８人	４人世帯　４件	２人　７件
	30代　５人		高校生　１人	1,500万ドン　４人	高卒　２人	５人世帯　７件	３人　２件
	40代　４人			2,000万ドン　３人	高校生　１人	６人世帯　４件	４人　１件
	50代　６人			2,500万ドン　１人		７人世帯　１件	５人　３件
	60代　３人			3,000万ドン　１人		８人世帯　１件	６人　２件
				3,000万超　１人			８人　１件
							不明　１件

表２－２：質問紙インタビュー調査の概要

性別	年齢	民族	職業	収入	学歴	家族	子供	居住年数
男性　74人	10代　15人	キン族　80人	農業　100人	500万ドン　26人	小卒　47人	１人世帯　２件	０人　４件	１年未満　５件
女性　74人	20代　21人	ムオン族　69人	自営業　8人	1,000万ドン　49人	中卒　58人	２人世帯　12件	１人　22件	１年から２年　10件
不明　１人	30代　32人		会社員　8人	1,500万ドン　18人	高卒　32人	３人世帯　26件	２人　64件	３年から４年　19件
	40代　31人		公務員　0人	2,000万ドン　20人	大卒　４人	４人世帯　52件	３人　21件	５年から６年　30件
	50代　25人		自由業　1人	2,500万ドン　8人	無学歴　２人	５人世帯　25件	４人　20件	７年から８年　40件
	60代　15人		主婦　1人	3,000万ドン　1人	その他　５人	６人世帯　18件	５人　６件	９年から10年　16件
	70代超　7人		学生　9人	3,000万超　22人	不明　１人	７人世帯　６件	６人　８件	11年から12年　22件
	不明　3人		臨時雇用　3人	不明　5人		８人世帯　５件	７人　１件	13年から14年　５件
			無職　1人			９人世帯　１件	８人　１件	15年以上　１件
			その他　14人			10人世帯　１件	９人　１件	不明　１件
			不明　4人			13人世帯　１件	10人　１件	

人（42.9％），質問紙インタビュー調査ではキン族が80人（53.7％）でムオン族が69人（46.3％）であった。なお家族の構成はデプス・インタビュー調査では平均4.9人（最も多い家族が８人，最も少ない家族が３人），子供（独立した子供含む）が3.2人（最も多い子供は８人，最も少ない子供は１人），質問紙インタビュー調査では同じく家族が平均4.4人（最も多い家族が13人，最も少ない家族が一人暮らし），子供は2.7人（最も多い子供は10人）で子供がいない家庭もあった。

②職業，収入，学歴

職業は村落であったため両調査とも農業が多いが，デプス・インタビュー調査では教師がいた。質問紙イタンビュー調査では最も多い「農業」が100人（67.1％）で，「学生」が９人（６％），「自営業」と「会社員」が各８人（5.4％），「その他」には年金生活者などがいた。収入（年収）は，デプス・インタビュー調査では500万ドンから1,000万ドン以下が最も多かった（2008年８月末現在１ドン約0.007円）。質問紙インタビュー調査でも同様に1,000万ドンまでの世帯が49人（32.9％）と最も多く，次が500万ドンまでが26人（17.4％），3,000万ドンを超える富裕な世帯が22人（14.8％）いる。以下2,000万ドン以下が20人（13.4％），1,500万ドンまでが18人（12.1％）であった。

学歴は，デプス・インタビュー調査では小卒が10人と多く（47.6％），質問紙インタビュー調査で最も多いのは中卒の58人（38.9％）で，以下小卒が47人（31.5％）。高卒は32人（21.5％）で，大卒が４人（2.7％）あった。なお「学校に行かなかった」者がわず

かだがいた。中卒までが全体の7割を占め，中学校までの学業を終えて実社会に出る者が多く，高学歴者はいない。なお居住年数は質問紙インタビュー調査では最大15年で平均6.9年，1年未満の者もいた。全体として居住年数が少ないのは，一部移民政策によるものと思われる。

③地域

今回の調査は，ホアビン省ではタンラク地方の山岳地帯であるドンライ（キン族のタンライ，ムオン族のクイバイ1とクイバイ2の各自然村），タンホイ（キン族のタンフォン1村），トゥルンホア（ムオン族のタム村）の各コミューン（行政村）を中心に行い，一部バクニン省ではハノイ近郊のタムソン・コミューン（キン族のタイ村）で実施した。サンプルが少ない地域もあるが，これは集落の家屋が山岳地帯で分散しているため，インタビュー時間が十分取れなかったことによる。

3．生活意識について

(1)階層帰属意識

①概要

生活意識について，最初に階層という点から質問した。この問いを含め，生活の意識と態度をベトナムと日本で比較するため，統計数理研究所の『国民性調査』と同一の選択肢をいくつか採用している。「ベトナムの社会を五つの層に分けるとすると，あなたの家はこのどれに入りますか」という質問に対して，「上」が0％，「中の上」が16.8％，「中の下」が63.1％，「下の上」が18.1％，「下の下」が2％であった（**資料3問1の(1)**：「社会階層意識」参照。以下単純集計の合計サンプル149に対して，不明があるときは欠測サンプルとしてデータを除外して作成）。全体としてほぼ8割のベトナム人が「中」の意識をもっていることがわかる。2003年実施の日本の『国民性の研究　第11次全国調査』（2004年）の結果と比べると，日本人の場合「中の上」が10％，「中の中」が57％，「中の下」が25％あるが（以下不明を含む割合，いずれも％は小数点の表示なし），ベトナムの「下」意識が2割ある点が注目される（**図3－1**：「階層帰属意識」参照）。ここで「中」を日本と同様3段階にしなかったのは，本調査以前のインタビュー調査で「下」意識の強いことがわかり，「下」の階層意識を2段階に分けることでより実態に即した結果が得られると判断したからである。

②社会階層と収入，学歴の関係

以下属性（性，年齢，民族，職業，収入，学歴）について有意性のあるクロス集計（欠測サンプル除く）を見ると，社会階層では収入および学歴との関係で有意な結果が得られた（**表3－1**：「社会階層と収入の関係」，**表3－2**：「社会階層と学歴の関係」参照）[5]。2,000万ドンを超える収入の高い世帯では「中」の階層意識が強く「下」の帰

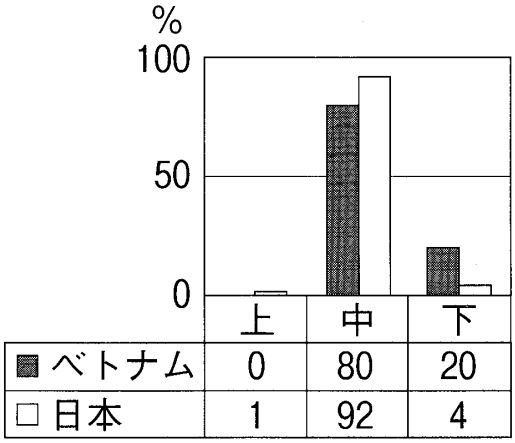


図３－１：階層帰属意識

表３－１：社会階層と収入の関係

名称	500万	1,000万	1,500万	2,000万	2,500万	3,000万	3,000万上	合計
中の上	0	6	4	1	4	1	9	25
中の下	8	37	10	20	4	0	13	92
下の上	17	6	4	0	0	0	0	27
下の下	3	0	0	0	0	0	0	3
合　計	28	49	18	21	8	1	22	147

統計量　カイニ乗　自由度　確率(P)　$P<0.05$　単位：年収ドン
85.975　18　0　$P<0.01$

表３－２：社会階層と学歴の関係

名称	小学校卒	中学校卒	高校卒	大学卒	学歴なし	その他	合計
中の上	5	5	13	1	1	0	25
中の下	24	45	16	3	0	5	93
下の上	16	7	3	0	1	0	27
下の下	2	1	0	0	0	0	3
合　計	47	58	32	4	2	5	148

統計量　カイニ乗　自由度　確率(P)　$P<0.05$
36.558　15　0.002　$P<0.01$

属意識はなく，収入が低い層になると「下」の階層意識が多くなる。また「下」層意識の６割の人が小卒であることから，教育年数の少ない人ほど「下」の帰属意識をもっていることがわかる。

⑵物質的豊かさ（暮らしぶり）

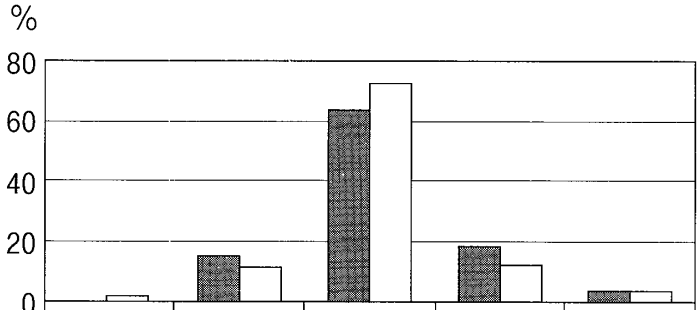
①概要

「あなたの家の暮らしぶり（暮らし向き）はどの程度ですか」という質問に対しては，「非常に豊か」が０％，「やや豊か」が14.9％，「ふつう」が64.2％，「やや貧しい」が18.2％，「非常に貧しい」が2.7％あった（**資料３問１の⑵**：「物質的豊かさ（暮らしぶり）」参照）。全体としてほぼ６割強のベトナム人が「ふつう」の暮らしぶり意識をもち，

これは階層帰属意識とパラレルな関係にあると言ってもよいだろう。日本の『国民性調査』と比べると，日本では「非常に豊か」が１％，「やや豊か」が11％，「ふつう」が73％，「やや貧しい」が12％，「非常に貧しい」が３％あり，「ふつう」が多い点が注目される。むしろベトナムのほうに「やや豊か」が多く，自らの置かれた生活を好意的に判断している者がいるものの，やはり「貧しい」と感じる人が２割もいる（**図３－２**：「物質的豊かさ（暮らしぶり）」参照）。

②暮らしぶりと職業，学歴の関係

物質的豊かさでは職業および学歴との関係で有意な結果が得られた（**表３－３**：「暮らしぶりと職業の関係」，**表３－４**：「暮らしぶりと学歴の関係」参照）[6]。農業を営む人に「貧しい」と感じる人が多く，全体の９割を占める。また教育年数が少ない人ほど貧しさを感じていることがわかる。特に大卒では貧しさを感じている人がいない点が注



	非常に豊か	やや豊か	ふつう	やや貧しい	非常に貧しい
■ベトナム	0	15	64	18	3
□日本	1	11	73	12	3

図３－２：物質的豊かさ（暮らしぶり）

表３－３：暮らしぶりと職業の関係

名称	農業	自営業	会社員	自由業	主婦	学生	臨時雇用	無職	その他	合計
やや豊か	6	5	4	1	0	1	2	0	3	22
ふつう	66	3	2	0	1	8	1	1	10	92
やや貧しい	23	0	2	0	0	0	0	0	1	26
非常貧しい	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
合計	99	8	8	1	1	9	3	1	14	144

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	48.087	24	0.003	$P<0.05$
				$P<0.01$

表３－４：暮らしぶりと学歴の関係

名称	小学校卒	中学校卒	高校卒	大学卒	学歴なし	その他	合計
やや豊か	4	5	11	2	0	0	22
ふつう	24	44	18	2	1	5	94
やや貧しい	16	7	3	0	1	0	27
非常貧しい	3	1	0	0	0	0	4
合計	47	57	32	4	2	5	147

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	34.703	15	0.003	$P<0.05$
				$P<0.01$

目される。

(3)生活に対する満足度

①概要

「あなたは今の生活に満足していますか」という質問に対しては，「非常に満足」が29.5%，「やや満足」が30.9%，「やや不満」が31.5%，「非常に不満」が8.1%であった（**資料3問1の(3)**：「生活に対する満足度」参照）。全体として6割のベトナム人が「満足」しているが，不満な人が4割近くいる。これも日本の『国民性調査』と比べると，「非常に満足」が18%，「やや満足」が58%，「やや不満」が20%，「不満」が3%で，生活に「非常に満足」している人はベトナムのほうが高いが，日本では不満な人はベトナムほど多くない。（**図3－3**：「生活に対する満足度」参照）。これは日本がある程度「豊かさ」が達成されているのに対して，ベトナムでは生活の格差が大きいことを示している。

②生活に対する満足度と民族，収入の関係

生活に対する満足度では民族および収入との関係で有意な結果が得られた（**表3－5**：「生活満足度と民族の関係」，**表3－6**：「生活満足度と年収の関係」参照）[7]。民族では，タンライ，タンフォン1，タイの各村に住むキン族で生活に対する満足度が高い

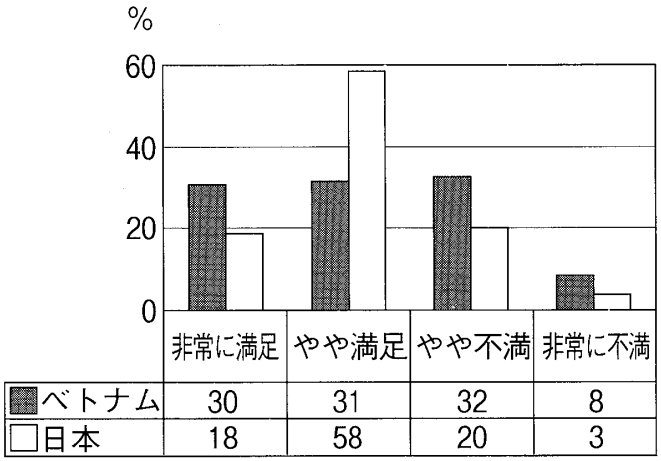


図3－3：生活に対する満足度

表3－5：生活満足度と民族の関係

名称	タンライ	クイバイ1	クイバイ2	タンフォン1	タム	タイ	合計
非常に満足	11	6	6	11	2	8	44
やや満足	6	9	6	16	3	6	46
やや不満	7	12	7	5	12	4	47
非常不満	4	3	3	1	0	1	12
合計	28	30	22	33	17	19	149

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	27.73	15	0.023	$P<0.05$ $P>0.01$

注：ムオン族―クイバイ1，クイバイ2，タム　　キン族―タンライ，タンフォン1，タイ

のに対して，特にタム村のムオン族では不満が多かった。このムオン族はキン族とは離れた丘陵地帯に住んでいるため，生活の利便性という点で不満が多いものと推測される。収入との関係では，1,500万ドン以下の低所得層で不満が多いことがわかる。

表３－６：生活満足度と収入の関係

名称	500万	1,000万	1,500万	2,000万	2,500万	3,000万	3,000万上	合計
非常に満足	2	13	4	7	5	0	11	42
やや満足	7	16	4	7	2	0	10	46
やや不満	11	16	10	7	1	1	1	47
非常不満	8	4	0	0	0	0	0	12
合計	28	49	18	21	8	1	22	147

統計量	カイニ乗	自由度	確率(*P*)	
	45.936	18	0	$P<0.05$ $P<0.01$

単位：年収ドン

(4)精神的豊かさ（心の豊かさ）

①概要

「心の豊かさという点で，現在のベトナムはどれに当てはまると思いますか」という質問に対しては，「非常に良い」が30.6%，「やや良い」が53.1%，「やや悪い」が16.3%で，「非常に悪い」と回答した人はいなかった（**資料３問１の(4)**：「精神的豊かさ（心の豊かさ）」参照）。全体として８割を超える人が心の豊かさという点で「良い」と判断していることがわかる。日本の『国民性調査』と比べると，「非常に良い」が２%，「やや良い」が23%，「やや悪い」が52%，「非常に悪い」が19%で，７割を超える人が心の豊かさについて「悪い」と考えているのと対照的である（**図３－４**：「精神的豊かさ（心の豊かさ）」参照）。これはよく言われるように先進国が物質的には「豊か」だが精神的には「豊かでない」ことを，また逆に発展途上国では物質的には「豊かでない」が精神的には「豊か」であることを示しているように思われる。

②精神的豊かさ（心の豊かさ）と収入の関係

心の豊かさでは収入との関係で有意な結果が得られた（**表３－７**：「心の豊かさと収

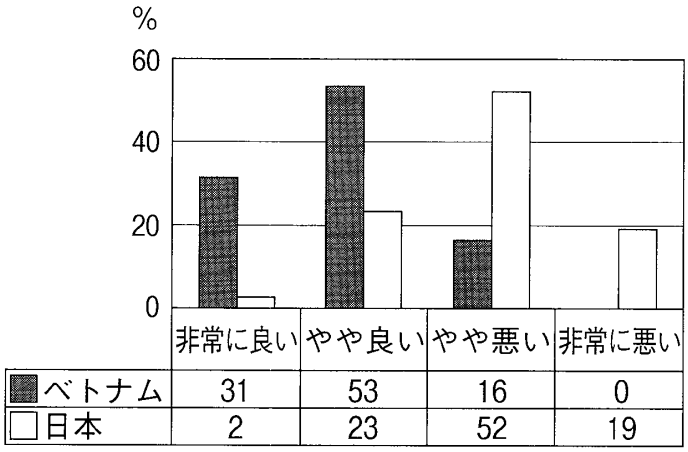


図３－４：精神的豊かさ（心の豊かさ）

入の関係」参照)[8]。低所得者でも極端に低い500万ドン以下の人には心の豊かさという点で「悪い」とする人が目立つ。所得の低い人ほど精神的な豊かさが満たされていないと言えるが，1,000万ドンまでの年収では「良い」とする者が9割近くいることから，それなりの収入レベルで心の豊かさを感じていることがわかる。

表3－7：心の豊かさと収入の関係

名称	500万	1,000万	1,500万	2,000万	2,500万	3,000万	3,000万上	合計
非常に良い	4	13	5	6	3	0	13	44
やや良い	14	31	8	12	4	1	8	78
やや悪い	10	5	4	3	1	0	1	24
合計	28	49	17	21	8	1	22	146

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	22.086	12	0.036	$P<0.05$ $P>0.01$

単位：年収ドン

(5)社会に対する満足度

「あなたは社会（世の中）に対して満足していますか」という質問に対しては，「非常に満足」が46.9%，「やや満足」が32.2%，「やや不満」が20.3%，「非常に不満」が0.7%であった（**資料3問1の(5)**：「社会に対する満足度」参照)。全体として8割近い人が社会に対して「満足」している。これも日本の『国民性調査』と比べると，日本人は「満足」が3%，「やや満足」が27%，「やや不満」が51%，「不満」が17%で，社会に対して不満な人が7割近くあり，先の「心の豊かさ」のところで示された同様の結果が注目される（**図3－5**：「社会に対する満足度」参照)。これは社会主義の体制という点で，そう強く不満が言えない事情も考えられるが，現在の社会に対して一定の満足を示している点は日本と対照的で興味深い。なおこの社会に対する満足度と属性との関係では，有意な結果が得られなかった。

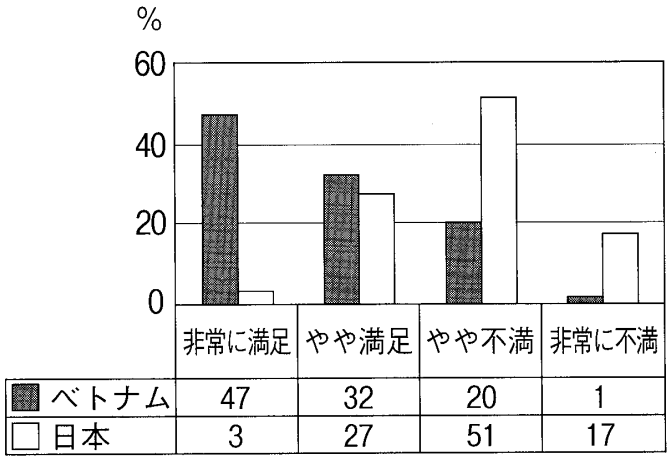
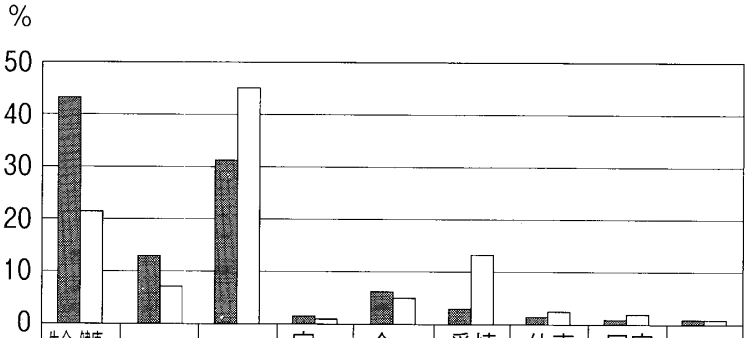


図3－5：社会に対する満足度

4．生活態度について

(1)大切なもの

「あなたにとって一番大切なもの（生きがい）は何ですか」という質問に対しては，最も多かったのは「生命・健康・自分」が43%，次が「家族」で30.9%，以下「子供」が13.4%，「金・財産」が６%，「愛情・精神」が3.4%，「仕事・信用」が1.3%で「家・先祖」，「国家・社会」，「その他」がともに0.7%であった（**資料３問２の(1)**：「大切なもの」参照）。日本の『国民性調査』（自由回答）と比べると，「家族」が45%，「生命・健康・自分」が21%，「愛情・精神」が13%，「子供」が７%，「金・財産」が５%で，日本の家族志向が注目される（**図４－１**：「大切なもの」参照）。日本では自由回答形式だが，本調査では選択肢をあげて聞いた。『国民性調査』では「二番目に大切と思うものは何ですか」という質問も追加で行っているが，その結果も「家族」が22%と最も多く，「生命・健康・自分」が19%，「金・財産」が18%，「愛情・精神」が16%であった。ベトナムでも「家族」をあげる人が多いものの，「生命・健康・自分」という個人志向が強いのに対して，日本人の家族への思いという集団志向とは対照的である。なおこの大切なものと属性（性，年齢，民族，職業，収入，学歴）の関係では，有意な結果が得られなかった。



	生命・健康・財産	子供	家族	家先祖	金財産	愛情精神	仕事信用	国家社会	その他
ベトナム	43	13	31	1	6	3	1	1	1
日本	21	7	45	1	5	13	2	2	1

図４－１：大切なもの

(2)大切な道徳

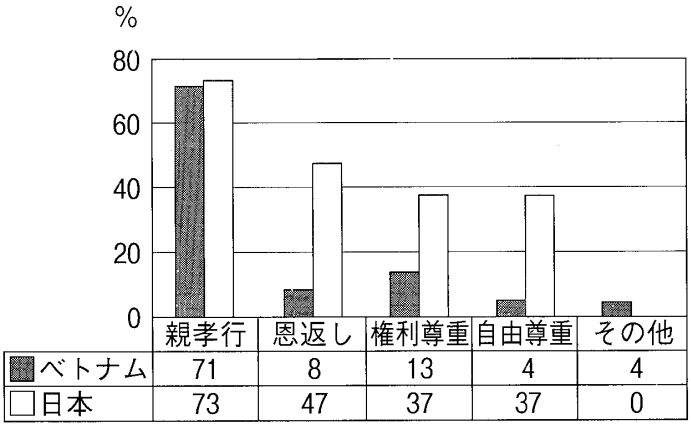
①概要

「あなたは次のうちどれが最も大切な道徳だと考えますか」という質問（単一回答）に対しては，「親孝行をすること」が71.3%で最も多く，次が「個人の権利を尊重すること」で12.6%，以下「恩返しをすること」が8.4%，「自由を尊重すること」が4.2%，「その他」が3.5%であった（**資料３問２の(2)**：「大切な道徳」参照）。ベトナムでは「親

孝行」が重要な道徳になっている。これも日本の『国民性調査』（２項目あげる複数回答）と比べると，「親孝行」が73%，「恩返し」が47%，「権利尊重」と「自由尊重」が37%で，日本もベトナムも「親孝行」を大切な道徳とする点は共通する。複数回答のため単純に%の数字を比較することはできないが，特に日本では「恩返し」の多い点が注目される（**図４－２**：「大切な道徳」参照）。これはベトナム人以上に恩を受けたことに対する返礼の精神が強く，「忠」意識が高いことを暗示しているように思われる。

②大切な道徳と職業の関係

大切な道徳では職業との関係で有意な結果が得られた（**表４－１**：「大切な道徳と職業の関係」参照）[9]。他の職業に比べ農業に従事している人の８割近くが「親孝行をすること」を大切な道徳と考えている。これは農民に「孝」という価値観を尊重する傾向が強いことを示唆している。



注：ベトナムは単一回答、日本は二項目選択の複数回答

図４－２：大切な道徳

表４－１：大切な道徳と職業の関係

名称	農業	自営業	会社員	自由業	主婦	学生	臨時雇用	無職	その他	合計
親孝行	74	5	4	1	0	5	2	0	10	101
恩返し	7	1	0	0	1	1	0	0	2	12
個人権利	9	2	1	0	0	2	0	0	1	15
自由尊重	1	0	2	0	0	1	1	1	0	6
その他	4	0	1	0	0	0	0	0	0	5
合計	95	8	8	1	1	9	3	1	13	139

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	60.831	32	0.002	$P<0.05$
				$P<0.01$

(3)生き方

①概要

「次にあげるもののうちどれが一番あなた自身の気持ち（生き方）に近いですか」という質問に対しては，最も多かったのは「一生懸命働き，金持ちになること」で38.4%，

次が「その日その日を，のんきにクヨクヨしないで暮らすこと」で28.1％あった。以下「世の中の正しくないことを除き，どこまでも清く正しく暮らすこと」が11％，「金や名誉を考えずに，自分の趣味にあった暮らし方をすること」が10.3％，「自分のことを考えずに，社会のためにすべてを捧げて暮らすこと」が5.5％，「その他」が4.8％，「まじめに勉強して，名をあげること」が2.1％であった（**資料3問2の(3)**：「生き方」参照）。ベトナム人の勤勉志向がうかがえるが，その一方で「のんきに暮らすこと」をあげる人も多く，これはタイを始め東南アジア全体に共通する現状をありのままに受け入れる意識とも関連があるように思われる（恩田，2001年）。日本の『国民性調査』と比べると，「趣味」が39％と最も多く，以下「のんきに」が23％，「金持ち」が17％である。発展途上国の経済的な豊かさ志向に対して，ある程度の豊かさが達成されている日本では，仕事以外の分野への生活の力点が注目される（**図4－3**：「生き方」参照）。

②生き方と年齢，職業，学歴の関係

生き方では年齢，職業，学歴との関係で有意な結果が得られた（**表4－2**：「生き方と年齢の関係」，**表4－3**：「生き方と職業の関係」，**表4－4**：「生き学と学歴の関係」参照，）[10]。生き方と年齢の関係では，30代と40代の働きざかりで「一生懸命働き，金持

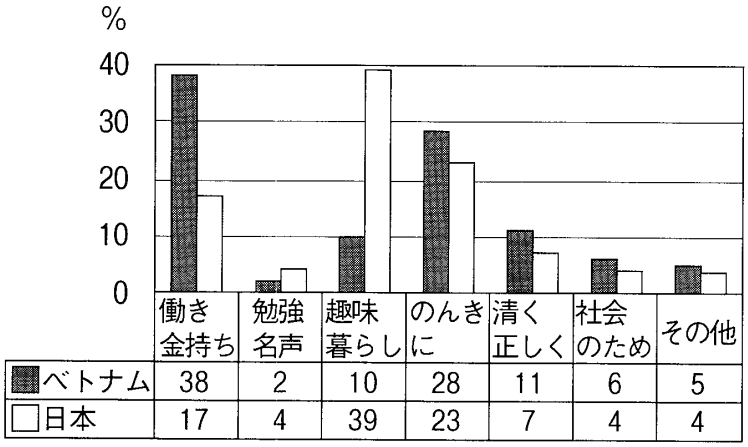


図4－3：生き方

表4－2：生き方と年齢の関係

名称	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代超	合計
働き金持ち	2	8	16	17	7	5	0	55
名声	2	1	0	0	0	0	0	3
趣味	3	3	2	3	3	0	1	15
のんきに	1	4	8	9	5	9	4	40
清く正しく	2	3	3	0	6	1	1	16
社会のため	3	2	0	1	1	0	0	7
その他	2	0	2	1	1	0	1	7
合計	15	21	31	31	23	15	7	143

統計量	カイニ乗	自由度	確率(*P*)	
	61.037	36	0.006	$P<0.05$
				$P<0.01$

ちになること」に生活の力点を置く人が目立ち，高齢者になると「その日その日を，のんきにクヨクヨしないで暮らすこと」を望む人が多くなる。若い世代の10代ではまだ人生観が定まっていないためであろうか，全体に各項目がばらついている。50代で「世の中の正しくないことを除き，どこまでも清く正しく暮らすこと」が多いのは，ベトナム（抗米）戦争世代（当時20歳前後）の意識が反映されているようにも思われる。生き方と職業の関係では，農業や自営業の５割は「一生懸命働き，金持ちになること」を希望しているが，「のんきに」暮らしたいと思う農民も３割近くいる。生き方と学歴の関係では，勤勉に働いて金持ちになることを教育年数の少ない小卒で希望する者が５割を超え，中卒でもほぼ５割の者がそれを生き方としている。逆に教育年数が多い高卒では「のんきに」暮らすことが最も多くなり，大卒では「世の中の正しくないことを除き，どこまでも清く正しく暮らすこと」という社会改革への意欲と清貧さを示す者がいる。

表４－３：生き方と職業の関係

名称	農業	自営業	会社員	自由業	主婦	学生	臨時雇用	無職	その他	合計
働き金持ち	48	4	2	0	0	0	0	0	2	56
名声	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3
趣味	10	1	1	0	0	2	0	1	0	15
のんきに	27	1	2	0	0	1	2	0	7	40
清く正しく	7	1	1	0	0	2	0	0	3	14
社会のため	2	0	2	0	1	1	1	0	0	7
その他	3	0	0	1	0	1	0	0	2	7
合計	97	8	8	1	1	9	3	1	14	142

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	113.685	48	0	$P<0.05$
				$P<0.01$

表４－４：生き方と学歴の関係

名称	小学校卒	中学校卒	高校卒	大学卒	学歴なし	その他	合計
働き金持ち	24	28	3	0	0	1	56
名声	0	0	3	0	0	0	3
趣味	5	4	6	0	0	0	15
のんきに	14	12	10	0	2	3	41
清く正しく	1	5	6	2	0	1	15
社会のため	1	3	3	1	0	0	8
その他	0	5	1	1	0	0	7
合計	45	57	32	4	2	5	145

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	61.119	30	0.001	$P<0.05$
				$P<0.01$

(4)国民性

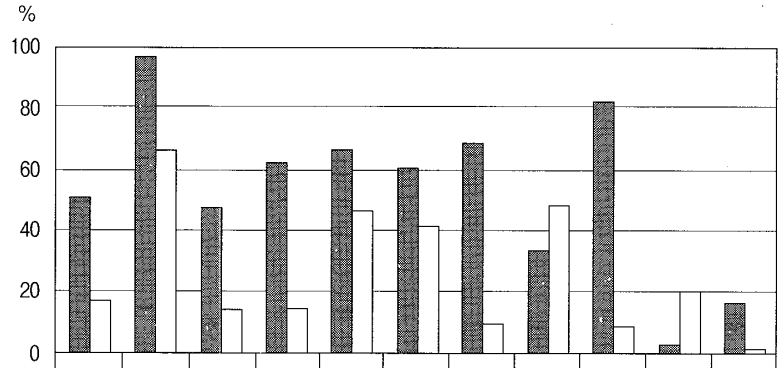
①ベトナム人の性格

「ベトナム人の性格を表していると思うものはどれですか」という質問（複数回答）では，各項目の選択が全体に拡散している。最も多かったのは「勤勉」で96.6％あるが，これはほぼ全員が回答した国民性であった。次が「明朗」で81.9％，「独創性」は67.8％，「ねばり強い」が65.8％あった。以下「淡泊」が62.4％，「親切」が60.4％，「合理的」が

49.7%，「自由を尊ぶ」が47%，「礼儀正しい」が32.9%であった（**資料3問2の(4)**：「国民性」参照）。このような結果からベトナム人は勤勉で明朗，独創的と思っていることがわかる。これも日本の『国民性調査』と比べると，「勤勉」が66%，「礼儀正しい」が48%，「ねばり強い」が46%，「親切」が41%であった（**図4－4**：「国民性」参照）。「勤勉」が両国最も多く共通するが，日本では「礼儀正しい」，「理想を求める」が，ベトナムでは「独創性」や「明朗」，「合理的」，「自由尊重」がそれぞれ多い点が注目される。日本人は刻苦勉励型で律儀なところがあり，ベトナム人は明るい現実主義者と言えるかもしれない。なお，この国民性と属性との関係では有意な結果が得られなかった。

②ベトナム人としての誇り

「あなたはどのようなとき，ベトナム人としての誇りを感じますか」という質問に対しては，「勤勉」，「正直」，「創造的」，「忍耐」，「親切」など，先の国民性を示すキーワードと同様の言葉が指摘された（**資料4の4－1**：「ベトナム人としての誇り」参照）。特に「勤勉」をあげた人が約6割と最も多く，まじめに一生懸命働く姿に自国人としての誇りを強く感じていることがわかる。



	合理的	勤勉	自由尊重	淡泊	ねばり強い	親切	独創性	礼儀正しい	明朗	理想求める	その他
ベトナム	50	97	47	62	66	60	68	33	82	2	16
日本	17	56	14	14	46	41	9	48	8	20	1

図4－4：国民性

(5)規範と価値

①概要

「社会的規範（規律）や文化的価値（しきたり）についてどう考えますか」という点について，「地域社会の価値（団結や協調など）や習慣（結婚式や葬式など）は大切なことだと思いますか」と聞いたところ，「そう思う」が98.6%で「そう思わない」人はほとんどいなかった（**資料3問2の(5)**：「規範と価値」参照）。

②地域社会の価値と習慣（自由回答）

地域社会の規範と価値についての自由回答では，「私はムオン族で，ムオン族の文化を維持しなければならない」「若い世代に伝えるために維持しなければならない」，「国

の文化が消えていくものもあるので，それを維持しなければならない」，「伝統的な習慣は価値があり，それらはけっして消えない」など，全体として規範や価値を維持し擁護する意見が多かった（**資料４の４－２**：「地域社会の価値と習慣について」参照）。それは「人々がよく生活するのを助ける」あるいは「われわれの祖先を思い出させてくれる」からで，また「人々を親密にする」という指摘も多く，「習慣がないと，われわれは発展できない」など，社会の統一性について述べる意見もある。この他「困難を分かち合う」，「困難に打ち勝つためのもの」という声もあった。しかしその一方で「人々は伝統的な価値を変え，現代社会に適応させた」面があり，「廃止すべき時代遅れのものもある」という指摘にも留意したい。

⑹一番ほしいもの

「生活するうえで，あなたが今一番ほしいもの（したいこと）は何ですか」という質問に対しては，「精神的なもの」と回答する者が５割近くいたのは意外であった（**資料４の４－３**：「一番ほしいものについて」参照）。これは生活を支えるものとして精神的な支柱を求めていると解釈できる。それはまた知的なもの（生活），知識でもある。その一方で「物質的なもの」と答える者も４割近くいた。また「社会的なもの」を求める者もいたが，これは具体的な内容が示されていないためわからないが，経済的な豊かさではない人との結びつきなど社会的な豊かさを暗示していると言えよう。

５．相互扶助について

⑴つきあい

①つきあいの深い人

「あなたは毎日家族以外にどういう人たちとつきあっていますか。最もつきあいの深い人を一つだけあげてください」という質問に対して，「親戚の人」が57.7％，以下「隣家の人」が27.5％，「仕事関係の人」が5.4％，「その他」が9.4％であった（**資料３問３の⑴の①**：「つきあいの深い人」参照）。これは社会関係の親密さについての質問であるが，親戚関係のつきあいが重視されていることがわかる。

②困ったときの相談相手

「あなたは何か困ったとき，誰に相談しますか」という質問では，「家族」が59.1％で最も多く，次が「親戚の人」で26.2％，以下「隣家の人」が5.4％，「行政（地方政府）」や「仕事関係の人（同僚）」は少なく，「隣家以外の地域の人」や「職場の上司」はなかった（**資料３問３の⑴の②**：「困ったときの相談相手」参照）。このように何か問題があると，まず身内の家族に相談している。

(2)助け合い

①互助意識

「地域住民がお互いに生活を支え合うことに対してどう思いますか」という質問に対して，「同じムラに住む者が困っているとき，助けるのはあたりまえである」という回答が59.1％で最も多く，「共助」意識の強さが示された（**資料3問3の(2)の①**：「互助意識」参照）。次が「生活に困っているのは自分の努力が足りないからで，自分で努力すべきである」という「自助」意識が27.5％あった。「生活が苦しいのは行政（国，省，地区，コミューン）の責任で，行政がきちんと対応すべきである」という「公助」意識は12.1％と低かった。ベトナム人の「助」行為観，特に「共助」意識の強さが村落（集落）全体の凝集性に表れているように思われる。

②互助態度

「それでは実際に生活に困っている人がいるとき，あなたはどうしますか」という質問では，「困っている人がいれば，すぐに手助けする」（共助）という人が最も多く67.8％あった（**資料3問3の(2)の②**：「互助態度」参照）。その一方同じ「共助」でも「自分に余裕があれば，困っている人を手助けする」という条件付き「共助」が27.5％ある。「行政がすればいいことで，自分は手助けしない」という「公助」や「自分のことは自分で解決すべきと考えるので，自分は手助けしない」という「自助」の態度を相手に求める人は少ない。

(3)互助行為

①互助行為の種類

上記の質問で「共助」の態度を示した人に対して「あなたはどのようなとき，他人の手助けをしますか」と聞いたところ（複数回答），「葬式のとき」が21.6％で最も多く，次が「結婚式のとき」で19.8％，以下「お金に困っているとき」が14％，「田植えや稲刈りなど農作業のとき」が13.8％，「屋根の葺き替えや家の修理，家を建てるとき」が10.7％，「地域社会の共同作業があるとき」が8.7％，「災害で被害に遭ったとき」が7.8％であった（**資料3問3の(3)の①**：「互助行為の種類」参照）。全体の8割の人が弔事で，また7割を超える人が慶事のとき支援の手を差し伸べている。なお田植えや稲刈り，屋根の葺き替えのときに労働力を交換する行為をユイ，地域社会の共同作業をモヤイ，葬式や結婚式のときの世話をテツダイとして日本では分類できるが（恩田，2006年）[11]，次にこの互助行為の形態についてさらに詳しく質問した。

②互助行為の交換内容

互助行為の形態について，すなわち「その手助けをヒト（労働力），モノ（物品），カネ（貨幣）で分けるとすると，どれを提供しますか」という質問（複数回答）では，「労働力を提供する」（ヒト）が最も多く49％，次が「お金をあげる」（カネ）が37.5％，「何

らかの物品を与える」（モノ）が10.3％であった（**資料３問３の(3)の②**：「互助行為の交換内容」参照）。交換の具体的なモノは農産物，特に米が多い。

③相手からの返礼期待

「助」行為の主体として「その手助けに対して相手から返礼を期待しますか」と聞いたところ，「期待する」人が50.3％，「期待しない」人が49.7％でほぼ半分ずつあった（**資料３問３の(3)の③**：「相手からの返礼期待」参照）。この返礼期待と民族，職業，収入との関係で有意な結果が得られた[02]。返礼期待と民族の関係では，ムオン族のクイバイ１とクイバイ２，タムの各村で「期待する」人が多く，キン族のタンライとタイフォン１の各村では「期待しない」人が多い（**表５－１**：「返礼期待と民族の関係」参照）。ムオン族で互助意識が強いと解釈できるが，キン族でも紅河デルタ地域のタイ村では「期待する」人が多く，いずれも共通するのは土地をもつ農民で，「互酬性」（reciprocity）による濃密な社会結合が見られると言ってもいいだろう。

これを職業別に見ると，自営業や会社員，学生では「期待しない」人のほうが多く，農民ほど互助意識は強くない（**表５－２**：「返礼期待と職業の関係」参照）。収入別では500万ドンまでと1,000万ドンまでの低所得層で「期待する」人が多く，それ以上の年収の人では「期待する」人は少ない（**表５－３**：「返礼期待と収入の関係」参照）。生活に余裕のない層ほど見返りを相手に期待するという点で互助意識が強く，余裕のある層では互助意識は希薄であることがわかる。特に3,000万ドンを超える年収がある層では，８割近くが相手からの返礼を期待していない。

表５－１：返礼期待と民族の関係

名称	タンライ	クイバイ１	クイバイ２	タンフォン１	タム	タイ	合計
期待する	8	18	15	9	13	10	73
期待しない	19	11	7	23	4	8	72
合計	27	29	22	32	17	18	145

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	20.186	5	0.001	$P<0.05$
				$P<0.01$

注：ムオン族―クイバイ1，クイバイ2，タム　　キン族―タンライ，タンフォン1，タイ

表５－２：返礼期待と職業の関係

名称	農業	自営業	会社員	自由業	主婦	学生	臨時雇用	無職	その他	合計
期待する	58	3	3	0	0	3	0	0	2	69
期待しない	39	5	5	1	1	6	3	1	11	72
合計	97	8	8	1	1	9	3	1	13	141

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	17.897	8	0.022	$P<0.05$
				$P>0.01$

表５－３：返礼期待と収入の関係

名称	500万	1,000万	1,500万	2,000万	2,500万	3,000万	3,000万上	合計
期待する	18	32	8	6	4	0	5	73
期待しない	8	17	10	14	4	1	17	71
合計	26	49	18	20	8	1	22	144

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	19.382	6	0.004	$P<0.05$
				$P<0.01$

単位：年収ドン

(4)他者からの支援

①相手への返礼の有無

先の質問では相手から返礼を期待しない人もいたが，「他人から手助けを受けたとき，あなたはどうしますか」という「助」行為の客体として相手に対する「返礼の有無」について質問したところ，「返礼をする」人が92.4％と圧倒的に多く，「返礼をしない」人は7.6％しかいなかった（**資料３問３の(4)の①**：「相手への返礼の有無」参照）。自分が他者から支援を受けたときには返礼する意識が強いことがわかる。

②返礼の内容（ヒト，モノ，カネ）

〈単純集計〉

この返礼内容をさらに詳しく知るため，「あなたは提供を受けた労働力，モノ，お金に対して，どのようにして返礼をしますか」という点について，それぞれヒト（労働力），モノ（物品），カネ（貨幣）の量と質の組み合わせで質問した（複数回答）。最も多かったのは「提供された労働力に対して，何らかの労働力で返す」（適量労働）行為で20.5％，次が「提供されたお金に対して，等しいお金で返す」（等量カネ）が16.6％あった。日本のユイのように提供された労働力に対して正確に等量の労働力を返すわけではないが，お金では同額で返している。次が「提供されたモノに対して，何らかの別のモノで返す」（適量モノ）行為が13.4％あった。これは必ずしも等質のモノを返すわけではないが，他のモノで代用してお返しすることを示している。以下「提供されたお金に対して，何らかのお金で返す」（適量カネ）が11.6％，「提供されたモノに対して，同じ分量のモノで返す」（等量モノ）が10.5％，「提供された労働力に対して，等しい分の労働力で返す」（等量労働）が10％あった（**資料３問３の(4)の②**：「返礼の内容」参照）。

このように何らかの返礼をすること自体が大切な行為とされていると言える。「提供された労働力に対して，それに見合うモノで返す」，「提供された労働力に対して，それに見合うお金で返す」，「提供されたモノに対して，それに見合う労働力で返す」，「提供されたモノに対して，それに見合うお金で返す」，「提供されたお金に対して，それに見合う労働力で返す」，「提供されたお金に対して，それに見合うモノで返す」はいずれも少ない。提供を受けた内容が労働力であれば労働力，モノであればモノ，お金であればお金というように同質の互酬性が重視され，異質のそれは少ないことがわかる。

〈多変量解析〉—数量化Ⅲ類

この返礼内容を通してヒト（労働力），モノ（物品），カネ（貨幣）という交換対象から互助行為の構造を把握するため，先の回答項目について反応した場合(1)と反応しなかった場合(0)に分け数量化Ⅲ類の手法（０－１型データ）によって分析した。この質的データを量的データに変換する分析で得られた成分を解釈すると，「成分１」では互酬性の交換対象の特性，すなわち「等量等質性」が抽出できるだろう（**図５**：「互助（互酬的）行為の構造についての数量化Ⅲ類による分析（尺度グラフ）」の**図５－１**：成分１—等量等質性」参照）[13]。これは提供を受けた「助」行為が労働力であれば等しい量の同じ労働力で返す，あるいはモノの提供を受ければ同じく等しい量のモノで，またお金を受ければ同額のお金で返すという「等量等質」の特性を示している。単純集計の結果では「提供された労働力に対して，何らかの労働力で返す」という「適量等質」の行為が一番多いが，互助行為全体の構造からは広義の「等量等質」の互酬性として解釈できるだろう。なおデプス・インタビュー調査で聞いた互助行為は，その多くが「等量等質」のものであった。

次に「成分２」は互酬性の交換特性として「等量異質性」を示している（**図５－２**：成分２—等量異質性（ヒト：労働力）」参照）。これはモノの提供を受けた場合，あるいはお金をもらったとき，その対価としてそれに等しい量の労働力が提供されることを示している。さらに「成分３」も「等量異質性」を示していると解釈できるが，特に受けた労働力に対してそれに見合う等しいモノを返す互助行為に代表される（**図５－３**：成分３—等量異質性（モノ：物品）」参照）。しかしこれらの「等量異質性」は既に述べた単純集計では少ない。ベトナムの村落でも日本のユイに相当する互酬性の構造が見ら

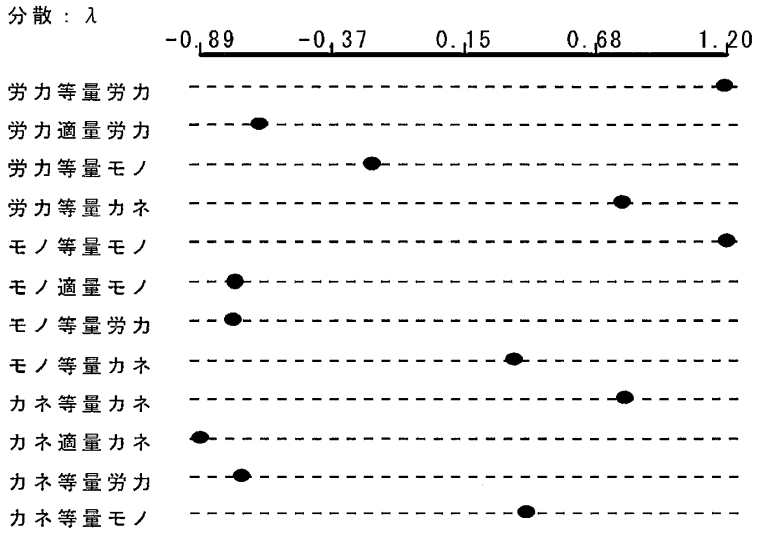


図５－１：成分１—等量等質性

れるものの，全体として「等量等質性」のうち特に「等量性」が顕著である。このような等量あるいは等質の交換行為に，地域社会の結合（集団の凝集性）を維持する農民の「生活の知恵」を読み取ることができるだろう。

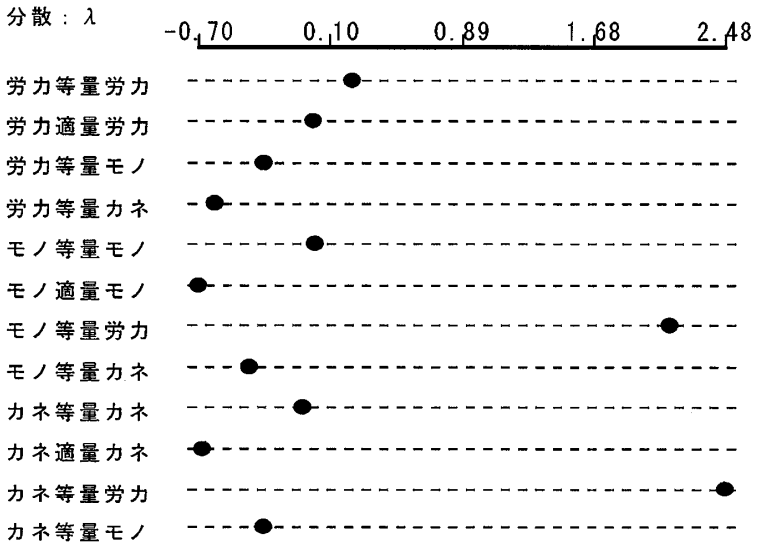


図５－２：成分２―等量異質性（ヒト：労働力）

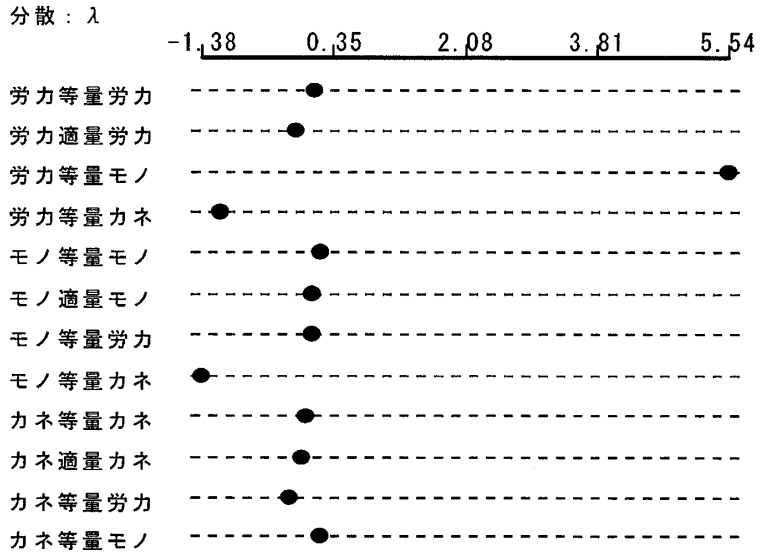


図５－３：成分３―等量異質性（モノ：物品）

図５：互助（互酬的）行為の構造についての
数量化Ⅲ類による分析（尺度グラフ）

(5)共同作業

①共同作業への参加

〈概要〉

「ムラ全体でしなければならない共同作業（村仕事）があるとき，あなたはどうしますか」と聞いたところ，「地域社会の一員として当然の義務なので参加する」が84.5％と最も多く，村民の義務意識が強いことがわかる。その一方で「参加しない代わりに別のことで責任を果たす」人も8.8％いた（**資料3問3の(5)**：「共同作業」参照）。その具体的な代償はお金である。「労働力を提供するだけの余裕がないので参加しない」はいなかった。なお「その他」は，自分は参加しないが，親や夫，妻，子供が参加するという家族対応の回答である。

〈共同作業と民族の関係〉

この共同作業と民族の関係では，有意な結果が得られた（**表5－4**：「共同作業と民族の関係」参照）[14]。クイバイ1とクイバイ2，タムの各村に住むムオン族では「参加しない代わりに別のことで責任を果たす」人が一人もいないのに対して，キン族のタンライとタイフォン1，タイの各村では不参加による代替行為をする者がいる。この点はムオン族のほうが共同作業という点から見た団結力は強いように思われる。

②共同作業の内容（デプス・インタビュー調査）

デプス・インタビュー調査によると，道路修繕などの共同作業があり，これは日本の「村仕事」にあたる。特に雨で泥濘する道路を舗装する作業は世帯毎に一人の労働力を提供する。この義務としての作業に参加しないと過怠金を払うこともあれば，特にそれを必要としないところもある。長期間かかる大きな道路補修では労賃が支払われることもあるが，労働力だけでなく自分たちでお金を一部出し自ら整備する場合もある。特に大きい道路の場合，村が所有する共有地（コモンズ）の一部を売ることでその修繕費用を捻出したり，また狭い路地の場合では各世帯50万ドン出すことがある（タイ村のキン族）。

表5－4：共同作業と民族の関係

名称	タンライ	クイバイ1	クイバイ2	タンフォン1	タム	タイ	合計
義務参加	25	27	20	25	16	12	125
不参加代替	2	0	0	6	0	5	13
その他	1	3	2	1	1	2	10
合計	28	30	22	32	17	19	148

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	20.177	10	0.028	$P<0.05$
				$P>0.01$

注：ムオン族―クイバイ1，クイバイ2，タム　　キン族―タンライ，タンフォン1，タイ

(6)互助組織

①互助組織の有無，種類，内容，参加・不参加の理由

「あなたが住んでいるところでは，お互いに生活を支え合う組織はありますか」という質問に対しては，「ある」が98％でほぼ全員が回答している。「ない」と答えた人もいたが，これは同じ村の人が「ある」と答えていることから，意識のうえでは「ない」と思って答えたものであろう（**資料3問3の(6)の①**：「互助組織の有無」参照）。「それはどういう互助組織ですか」とその種類について聞いたところ，「行政がつくった組織」が57.5％，「地域住民が自主的につくった組織」が38.6％あった（**同上(6)の②**：「互助組織の種類」参照）。具体的な活動内容について「それはどういうことをする互助組織ですか」と質問したところ（複数回答），「お金を積み立てる組織」が49.6％と最も多く，「労働力を集約する組織」が31％，「米など物を集めて分け合う組織」が11.9％あった（**同上(6)の③**：「互助組織の内容」参照）。

さらに「あなたはその互助組織に参加していますか」という参加の有無についての質問では，「参加している」が87％あり，「以前参加していたが今は参加していない」人が6.8％，「参加していない」人が6.2％であった（**同上(6)の④**：「互助組織への参加」参照）。このうち不参加の理由では，「参加するメリットがないため」と回答した人がいたが，「参加するだけのモノやカネに余裕がないため」は一人もいなかった（**同上(6)の⑤**：「互助組織不参加の理由」参照）。強制的な互助組織の場合，その離脱は難しく，不参加は非難を受けることになるが，任意の意志で加入する組織では脱退も自由である。

②互助組織の活動（デプス・インタビュー調査）

デプス・インタビュー調査で詳しく聞いたところ，ベトナムの村落には機能集団として女性や若者，退役軍人などの組織がある。特に女性と若者の組織は社会主義導入以前からある自生的な互助集団である。女性組織ではメンバーが病気あるいは子供が生まれると，2万ドンをその組織が払う（タンフォン1村のキン族）。困窮者にはそのメンバーから米や労働力の提供があり，それに対する見返りをする必要はない。またメンバーはこの組織から100万ドンを2年間無利子で借りることができ，またこの組織が保証人となり地域開発銀行から200万ドンを期間3年間利息0.5％でメンバーは借りることができる。

特に注目されるのは15歳から27歳ぐらいまでの若者が入る組織で，キン族とムオン族ともに見られる。メンバーの結婚式では一人2,000ドン出す（タンフォン1村のキン族）。その活動は道路や家の補修などで，家を建てたときの謝金は基金として積み立て，メンバーや村民が病気や葬式のときそこから見舞金や弔慰金として使われる（クイバイ1村のムオン族）。ムオン族の別の村（タム村）では15歳から25歳までの若者28人がメンバーで，その中には既婚者もいる。困窮者の農作業の手伝いや家の修理をし，月1回全員参加の会合では薬物（ドラッグ）への注意喚起や村の問題について話し合いを行っ

ている。この種の組織は日本では「若者組」として知られているが，女性には別の組織（娘組など）があった（恩田，2006年）。近代以降国策の一翼を担う組織として統制されていったが，ベトナムではこうした「若者組」が地域社会の中で重要な役割を果たしている。

また退役軍人会ではメンバーがなくなると一人2,000ドン出し，家の補修や子供の結婚式のときお互いに訪問し手伝いをする（タンフォン１村のキン族）。この他海外移住者の組織があり，これはインドシナ（抗仏）戦争を避けるためタイに移住し再び戻ってきた人たちの集団である。この移住者が多い集落では紅河デルタの農民と異なり土地をもたないため貧しく，隣人関係を大切に考えお互いに助け合っている。また50歳以上で加入する高齢者組織があり，女性組織と両方のメンバーもいる。このように世代・年齢別の機能集団が地域社会で強固な互助ネットワークを形成している。

もう一つ村落には緊密な互助組織がある。これは人民委員会とは別の独立した地縁組織で，紅河デルタのキン族の農村で見られるリンザー（*liên gia*）である。日本の「村組」にあたるが，12から15世帯で一つのグループがつくられる。リン（*liên*）は「結合」，ザー（*gia*）は「家族」を意味するため，リンザーは「隣家」の組織と言ってもよい。ここには任期１年のリーダーが一人いて，15のリンザーから構成される村には各リーダーが集まる会合がある（タイ村）。その活動は各家庭で問題があれば相談にのり，困ったことがあれば話し合いをする。また村の秩序を遵守するよう指導し，新メンバーの家にはしきたりなどを教える。さらにメンバーは利子なしでお金を借りることができる。病気や葬儀のとき相互に訪問し，葬式では各世帯３万ドン払う。道路修繕で必要なときには各世帯からリンザー単位で集金がされ，稲刈りで労働力が足りないときには労力交換をする。このように紅河デルタの村落には地縁集団の強固な互助組織が機能している。

(7)相互扶助の現状

①互助行為の現状

「相互扶助全体についてどう思いますか」と，その現状について聞いたところ，「むしろ相互扶助が増えている」が74.5%，「昔も今も相互扶助は変わっていない」が20.1%，「しだいに相互扶助が少なくなってきた」が4.7%あった（**資料３問３の(7)の①**：「互助行為の現状」参照）。全体として互助行為が増えていることがわかる。

②現状認識の理由（自由回答）

強い互助意識の声はデプス・インタビュー調査でも聞かれたが，以下質問紙調査から特徴的な意見をいくつかあげておきたい（**資料５の５－１**：「相互扶助の現状について」参照）。「多くの人が前よりも助けてくれるようになった」とする意見が多い。その理由として「人々は物質的に生活が良くなり，精神生活で他者を助けることができる」，

「人々はより多くの人に関心をもつ時間がもてるようになった」ことを述べている。その結果「人々は礼儀正しくなり，物質的な援助が人々を幸福にしている」，「社会がより良くなり，人々の知識も高くなっている」，「社会が良くなり，人々はよりまとまっている」など，知識の向上や地域住民のまとまりを指摘する者も少なくない。

また貧困層に対する情報が拡大し，人々の関心の高さを相互扶助が増えた理由とする者もいる。「困難な人についての情報を多くもつようになった」，「テレビやラジオも貧しい人を助けることを求めている」，「テレビを見たりラジオを聞いたりして，人々はより多くの知識をもつようになった。そのため彼らは他者を助けるのに心が広くなった」，「人々の知識は高くなり，政府も宣伝を多くしている」という意見があった。この他貧困者が改築資金を借りることができるようになり，「多くの人が政府から援助を受けている」，「政府は困難な人を助けるのにより良い状態にある」，「多くの共産主義の組織をもっている」など，政府の支援をあげる者もいる。その一方で「政府は貧しい人を助けるべきである」という指摘もあった。

特徴的な意見として，「相互扶助はベトナムの伝統である」，「相互扶助は村のそしてムオン族の伝統的な習慣である」など，助け合いがベトナムや民族固有の伝統的な習慣であるとする意見があり，将来の動向や自由意見の中でも同様に指摘されている点は特に注目したい。伝統であるため「相互扶助は我々が維持すべき良い行為である」，「豊かな者は貧しい者を助けるべきである」，「われわれは他者を助けなければならない村の生活がある」，「相互扶助によって生活の困難に打ち勝つ」，「相互扶助は地域社会の発展のためには非常に重要である」，「相互扶助は貧困と困難を削減する」など規範的な意見もあった。

しかしその一方で，逆に「私の家族は大変困難で，ほとんど助けてもらえない」，「人々は他者を助けることを望まない」，「地域社会の支援が減っている」など，相互扶助が減ったとする意見があり，「生活は過去ほど困難ではない」，「社会は発展し多くのお金を得ている。それ故彼らは助けを必要としない」という声もあった。相互扶助が変わらないと答えた中には，「伝統的な価値が市場経済の商業化によって失われた」ことを指摘する者もあった。

③冠婚葬祭の手伝い

葬式や結婚式のときには，８割を超える人がお互いに手伝いをする（**資料３問３の(7)の②**：「冠婚葬祭の手伝い」参照）。デプス・インタビュー調査でも，葬式や結婚式で金銭や労働力を提供する声が聞かれた。葬式のとき，各世帯１万ドン出す他に２kgの米と地酒１ボトルを持って行く（タム村のムオン族）。農地がないキン族では各家で１万ドンの弔慰金や労働力を提供する（タンフォン１村のキン族）。労働力以外に，ムオン族や土地のあるキン族は相手への返礼に金銭の他モノ（米）を，土地のないキン族では金銭を提供することが多いと言えよう。

⑻相互扶助の将来

①互助行為の将来

相互扶助の将来については，「将来相互扶助が増えていく」が65.8%，「将来も相互扶助はなくならない」が25.5%，「相互扶助がしだいに衰退していく」が6%，「その他」が2.7%であった（**資料3問3の⑻**：「相互扶助の将来」参照）。引き続き将来の地域社会も，相互扶助が増えるという意識が強い。

②将来予想の理由（自由回答）

将来相互扶助が増える理由として，生活が豊かになり，他者への支援に余裕が出てくることを指摘する意見が多い（**資料5の5－2**：「相互扶助の将来について」参照）。「人々はより豊かになり，他者を助けることができる」，「生活はより発展し，人々は他者を助ける時間とお金ができる」，また「知識がより高くなるため」，「地方の人々の知識がより良くなる」という意見もあった。その一方で「ムオンの経済はキンの経済と同じになる」という民族格差の解消を期待する声もあった。しかし依然として「村には多くの貧しい人がいるので，より多くの助けを必要とする」，「将来もベトナムは貧しい家庭をもつ」，「社会が豊かになってほしいなら，他者を助けるべきである」という意見も忘れてはならないだろう。このため「政府に誰もが生活が豊かになるようにしてもらいたい」，「政府が豊かになればお金が増え，その分貧しい人を助けるだろう」と指摘し，「わが国と党は国民を助ける政策をもつ」ことに対する期待の声もある。

総じて相互扶助の恒常的な必要性を説く声は強い。「生活は良くなるが，人々はいつでも困難を乗り越えることができるわけではないので助けを必要とする」，「社会は進歩し，人々は互いに助けを必要とする」，「相互扶助は発展にとって重要である」とする意見，また「相互扶助は国の伝統である」，「相互扶助は村の特徴である」という声があり，こうした思いがベトナム人の良い伝統的な習慣として定着していることがわかる。また「人々はより親切になる」，「生活が発展すれば，われわれはよりまとまることが必要である」，「海外のベトナム人は非常にまとまっている」など，人々の親密な結びつきについて指摘している。

逆に将来相互扶助が減るという意見には，「人々は豊かになったので，他人を助けることを必要としない」，「人々は自分自身で生活できる」という自立を指摘する一方，「人々は自分たちの家族のことしか知らない」，「人々は他者に関心をもたない」，「人々はもっと親切になるべきである」など無関心を非難する声もあった。変わらないとする意見には，「ベトナムには貧しい人が多くいる」，「社会には不平等があるから」，また「相互扶助は国の良い伝統である」，「相互扶助は国の伝統的な価値を守り維持する」というベトナムの国民性をあげる者もいた。さらにこの他「相互扶助は共産主義の発展にとって重要である」という意見もあった。

(9)相互扶助についての意見（自由回答）

「地域住民がお互いに生活を支え合う相互扶助について，あなたの考えを自由に聞かせて下さい」という質問に対しては以下のような意見があり，ここにはベトナム人特有の声が示されているように思われる（**資料5の5－3**：「相互扶助についての自由回答」参照）。何よりも相互扶助を是認する者が多く，それらは相互扶助それ自体が人間にとって必要不可欠と考える意見，またそれが生活の豊かさのために必要であるとする意見に大別される。前者は人々の社会結合にとって重要で支え合いを通して感情を分かち合う点を，また後者は相互扶助を目的手段関係から捉える意見である。既に述べたように，この他政府への要望やベトナム人の国民性を指摘する声も多い。

互助行為それ自体が人間にとって重要であるとする意見には，「相互扶助は必要である。人間は助けなしには生きられない」，「人々は一人では生きることができない」，「人々は同じ場所に住むとき，他者を助けなければならない」，「すべての人はいつでも困難な時があり得る。それ故相互扶助を必要とする」という人間の根源的な結びつきと深く関わっている。「相互扶助は人々の結合をもたらす」，「相互扶助は人々をより親密にする。それは文明社会の指標である」，「相互扶助は精神的に人々を一つにするのを鼓舞し，隣人の感情を教える。それは生活の困難に直面したとき人々を助ける」，「相互扶助は地域社会の統合を示すために重要である」，「相互扶助は働く方法を分かち合い人々をより親密にする」などの意見は人とのきずなを強調している。

他者との互酬的な関係については，「相互扶助は重要で，今日困難な人を助ければ，明日その人がわれわれを助けるだろう」，「われわれは隣人なしには生活できない。われわれは困難な状態にある人を助けるべきである。そうすればわれわれが困難なとき，その人が同じように助けてくれるだろう」という強い相互関係を指摘している。また「人々は他者を助けることで経験を分かち合うことができる」，「われわれは村に住んでいる。そのため人々は幸福なときまた悪いときをともに分かち合いながら他者を助ける必要がある」という共有体験を強調する意見は，何よりも連帯と共生に基づいている。「相互扶助は重要で，それは不幸なあるいは幸福な感情を分かち合う」，「相互扶助は悪いときと幸福なときをともに分かち合うのに必要で，精神的なものが最も重要である」，「生活において最も重要なことは精神的なもので，感情を分かち合うことである」，「相互扶助は他者の困難，悲しみ，幸福を分かち合い助けるために非常に重要である。それは人々を親しくさせ，お互いを愛し合うようにする」など，共（同）感を唱える声が多い。この他「相互扶助は共産主義の感情を維持し，人々が困難に打ち勝つことを助ける」という意見もあった。

他方相互扶助を手段とするものには，「相互扶助は生活の困難を解決し，地方経済を発展させる」，「相互扶助は人々の経済の発展を助け，社会も発展する」，「相互扶助は経済発展にとって重要であり，人々の生存は相互扶助に依存する」，「人々が他者を助け

るなら，国も豊かになり強くなる」とう意見に示され，より身近なところでは「相互扶助は生活の困難を減らすための手段である」，「村の多くの家族が貧しいので相互扶助は重要である。その支援によってこれらの家族はより良い生活ができ子供も学校に行く機会が得られる」，「相互扶助は非常に重要である。それは多くの困難な人の悪いときを乗り越え生活を改善するのを助ける」ことを主張する。さらにその物心両面の支えを指摘する「相互扶助は地域住民の物質的および精神的生活を改善する」，「相互扶助は生活の困難（物質面）に直面したとき，人々を助ける。またそれは知性（精神面）のためである」という意見にも耳を傾けたい。ここで言う精神的生活や知性とは困難に負けない心の強さを意味するものと言えよう。

ベトナムの国民性との関係では，「相互扶助はベトナムの良い伝統的な習慣である」，「相互扶助は伝統であるため重要で，維持すべきである。それは人々が困難を乗り越えるのを助ける」，「相互扶助は困難に打ち勝つ国の伝統を示す」，「相互扶助は国の伝統であり，進歩のために人々を助ける」，「相互扶助はベトナムの良い文化である。人々が助けられるなら，より良く生活するだろう」という意見があった。ベトナムの国民性は人を助けることであり，伝統的な習慣として相互扶助をもっているという意識には，ベトナム人固有の矜持がうかがえる。

これまで述べたものを含む総合的な内容もあった。「相互扶助は（人々が）まとまるため，また経済を発展させるため，生産の経験を分かち合うため必要である」，「相互扶助は貧しく困難な人を助けることで悪いときを乗り越え，経済発展の経験を分かち合い，村民がより密接になるため非常に重要である」，「経済における経験を分かち合いながら，困難な人が悪いときを乗り越えるのに相互扶助は必要である。地域社会がまとまりお互いが尊重し合うべきである」，「相互扶助は貧しく困難な人を助け，地域社会で困窮者の問題を分かち合うことで，村の関係もより親密なものになる」，「相互扶助は生活における困難，悲しみ，技術を分かち合うため非常に重要である。地方の人々は貧困を削減するために助け合っている」，「相互扶助は地域社会の感情を示し，困難に打ち勝つのを助ける」，「相互扶助は社会の困難を分かち合い，人々の感情を示す」，「私たちは一人では生きていけない。生活を維持していくことができないため，他者の助けを必要とする。それ故まず私たちは他者を助ける。幸せと悲しみを地域社会で分け合い，経済発展のための方法を分かち合う」などの意見が代表的なものである。一見豊かな国と思われている日本は，こうした互助意識から学ぶべき点が少なくない。

なお政府（行政）に対する要望もある。「多くの人は貧しく，親戚が助け地域社会も助けるが，政府はより多く関心をもつべきである」，「政府と組合の役割を発展させるべきである」，「政府は困難な人を助け，仕事を見つけるべきである」，「行政は困難な人を組織化し助けるべきである。地域社会の決定をはっきりさせ，すべての文化を維持し，すべての人はそれを尊重すべきである」，「われわれは誰とも良くやっていくべきである。

政府は人々がお互いに助け合うように多くの方法をもつべきである」,「土地を平等に分けるべきで，経済発展のためにお金を貸すべきである」という点が指摘された。

6．地域づくりについて

(1)開発の現状

①現在の状況

「現在の地域の状況をどう考えますか」という質問に対しては,「やや良い」が51.7%,「ふつう」が19.5%,「非常に良い」が18.2%,「やや悪い」が9.4%,「非常に悪い」が1.3%であった（**資料3問4の(1)の①**:「現在の状況」参照)。「やや良い」と「非常に良い」を合わせると，全体として約7割の人が「良い」としているが，これは先に述べた生活意識で8割近い人が社会に対して「満足」していることとほぼ一致している。しかしその一方で，個人レベルの生活に対する満足度では「不満」に思う人の割合は4割近くあった。

②「悪い」状態の内容

上記の質問で「やや悪い」と「非常に悪い」と答えた人に対して，その理由を聞いたところ（複数回答)，最も多いのは「上水道（飲料水)」で20%あった（**資料3問4の(1)の②**:「よくない内容」参照)。次が「産業（農業，工業)」と「雇用」でそれぞれ12%,「財政状態」,「交通」,「保健・衛生」が各10%であった。調査地は山岳地帯であるため，特に水の問題が大きいと言えよう。なお教育関連の問題を指摘する人はほとんどいなかった。

③「悪い」状態の原因

「悪い」と答えた人にその原因について，国や省，地区，コミューン（行政村）など10項目をあげ,「強くそう思う」,「そう思う」,「そう思わない」,「全くそう思わない」の4段階で評価してもらった。「国の対応が十分ではない」や「省の対応が十分ではない」,「地区の対応が十分ではない」に対して「強くそう思う」,「そう思う」と答えた人が6割から7割あり，特に一番身近な行政村である「コミューンの対応が十分ではない」と答えた人が8割あった（**資料3問4の(1)の③**:「よくない理由」参照)。「コミューン（行政村）と村（自然村）の意思疎通不足」や「行政と住民のコミュニケーションが少ない」という対話不足を指摘する声も7割を超える。「行政からの様々な規制が強い」や「地域住民の組織活動が弱い」,「地域住民の行動力が足りない」に対して「強くそう思う」,「そう思う」と答えた人は少ないが,「地域住民一人ひとりの危機意識（関心）が低い」は6割を超える人が支持している。なお「その他」では「企業もなく，貧しく，土地が小さいことを多くの者が知っている」という意見があった。

⑵開発の将来

①将来の発展

〈概要〉

「将来の発展（近代化）についてどう思いますか」という質問に対しては，「もっと開発すべきである」が66.4%，「自然に配慮して適度な開発をすべきである」が24.8%，「もうこれ以上開発すべきでない」が8.1%であった（**資料3問4の⑵の①**：「将来方向」参照）。なお，自然に対する配慮で特に環境汚染を心配する付帯意見があった（2件）。

〈将来の発展（近代化）と民族，職業の関係〉

将来の発展（近代化）では民族および職業との関係で有意な結果が得られた[15]。民族との関係では，クイバイ1，クイバイ2，タムの各村に住むムオン族では開発すべきであるとする意見が多いが，キン族のタンフォン1村では適度な開発をすべきであるとする者も多い（**表6－1**：「将来の発展（近代化）と民族の関係」参照）。タンフォン1村は土地をもたないキン族が住むため，土地を中心とした開発に対して積極的な意志が見られない。あるいは開発すべきではないという者がいるのは，土地中心の開発に対する生活上のメリットが見出せないためであろう。逆に同じキン族でも土地をもつタンライ村では開発優先を支持する者が多い。また職業との関係では，農業を営む者で適度な開発を望む者が2割を超えるのに対して，自営業や会社員はむしろ開発に対して積極的である（**表6－2**：「将来の発展（近代化）と職業の関係」参照）。学生は開発賛成派と適度な開発派が同じ割合で，両方のバランスを見据えているように思われる。

表6－1：将来の発展（近代化）と民族の関係

名称	タンライ	クイバイ1	クイバイ2	タンフォン1	タム	タイ	合計
開発すべき	22	23	16	15	14	9	99
適度な開発	4	6	4	12	1	10	37
開発しない	2	1	2	5	2	0	12
その他	0	0	0	1	0	0	1
合計	28	30	22	33	17	19	149

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	25.454	15	0.044	$P<0.05$
				$P>0.01$

注：ムオン族―クイバイ1，クイバイ2，タム　　キン族―タンライ，タンフォン1，タイ

表6－2：将来の発展（近代化）と職業の関係

名称	農業	自営業	会社員	自由業	主婦	学生	臨時雇用	無職	その他	合計
開発すべき	69	8	6	0	0	4	2	0	7	96
適度な開発	22	0	2	0	1	4	0	1	6	36
開発しない	9	0	0	1	0	1	1	0	0	12
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	100	8	8	1	1	9	3	1	14	145

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	40.457	24	0.019	$P<0.05$
				$P>0.01$

②発展の影響

〈単純集計〉

「地域が今後発展（近代化）すると，どのような影響があると思いますか」という開発の影響について聞いたところ（４段階評価），「生活が豊かになる（量的側面）」と「生活が便利（楽）になる（質的側面）」，「地域社会が元気になる」に対して「強くそう思う」，「そう思う」と答えた人が９割以上，「雇用（働き口）が増える」が８割近くあり，「自然環境が悪化するが」が７割弱，「人口が増大する」は６割弱あった。また「高齢化が進行する」が５割弱，「社会風紀が乱れる」は４割あった（**資料３問４の(2)の②**：「将来の影響」参照）。しかし「過疎化が進行する」が３割強，「ふるさと意識が薄れる」は３割で，日本の地方で言われているような影響を指摘する声は少なかった。なお「その他」では「土地が小さい」，「相互扶助が多くなる」，「人々が他者を多く助けるようになる」という意見があった。

〈多変量解析〉―数量化Ⅲ類

発展の影響について「強くそう思う」と「そう思う」，「そう思わない」と「全くそう思わない」の二つに分け，前者に反応したサンプルを属性データ（性，年齢，民族，職業，収入，学歴）とのクロス表（**表６－３**：「地域開発の影響を分析する数量化Ⅲ類のためのクロス表型データ」参照）を基に数量化Ⅲ類を使って分析した。影響の構造を見るため，変数と成分との相関係数を示す変数スコア（**表６－４**：「地域開発の影響についての数量化Ⅲ類による分析（変数スコア表）」参照）とこれを各成分ごとに示した尺度グラフから判断すると，以下のように解釈できる。成分１は社会風紀の悪化を示す値が高く全体として「地域社会の秩序」に関わる影響を，また成分２は過疎化や高齢化に対する反応が強く「地域社会の人口構成」に関わる影響を，さらに成分３は郷土意識の希薄化をめぐる「地域社会のアイデンティティ」に関わる影響を示していると言えよう（**図６**：「地域開発の影響についての数量化Ⅲ類による分析（尺度グラフ）」の**図６－１**：「成分１―地域社会の秩序」，**図６－２**：「成分２―地域社会の人口構成」，**図６－３**：「成分３―地域社会のアイデンティティ」参照）。近代化して「ふるさと意識が薄れる」ことについては「そう思わない」と「全くそう思わない」に多く反応しているものの，こうした社会意識に関わる成分も無視できないだろう。成分３は人口増加の値も高く，新住民が多くなると旧住民とのアイデンティティの相違による問題も示唆される。なおこれら三つの成分で説明力が８割を超える（累積寄与率0.824）。

以上の成分１，成分２，成分３の相互関係について，属性データ（性，年齢，民族，職業，収入，学歴）をサンプル（合計33）と見なしたスコアに基づき（**表６－５**：「地域開発の影響についての数量化Ⅲ類による分析（サンプルスコア表）」参照），各成分上の散布図を作成し特徴的なデータを通して見ることにした（**図６－４**：「数量化Ⅲ類によるサンプルスコア散布図（成分１と成分２）」および**図６－５**：「数量化Ⅲ類によるサ

表６－３：地域開発の影響を分析する数量化Ⅲ類のためのクロス表型データ

		生活豊か	雇用増加	生活便利	人口増加	地域社会元気	過疎化	高齢化	自然環境悪化	社会風紀悪化	郷土意識希薄
性	男性	72	59	71	43	70	20	39	56	35	22
	女性	71	56	71	43	70	30	29	45	27	23
年齢	10代	15	13	15	9	15	6	7	12	10	6
	20代	20	18	20	13	20	8	9	15	6	5
	30代	32	24	31	18	31	8	14	21	14	8
	40代	29	24	29	19	29	14	12	19	14	13
	50代	24	18	24	13	24	7	12	19	12	6
	60代	14	12	14	9	12	5	8	8	3	5
	70代以上	7	4	7	3	7	2	6	6	2	1
民族	キン族	77	64	78	48	76	22	37	64	45	26
	ムオン族	67	52	65	39	65	28	32	38	17	19
職業	農業	95	78	95	55	92	34	47	65	37	29
	自営業	7	7	8	6	8	1	5	6	2	1
	会社員	5	5	8	7	8	1	2	6	2	4
	公務員	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1
	自由業	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0
	主婦	9	7	9	5	9	5	4	8	6	3
	学生	3	1	3	2	3	0	2	3	2	1
	臨時雇用	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1
	無職	13	11	14	8	14	4	6	9	9	4
収入	500万ドン	27	20	25	12	27	11	15	20	9	4
	1,000万ドン	45	36	46	28	44	14	21	28	16	13
	1,500万ドン	18	14	18	12	18	8	9	11	6	6
	2,000万ドン	21	18	21	12	20	7	9	14	11	8
	2,500万ドン	8	7	8	5	8	1	5	6	7	5
	3,000万ドン	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1
	3,000万超	22	18	22	16	21	8	7	20	12	8
学歴	小卒	45	29	45	28	42	14	22	27	11	10
	中卒	56	49	56	33	55	22	26	38	29	19
	高卒	32	29	32	20	32	10	15	27	18	11
	大卒	4	4	4	2	4	2	1	4	2	2
	無学歴	2	1	2	2	2	0	2	2	0	0
	その他	4	3	3	2	5	2	3	3	2	2

表６－４：地域開発の影響についての数量化Ⅲ類による分析（変数スコア表）

変数名	成分１	成分２	成分３	成分４	成分５
生活豊か	-0.044	-0.006	-0.018	0.003	-0.015
雇用増加	-0.008	0.032	-0.006	-0.004	-0.039
生活便利	-0.034	-0.01	0.013	-0.015	-0.02
人口増加	-0.009	-0.021	0.099	-0.03	0.005
地域社会元気	-0.032	-0.008	-0.003	-0.006	-0.002
過疎化	-0.14	0.193	-0.07	0.008	0.05
高齢化	-0.05	-0.135	-0.029	0.091	0.019
自然環境悪化	0.061	-0.057	-0.02	-0.051	0.053
社会風紀悪化	0.252	0.029	-0.073	0.008	-0.02
郷土意識希薄	0.131	0.115	0.119	0.078	0.029

ンプルスコア散布図（成分１と成分３）」参照）。成分１と成分２の関係では，公務員や自由業の者が過疎化に対する危惧を強め，また収入が多く学生や公務員などある程度地域づくりについての知識があると思われる層で社会風気の悪化を懸念しているようである。成分１と成分３の関係では，公務員や会社員で収入の高い層が郷土意識が希薄になることを強く心配していることがわかる。

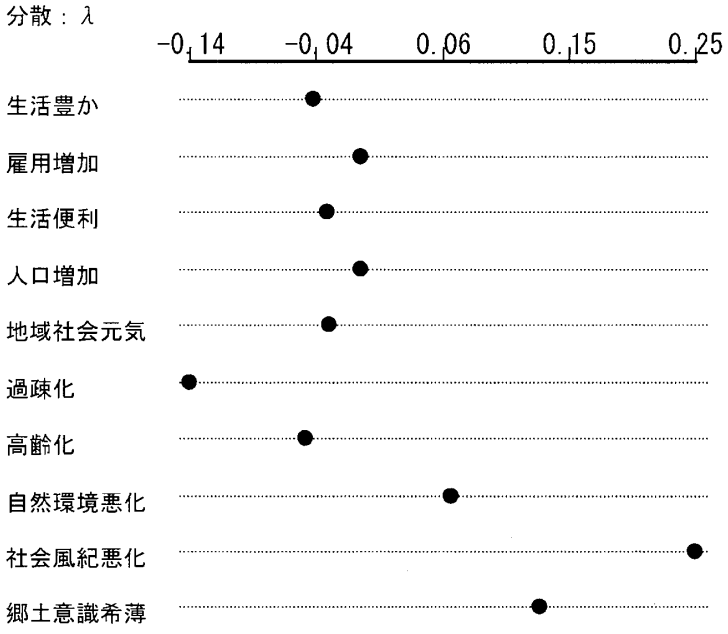


図６－１：成分１―地域社会の秩序

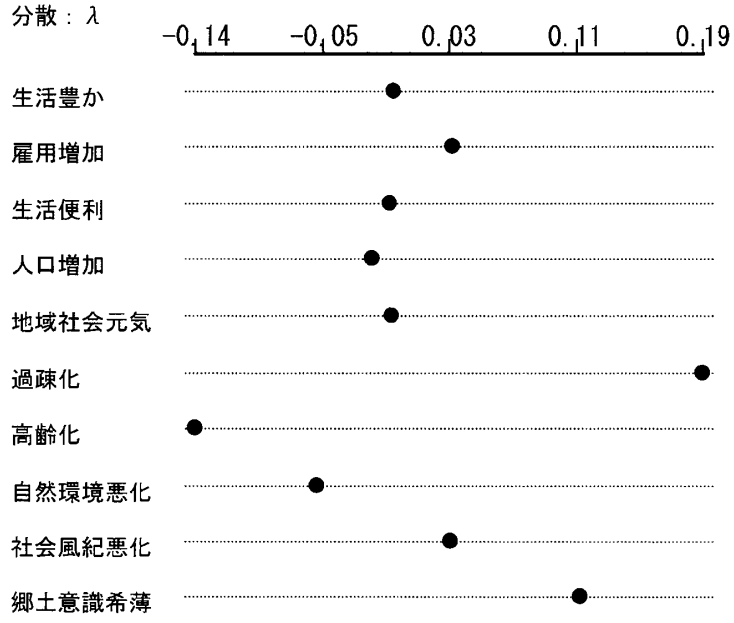


図６－２：成分２―地域社会の人口構成

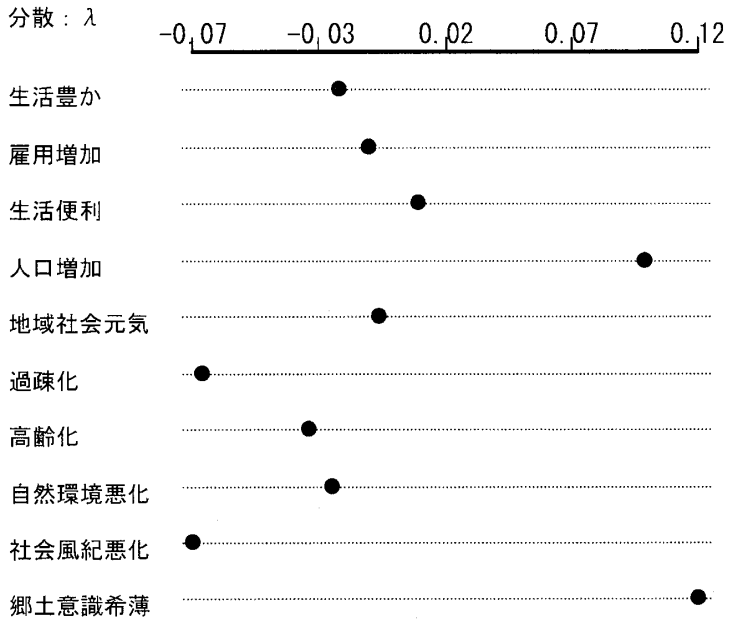


図６－３：成分３：地域社会のアイデンティティ

図６：地域開発の影響についての数量化Ⅲ類による分析（尺度グラフ）

表６－５：地域開発の影響についての数量化Ⅲ類による分析（サンプルスコア表）

サンプル名	成分１	成分２	成分３	成分４	成分５
男性	0.487	-0.81	-0.268	0.202	-0.066
女性	-0.51	0.931	0.238	-0.203	0.051
10代	1.311	0.782	-0.767	0.309	0.427
20代	-0.986	0.077	0.15	-1.421	0.276
30代	0.161	-0.639	-0.208	-0.603	-1.596
40代	0.191	1.743	0.662	0.774	0.862
50代	0.431	-0.821	-1.089	-0.62	0.084
60代	-1.324	-0.086	1.628	1.984	-0.2
70代以上	-1.261	-3.456	-2.345	2.166	3.527
キン族	1.121	-0.376	-0.287	-0.501	-0.043
ムオン族	-1.466	0.461	0.355	0.627	0.041
農業	-0.331	0.003	-0.071	0.287	-0.135
自営業	-0.911	-3.239	1.167	-1.439	-1.613
会社員	0.882	-0.287	6.513	-2.599	1.968
公務員	2.741	6.64	1.929	-0.703	5.818
自由業	-7.213	8.983	-7.144	-2.108	-6.401
主婦	0.864	1.352	-2.173	-0.645	2.75
学生	2.532	-3.902	0.446	0.342	3.008
臨時雇用	4.144	-1.517	3.854	6.489	1.525
無職	1.253	0.064	-0.884	-0.192	-2.129
500万ドン	-1.186	-0.736	-2.436	-0.247	1.263
1,000万ドン	-0.507	-0.219	0.624	-0.051	-1.183
1,500万ドン	-0.931	0.617	0.677	0.756	0.728
2,000万ドン	0.708	0.644	0.072	0.488	-1.134
2,500万ドン	3.291	-0.442	0.947	3.738	-1.474
3,000万ドン	4.144	-1.517	3.854	6.489	1.525
3,000万超	1.041	0.655	0.564	-2.612	1.36
小卒	-1.363	-0.859	0.723	-0.268	0.007
中卒	0.336	0.665	-0.453	0.37	-0.643
高卒	0.955	-0.104	-0.28	-0.654	-0.091
大卒	0.915	2.32	-0.248	-1.862	2.494
無学歴	-2.394	-7.597	2.521	-1.004	4.154
その他	0.19	0.442	-0.932	4.734	4.309

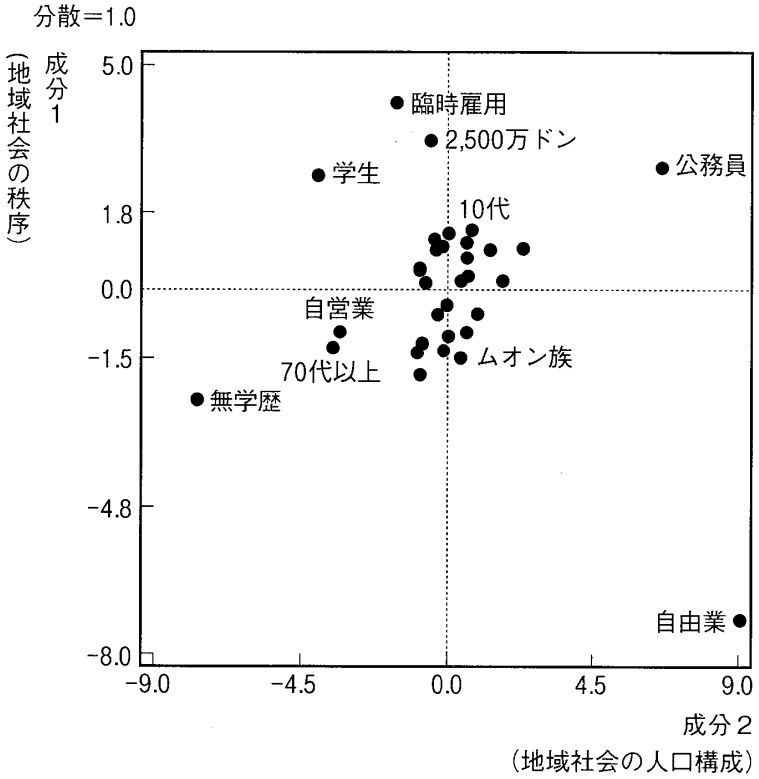


図６－４：数量化Ⅲ類によるサンプルスコア散布図（成分１と成分２）

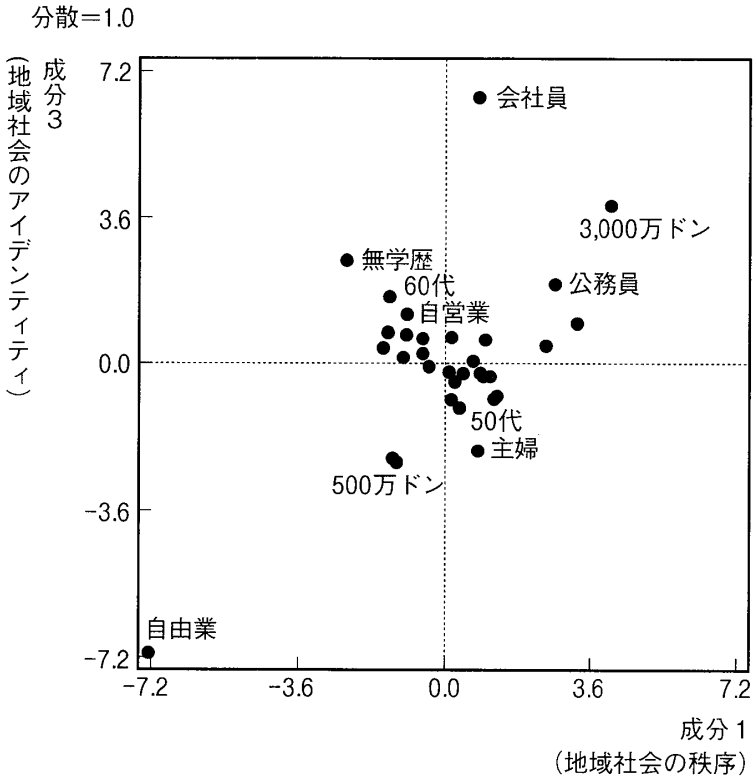


図６－５：数量化Ⅲ類によるサンプルスコア散布図（成分１と成分３）

③地域の発展と心の豊かさの関係

「地域が発展（近代化）すると，人の心の豊かさはどうなると思いますか」という問いに対しては「減らない」が75％で最も多く，「減る」が1.4％で，開発しても人の心には影響がないと考える人が多かった（**資料3問4の(2)の③**：「近代化による心の影響」参照）。なお「どちらとも言えない」が10.1％で，「その他」ではむしろ「精神的な豊かさが増える」，「精神的生活が高くなる」，「心の豊かさが増える」と答えた人がいた点に注目したい。地域開発によってむしろ精神的に充実するという指摘は先進国の反応とは異なる。これは生活技術の発展によって知識が広まり，それだけ生活にゆとりがでてくることを意味するものと思われる。

(3)地域づくりの主体

①担い手

「地域づくりは誰が中心になって進めるべきだと思いますか」という質問に対しては，「各コミューンが積極的に取り組むべきである」（公助）が20.7％で最も多く，以下「各地区の行政が積極的に取り組むべきである」（公助）が17.4％，「各自が自分のことをできる範囲でやればよい」（自助）が17.1％，「地域づくりに住民がもっと参加し協力すべきである」（共助）と「地方の省が積極的に取り組むべきである」（公助）が共に15.3％，「中央政府が積極的に取り組むべきである」（公助）が13.8％あった（**資料3問4の(3)の①**：「担い手」参照）。「その他」には「人々はただ労働力をもっているだけである」，「人々は地域のために大いに貢献すべきである」，「人々の政治的知識を向上させること」などの意見があった。

全体として身近なコミューン（行政村）レベルでの地域づくりの取り組みに期待し，またその上位の地区レベル，さらに各自が自分ですることも指摘している。すなわち身近で強力な「公助」を期待しながら，各自が自分のことをする「自助」も奨励している。なお，この地域づくりの担い手と属性との関係では有意な結果が得られなかった。住民参加が多くない点は行政からの統制が強いことを反映しているように思われるが，逆にそれだけ行政に対する期待が大きいと言えよう。

②住民参加―「共助」の取り組み

〈概要〉

特に「地域づくりに住民がもっと参加し協力すべきである」（共助）に回答した人に対してその取り組み内容を聞いたところ（複数回答），「行政機関（地区やコミューン）に対して積極的に意見を述べる」が28.8％で最も多く，次が「自分たちの地域に対する意識を高める」で20.8％あった。以下「今ある地区やコミューンの組織活動を活発にする」が17％，「行政に頼らない自分たちの自主的な活動を多くする」が14.4％，「多様な意見を吸収できる新しい住民組織をつくる」が13.3％であった（**資料3問4の(3)の②**：

「住民参加」参照)。なお「その他」には「人々は行政を信じていない」,「地域をつくるためには人々が税金を払うこと」,「村をつくるために人々が結びつくこと」,「他者からの経験に学ぶこと」,「地域住民がコミューンの計画にとって重要である」などの意見があった。特に「国家の規則に従い生活し働くこと」を指摘する人が多く,ここには社会主義的な意識が反映されているように思われる。

〈住民参加と民族の関係〉

この「共助」の取り組み(住民参加)と民族の関係では有意な結果が得られた(**表6－6**:「共助の取り組み(住民参加)と民族の関係」参照)[16]。行政への意見具申が多いのはクイバイ1とクイバイ2の各村で,ムオン族のほうが行政機関(地区やコミューン)に対する要望が強いことがわかる。住民意識の向上をあげたのはタンライ村やタンフォン1村,タイ村のキン族に比較的多く,特に都市に近いタイ村では「行政に頼らない自分たちの自主的な活動を多くする」割合が高く(25%),自立志向が見られる。なおタム村のムオン族は「その他」の回答が多く,「人々は地域の規則に従って生活すべきである」,「人々は行政の言うことをすべきである」など体制に順応する声が目立つ。ここには他村のムオン族と異なり,山岳地帯の閉鎖的な生活に向き合う保守性が見られると同時に,それだけ現状に対する奮起を促す意見が出されたものと推測される。

表6－6:住民参加と民族の関係

名称	タンライ	クイバイ1	クイバイ2	タンフォン1	タム	タイ	合計
行政へ意見	15	18	14	16	4	9	76
行政組織	11	8	9	11	4	2	45
自主活動	5	5	8	10	2	8	38
新住民組織	9	6	5	10	2	4	36
意識向上	11	11	8	14	4	7	55
その他	1	1	0	2	9	2	15
合計	52	49	44	63	25	32	265

統計量	カイニ乗	自由度	確率(P)	
	59.579	25	0	$P<0.05$
				$P<0.01$

注:ムオン族―クイバイ1,クイバイ2,タム　　キン族―タンライ,タンフォン1,タイ

(4)国際協力

①国際協力の必要性

「自分たちの地域づくりに国際協力は必要だと思いますか」という問いに対しては,「必要である」という人が92.5%,「必要ではない」という人が7.5%あった。9割を超える人が国際協力を希望している(**資料3問4の(4)の①**:「国際協力の必要性」参照)。これらは行政の力では足りないところを外部の支援に期待する声として受け止めることができる。

②国際協力の必要・不必要の理由

国際協力が必要な理由には,「先進国は豊かで,われわれが資金を得て発展するのを

支援してほしい」という主張が圧倒的に多く，「工場をつくり地方の労働（問題）を解決してほしい」，「外国からの支援によって地域が発展し，双方にとっていい結果がもたらされる」などの意見があった（**資料6の6－1**：「国際協力について」参照）。また「われわれは経済を発展させる先進国の方法を学ぶべきである」，「貿易を強化し，科学と技術を交換する」，「外資を導入するなら，地方は発展する機会が得られる」，「先進国はわれわれが学ぶべき資本と技術をもっている」，「先進国の経験を学ぶことができる」という積極的な声も目立つ。

しかし，「人々が仕事を見つけお金を得る，また心が広くなる機会をもつため」というように，単に経済的なものだけでなく，「海外から地方投資がされると，地方の人々は知識を改善することができる」という意見もあり，国際協力を受けることで心が広くなることを指摘している点は興味深い。逆に反対の理由として，「先進国はあまりにも知的でわれわれとはかけ離れているので，彼らと接触することができない」という指摘があるように，先進国が自分たちの地域とは無縁の存在のように思っているところがある。また「協力関係を築く条件がない」，「今は国際協力を受ける必要がない」，「国が自分で良くできるので，国際協力を受ける必要がない」，「他国と問題解決をする必要性があるとは思わない」という声もあった。この他，国際協力の意味がよくわからない人もいた。

③国際協力の形態

国際協力のあり方として「先進国の政府から支援を受ける」が56.1％，「先進国の政府よりもNGOの支援を受ける」が22.7％，「その他」が21.2％あった。なお，両方の形態が好ましいとする人もいた（**資料3問4の(4)の②**：「国際協力の形態」参照）。「その他」では「村にはお金がなく貯えもないが，国際協力が効果的とは言えない」，「まず国自身が発展すべきである」，「地方が世界の国と協調できる」とする意見があり，またODA（政府開発援助）とNGOの「両者を区別すべきではない」という指摘もあった。

(5)地域づくり全体について

地域づくりについての自由な意見では，「労働のために仕事をつくってほしい」，「政府は困窮者にお金を与え，経済を発展させてほしい」や「地元産業に投資するため資金を得たい」などの意見が多く寄せられた。この他「若い労働者が仕事を見つけお金を得るようにしなければならない」，より具体的に「家畜類をもてるようにしてほしい」要望もあり，「生産のために資本を提供し，輸送システムを発展させる」，「生産を発展させ経済関係を拡大する，地方の生産を伸ばすために投資する」など，総じて経済開発に関わる意見が多かった（**資料6の6－2**：「地域づくり全体について」参照）。しかしその一方で社会開発的な「豊かでない村を伸ばし，教育を発展させる」という意見もあった。特に「地方をつくるという意識を人々はもたなければならない」という指摘は人間

開発として重要である（恩田，2001年）。「地方の人々はすべて自分の故郷をつくらなければならない」という主張もあり，これは都市化の中で自分の故郷に対する意識が希薄化しているからであろう。

この他「地方政府は人々の生活を改善するため重要な役割を果たすべきである」や「行政は人々の生活に関心をもち続けるべきである」など，地方行政に対する要望も目立つ。「生活を改善し解決するためのシステムが社会の中でよく機能することを望む」，「地方の人々の知識を改善する」，「農業で科学技術を使い，農民の知識を向上させること」，「土地を平等に分割し，貧しい人々の資本を増やすこと」，「地域の人々が科学技術を自分たちで学び，それを生産につなげる」という意見もあった。「水や電気の供給システムの再構築，科学技術の生産への活用」に加えて，「人民委員会の知識の向上」を期待する声も大きい。この他「村のリーダーを訓練し，人々をよく指導できるようにすること」や「行政がもっと一生懸命働くべきである」という意見もあった。

7．ベトナム人と日本人の社会意識の比較

(1)生活意識と生活態度

①生活意識

既にベトナム人と日本人の社会意識の違いについて断片的にふれてきたが，ここでまとめて述べておきたい。生活意識という点では，ベトナムは総じて堅実な生活意欲をもっていることがうかがえる。階層意識ではほぼ8割のベトナム人が「中」意識を示しているものの，「下」意識が2割あり，日本のような9割を超えるだけの中流意識を示しているわけではない。物質的豊かさをめぐる意識では，ほぼ6割を超えるベトナム人が「ふつう」の暮らしをしていると感じているが，平均より下と考える者が2割強いる。物質面ではまだ貧困状態にあると言える。しかし精神的豊かさという点では，「良い」が8割を超え，心の面で日本の「悪い」が7割を超えるのと対照的で，物質的に豊かな先進国日本とは異なる結果が見られる。

生活に対する満足度では，全体として6割のベトナム人が満足しているものの，不満な人が4割近くいる。日本では「満足」が7割を超えるが，ここには一定の生活水準が達成されている先進国とそうでない発展途上国の違いが示されている。この点は先の物質的豊かさも同様である。その一方で社会に対する満足度では，ベトナムで世の中に対して8割近くの人が満足し不満が2割を超えるが，日本人は満足する者が3割で不満な人が7割近くあるのと対照的である。これは社会主義の体制に対する現状肯定の態度とも受け取れるが，不満を変革のエネルギーに転化する可能性は逆に少ないように思われる。この点日本では不満を自由に発露する機会が多いと言えよう。

②生活態度

「一番大切なもの（生きがい）」という点では，ベトナムで4割を超え最も多かったのは「生命・健康・自分」で，次に多かった「家族」が3割であったのに対して，日本では「家族」が4割を超え，「生命・健康・自分」が2割にとどまる。この点ベトナムの個人志向と日本の家族志向が浮き彫りになったと言ってもよいだろう。しかしその集団としての凝集性は，これまで見てきたように互助意識に表れ，ベトナムの集団志向が強いことも忘れてはならない。大切な道徳では，ベトナムで「親孝行」が7割を超え，次が「個人の権利尊重」で1割強，「恩返し」が1割弱であった。日本（2項目選択の複数回答）では同様に「親孝行」が7割を超えるが，「恩返し」も多く5割近くある点が特徴的である。両国共に「親孝行」が重要な道徳になっているが，「恩返し」という点で日本では身内の「孝」が家族志向に表われているが，他人への「忠」意識も強いことが示唆されていると言えよう。

生き方ではベトナムで「一生懸命働き，金持ちになること」が4割近く，「その日その日を，のんきにクヨクヨしないで暮らすこと」が3割近くあるのに対して，日本では「趣味」が4割近く，「のんきに」が2割強であった。ベトナム人は勤勉志向であると同時に「のんきに暮らすこと」を考える人も多く，これは先に述べたように他の東南アジアの発展途上国にも共通する現状容認の態度が示されているように思われる。途上国の経済的な豊かさ志向は根強いが，先進国日本では仕事以外の領域への関心が高く，この点は内閣府の『国民生活に関する世論調査』(2007年）でも例年「レジャー・余暇生活」に生活の力点が置かれているところからもわかる。

国民性では，ベトナムで最も多かったキーワードは「勤勉」でほぼ全員が回答した。「明朗」は回答者の8割が支持し，「独創性」も多く7割に近い。「淡泊」，「ねばり強い」，「親切」はいずれも6割であった。このような結果からベトナム人の性格が勤勉で明るいことがうかがえる。日本でも「勤勉」が6割を超え，「礼儀正しい」と「ねばり強い」が5割近くある。特にベトナムでは日本で少ない「自由を尊ぶ」ことをあげる人が多く，社会主義国のもう一つのイメージとして注目される。「あなたはどのようなとき，ベトナム人としての誇りを感じますか」という質問では，「まじめ（一生懸命)」，「勤勉」をあげる人が圧倒的に多く，一生懸命努力する姿勢にベトナム人の矜持が示されている。

また規範と価値では，地域社会の団結や協調，結婚式や葬式などの習慣を大切にしていることがわかる。さらに一番ほしいもので「精神的なもの」が「物質的なもの」を上回るほど多くあった点に注目したい。発展途上国が必ずしも物質志向でないことがわかる。これは経済の発展や開発にはむしろ社会的な要因が作用することを示唆しているように思われる（恩田，1997年：2001年）

(2)相互扶助

①互助言葉

日本では地域によって異なるが，昭和30年代から40年代頃までユイやモヤイ，テツダイという互助慣行が見られた（恩田，2006年）。ユイは等量等質の交換行為としての「互酬的行為」で，双方向の行為である。モヤイはヒト，モノ，カネを一度中央に集め，それを仲間で分け合う「再分配的行為」で，その行為の軌跡は周辺から中心に向かい，逆に中心から周辺に向かう求心性と遠心性の方向をもつ。テツダイは相手から見返りを求めない「支援〈援助〉的行為」で，一方向の行為である。

これをベトナムの互助行為に関わる言葉と比較してみたい。日本のユイ（結）に相当する言葉をベトナム語に求めると，労働交換のドイコン（*đổi công*）や金銭交換のドイティン（*đổi tiền*）からドイ（*đổi*）になるが，これは「交換」あるいは「変化」の意味をもつ。「刷新」を意味するドイモイ（*đổi mới*）のドイである。「結」の意味をもつ言葉を探すと，それはホイ（*hội*）になるだろう。これは「結社」や「社会」を意味するが，モノやカネを集団で集め順に分配する日本の無尽や頼母子のときに使われる言葉である。なおドイコンには「相互扶助」の意味があり，互助行為は労力交換が基本にあることがわかる。

語義からするとホイ（*hội*）がユイに相当する言葉としてふさわしいが，実際には日本の「金銭モヤイ」や「物品モヤイ」の意味で使われている。日本のモヤイ（催合）に相当する言葉は直接見あたらない。ホイの内容から判断すると，お互いに助け合うため集まる日本の「講」に相当する。しかしベトナムのホイにはカネ（*tiền bạc*）やモノ（*của cải*）が対象で労働力（*công sức*）の提供はないようである。すなわち日本の「労力モヤイ」のように労働力を集約して村の共有物を維持し，そのサービスを分け合う行為までこの言葉は含意していない。日本の「村仕事」に相当するベトナム語に「公共仕事」（*công việc chung*）がある。これは地域のためにする共通の仕事であるが，村落の道路修繕などの仕事で用いられる。

ベトナム語のジップ（*giùp*）は日本のテツダイに相当するだろう。「相互扶助」（*sự giùp đở lẫn nhau*）と言うとき，このジップが含まれる。これは「手助け」や「支援（援助）」を意味し，ジップドウ（*giùp đở*）やジップスク（*giùp sức*）などすべて扶助に関わる言葉につく。「支援」（*đở*）や「（能）力」（*sức*）を与えることがジップで，葬儀の手助けではジップドウが使われている。

②互助行為と互助意識

ベトナムの村落では濃密な互助行為が見られる。デプス・インタビュー調査ではホアビン省タンラク地方のキン族とムオン族で田植えや稲刈り，サトウキビの収穫のとき労働力を交換するドイコン（*đổi công*）が行われ，また借りたお金を同額返すドイティン（*đổi tiền*）もある（タンライ村のキン族）。ドイコンは1日分の労働力を等量等質

で交換する互助行為である（タム村のムオン族）。日本のユイに相当する行為は労力交換だけでなく金銭面でも行われるが，農業が機械化されていない分それだけ労働力の交換が多い。ただし土地が小さいと身内でできるため，労力交換は見られない。

日本の無尽や頼母子にあたるホイ（*hội*）の具体的な内容はどのようなものであろうか。これはタンラク地方で土地をもたないキン族ではほとんど見られないが，土地を多くもつ少数民族ムオン族で行われている。米を拠出する場合，一人年300kgの米（年２回の収穫）を12人で毎年出し合う。一度に２人がそれぞれ1,800kgずつ受け取る。残りの人も毎年同じ量の米を受け取り，日本の「物品モヤイ」のように順番が後で不利になる者がその分利息を取ることはない。家を新築あるいは修理するとき，オートバイを購入する資金が必要な者がいると，その人が優先して受け取るホイがある（クイバイ２村のムオン族）。受け取り人の決め方は紙に１と０を書き，１を引いた人がその権利を得る。ホイのメンバーは友人や親しい人で，経済的な目的だけでなく親睦を深める意味があるのは日本と共通する。ここでは経済的ネットワークというよりも社会的ネットワークとして機能している（Smith-Doerr, and Powell, 2005）。別の村ではメンバー10人で，お金は20万ドンを１年に１回出す場合とトウモロコシを１シーズン（年１回）100kg出すホイがある（タム村のムオン族）。この場合受け取る人は話し合いで決める。ホイで得たお金やトウモロコシは換金して家を建てたり，オートバイの購入，結婚式の準備などに使う。しかし非常に貧しい家では供出するものがないため，ホイには参加しない。

このような互助行為が「社会的排除」（social exclusion）ではなく，「社会的包含」（social inclusion）を生み地域社会のシステムを支えている（Crow, 2004）。その互助意識は社会環境への適応様式を示していると言える。こうした互助行為は普遍的な類型として抽出できるが，その行為の実際の表れ方は個々の社会（地域的差異）によって違いがあり，またその時代（歴史的差異）により異なる。日本的な互助行為とベトナム的なそれの違いに加え，時代によって互助行為の程度（強弱）も変わるだろう。しかしこのような時間と空間を超えた普遍的な互助行為の類型は，先の三つの「互酬的行為」，「再分配的行為」，「支援（援助）的行為」に集約できると言ってもよいだろう（恩田，2006年）。

(3)地域づくり

①住民意識

日本では地域づくりの計画（plan）を始め，実施（do），評価（see）の段階で市民参加が多く見られるようになったが（恩田，2008年a），ベトナムではこうした地域住民が参加する段階にあるとは言えない。しかし地域づくりの主体についての質問（複数回答）では，「各コミューンが積極的に取り組むべきである」（公助）とする人が回答者の９割を超え，行政村に期待する地域住民の意識は高い。また「地域づくりに住民がもっ

と参加し協力すべきである」（共助）とする人も回答者の7割近くある。この「共助」を主張した人は，住民参加についての質問（複数回答）で，行政機関（地区やコミューン）に対する積極的な意見具申（6割強）や地域住民の意識向上（5割弱）を求めている。

このような住民意識の基底には，常に生きる論理として互助精神が根強くあるように思われる。村落（ムラ）社会は互助ネットワークが容易につくられる社会である。逆に都市（マチ）社会ではそれが見出しにくい。ベトナムでは相互扶助の現状や将来についての自由回答で示されたように，依然として村落の強い凝集性が見られる。かつての冷戦構造とは異なる直接領土の拡張を伴わないアメリカニズムのグローバリゼーションの波が押し寄せるとき（Hardt and Negri, 2000），この種の団結力が果たす役割は小さくない。ベトナムでも近代化に伴う互助行為が少しずつ衰退し，それが「共助力」の弱体化につながるようなら，ローカリゼーションとして地域固有の伝統的な規範や価値を見直す必要があるだろう。

②望ましい地域づくり

人間行為の原点，すなわち相互扶助に立ち返ることで，それを地域づくりに活かすことができないだろうか。それは連帯と共生による地域社会の再生と創生である。この共生社会は「公益」でも「私益」でもない「共益」を求める「共助」から生まれる。それは結局，地域住民一人ひとりの「自助」による「助力」の向上が，地域社会全体の「共助力」の向上につながる。しかし「共助」の推進は「公助」（行政）や「私助」（民間）を否定することではない。互助社会は「公助」，「共助」，「自助」のバランスのうえに成り立つ三位一体性に基づく（恩田，2006年：2008年a）。

地域社会の開発について「地域が発展（近代化）すると，人の心の豊かさはどうなると思いますか」という質問では「減らない」が75％で，開発によっても人の心には影響がないと考える者が多かった点に注目したい。「その他」の回答でも「心の豊かさが増える」「精神生活が高くなる」「精神的な豊かさが増える」と答えた人がいるところに，ベトナム人の精神志向の社会意識がうかがえる。しかしそれはけっして物質志向を否定するものではない。この点は，地域づくりについての意見（自由回答）で経済的な豊かさを求める声が多かったところからもわかる。こうした物心両面の充実が望ましい地域づくりにつながる。

8．結語

(1)互助行為の再生

日本では衰退した強固な村落共同体がベトナムではまだ見られる。これがベトナム（抗米）戦争のとき，地域社会や兵士の強固な一体感を生み出した源泉と考えられ

る。この点明確な戦争目的をもち得なかった米軍兵士のモラールの低下とは対照的である。この集団としての凝集性の根底に互助行為があり，ムラ社会には経済的合理性とは異なる濃密な互助関係に基づく連帯と共生を求める社会的合理性があると言ってもよい。それは確かに個人的行為では得られない効果をもたらす協調行動ではあるが（Coleman, 1990），単なる利得の計算（Hechter, 1987）に基づくものではない「生活の知恵」による行為であるように思われる。特に「互酬性」に代表される互助行為は社会システムの安定化に一定の役割を果たしている（Gouldner, 1960; Sugden, 1984）。先の「返礼内容」について分析した数量化Ⅲ類で示されたように，「等量等質性」が交換行為として主要な特性を形成している。こうした互助行為は「公益」でも「私益」でもない「共益」，すなわち「共同体益」を求める行為である。

先に紹介した「相互扶助はベトナムの良い伝統的な習慣である」，「相互扶助は伝統であるため重要で，維持すべきである。それは人々が困難を乗り越えるのを助ける」，「相互扶助は困難に打ち勝つ国の伝統を示す」，「相互扶助は国の伝統であり，進歩のために人々を助ける」，「相互扶助はベトナムの良い文化である。人々が助けられるなら，より良く生活するだろう」という意見が明らかにしているように，ベトナムの伝統的な国民的慣行として相互扶助が大切にされていることがわかる。本調査によって，改めてベトナム人の「共助力」の強さが示されたと言ってもよいだろう[17]。

ベトナムでは機械化されていない農作業など，日本の昭和30年代から40年代頃まであった農村生活が見られる。日本とはほぼ50年ぐらいの時間的なズレがあるように思われる。しかしこの近代化の差異がそのまま社会関係の希薄な状態，すなわち互助意識の差異となって表れるとき，発展や開発の功罪を問う意味は大きい。互助意識が人間の生活に欠かせないものとするなら，その意識は時代を超える普遍的な社会意識と言えるが，その意識は生活構造の変化に伴い多様な表れ方をする。現在の日本では互助意識を新たなボランティア意識と呼ぶこともできるが，この種の行為を強要する恣意性が感じられるほど，逆に相互扶助が衰退しているように思われる。

(2)本当の「豊かさ」とは何か

「生活するうえで，あなたが今一番ほしいもの（したいこと）は何ですか」という質問では，「精神的なもの」と回答する者が多かった点は既に述べたが，物質的に豊かな日本がこうした精神的な支えのようなものを忘れてきた点も反省させられる。最近の食品擬装の問題に見られる企業の「営利欲」の異常な突出は，本来の資本主義の精神としてあったもう一つの柱である「隣人愛」（連帯と共生）を等閑視してきたことを如実に示している。これは己のことのみを考える「自同律」ではなく，他者と共にある「相互律」の軽視である。発展途上国の人間ほど物質志向が強いと思われがちであるが，実はそれは「豊かな国」の偏見である。筆者が少数民族ムオン族の村落でベトナム調査を始

めた頃，「女性が市場で伝統的な織物を売ろうとしない」と言う女性組織の代表者から聞いた話が印象に残っている。これは生きるための生産活動をしているためで，市場で売って得たお金で別のものを購入するという意味での「営利欲」が逆に希薄であることを示している。そこでは「隣人愛」（連帯と共生）ではなく，むしろ健全な「営利欲」を強化することが必要なのかもしれない。

質問紙インタビュー調査の属性についての質問の最後に「その他（特記事項）」の欄があり，そこには既に他の自由回答と重複するもの，また既存の互助組織に対する批判意見もあった。さらに隣人どうしがお互いに支え合う声や「われわれはまとまりがよく，他者が困っているときにはお互いに助け合う」という指摘に加え，「われわれは貧しいので，経済発展のためには行政がお金を貸すべきである」，「私の家庭は大変貧しくお金もない。親戚が唯一助けてくれる。銀行からお金が借りられるようわれわれの生活を助けてくれることを行政に期待する」という要望もあった。「精神的なもの」を求めると先に述べたが，このようにベトナム人も他の発展途上国同様「物質的な生活」を重視していることに変わりはない。それは生きるために必要なモノであり，精神面はもう一つの「生活の糧」である。この物心両面の「生活の糧」の充実こそ，本物の「豊かさ」をもたらす。

一定の生活水準を享受している日本人は常にワンランク上の生活を求めてきた。もう一度，本当の意味での「生活の糧」を考える必要があるように思われる。もちろんそれを精神的なものだけに求めることで，社会の様々な格差問題が解決するわけではない。しかし発展途上国の人々がもつおおらかさと悠久の時間の流れを思うとき，物質志向のアンバランスを再考するだけのゆとりをわれわれ日本人はもちたいものである。「豊かな国」日本が身の丈に合った生活を営むベトナムから学ぶべき点は少なくない。

〈注〉

1：ベトナムの互助意識を日本のそれと比較した互助社会論は，2007年9月開催の経済社会学会全国大会（於：神戸大学）で「互助ネットワークの国際比較―日本とベトナム―」のタイトルで発表し，『経済社会学会年報』（第30号）で「日本とベトナムの比較互助社会論」（査読付論文）としてまとめている（恩田，2008年b）。

2：当初本調査はハノイ市内居住者への郵送アンケート調査も予定していたが，この種の調査をすると回収率がきわめて低く，それに代わり得るインタビュー調査自体も困難を伴うため断念した経緯がある。

3：ハノイにある国立人文科学・社会科学センター（National Center for Social Sciences and Humanities of Vietnam）の社会学院（Institute of Sociology）のスタッフ7名の協力により，ホアビン省では3つのコミューン（行政村）で5つの村（自然村），またバクニン省では1つのコミューンで1つの村を対象にインタビューを実施した。なおこのベトナムでの調査は平成18（2006）年度第33回日本証券奨学財団の研究調査助成金によって行ったもので

ある。

4：このインタビュー調査は事前に日本語の質問紙を用意し，それを英語に翻訳してから現地でベトナム語に訳して用意した。特に質問紙イタンビュー調査では，日本語のニュアンスを正確に翻訳できたかどうか，それは質問紙のベトナム語を再度日本語訳に訳すことでチェックできるが，こうした調査票の翻訳は規模が大きく精度が高いとされる国際比較調査でも問題になることが少なくない（林，1996年，123-188頁）。

5：社会階層と収入の関係では，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）と $\alpha=0.01$（1％）のもとでともに棄却された（有意確率 $P=0$）。また学歴でも同様に棄却された（有意確率 $P=0.002$）。

6：暮らしぶりと職業および学歴の関係でそれぞれ，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）と $\alpha=0.01$（1％）のもとでともに棄却された（有意確率 $P=0.003$）。

7：生活満足度と民族の関係では，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）のもとで棄却されたが，$\alpha=0.01$（1％）のもとでは採択された（有意確率 $P=0.023$）。収入では有意水準 $\alpha=0.05$（5％）と $\alpha=0.01$（1％）のもとでともに棄却された（有意確率 $P=0$）。

8：心の豊かさと収入の関係では，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）のもとで棄却されたが，$\alpha=0.01$（1％）のもとでは採択された（有意確率 $P=0.036$）。

9：大切な道徳と職業の関係では，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）と $\alpha=0.01$（1％）のもとでともに棄却された（有意確率 $P=0.002$）。

10：生き方と年齢の関係では，有意水準 $\alpha=0.05$（5％）と $\alpha=0.01$（1％）のもとでともに棄却された（有意確率 $P=0.006$）。また職業でも同様に棄却された（有意確率 $P=0$）。さらに学歴でも同様に棄却された（有意確率 $P=0.001$）。

11：こうした相互扶助の行為については，双方向の「助」行為を「互助」とし，相手からの見返りを期待しない片（一）方向の「助」行為を「片助」として捉えることができる（恩田，2006年）。後者でも状況によっては相手に返礼をすることがあり，広義の「互助」はこの「片助」を含む。日本の「互酬的行為」のユイは「互助」に，モヤイは「共助」に相当する行為と言えるが，ここでは両者を「互助」（広義）としている。

12：返礼期待と民族の関係では，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）と $\alpha=0.01$（1％）のもとでともに棄却された（有意確率 $P=0.001$）。職業では，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）のもとで棄却されたが，$\alpha=0.01$（1％）のもとでは採択された（有意確率 $P=0.022$）。収入では，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）と $\alpha=0.01$（1％）のもとでともに棄却された（有意確率 $P=0.004$）。

13：分析としては7割から8割までの説明力をもつ成分（普通「成分3」ぐらいまで）について解釈することが一般的であるが，ここでは「成分1」から「成分3」までの累積寄与率が55.6％とそれほど高くないものの，この三つについてその有意な意味を解釈して成分として抽出することにした。

14：共同作業と民族の関係では，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）のもとで棄却されたが，$\alpha=0.01$（1％）のもとでは採択された（有意確率 $P=0.028$）。

15：将来の発展（近代化）では民族との関係で，帰無仮説は有意水準 $\alpha=0.05$（5％）のもとで棄却されたが，$\alpha=0.01$（1％）のもとでは採択された（有意確率 $P=0.044$）。また職業との関係でも同様に有意水準 $\alpha=0.05$（5％）のもとで棄却されたが，$\alpha=0.01$（1％）

のもとでは採択された（有意確率$P=0.019$）。

16：「共助」の取り組み（住民参加）と民族の関係では，帰無仮説は有意水準$\alpha=0.05$（５％）と$\alpha=0.01$（１％）のもとでともに棄却された（有意確率$P=0$）。

17：人間は環境に適応しながら固有の互助制度をつくり出してきた。この環境には自然環境（生態圏）と社会環境（生活圏）が含まれる。特に後者では，ダーウィンが『種の起源』で唱えた動植物の「自然選択（淘汰）」による生存競争を，クロポトキンが『相互扶助論』で批判した（Darwin, 1859: Kuropotkin, 1902）。しかしダーウィンの主張の中で，クロポトキンは環境への適応力の差がその結果として適所をめぐる競争をもたらすことに着目し，そこでは異種間の共生まで見られることを指摘している。相互扶助は適者生存の「自然淘汰の論理」とは異なる「連帯と共生の論理」に基づく。それは「生活の知恵」として蓄積された環境への適応力そのものと言えよう。

＜参考文献＞

Coleman, James S. 1990. 'Constitutions and the Construction of Corporate Actors', *Foundations of Social Theory*. Cambridge, Massachusetts: The Belknap Press of Harvard University Press.

Crow, Graham. 2004. 'Social Networks and Social Exclusion: an Overview of the Dabate', in C. Philipson, G. Allan, and D. Morgan(eds), *Social Networks and Social Exclusion*, pp.7-19. Aldershot:Ashgate.

Darwin, Charles. 1859. *On the Origin of Species by Means of Natural Selection or the Preservation of Favoured Races in the Struggle for Life*. London: John Murray. 八杉龍一訳，1990年『種の起源』（上）（下）岩波書店（文庫）。

Gouldner, Alvin. 1960. 'The Norm of Reciprocity: A Preliminary Statement', *American Sociological Review*, 25: 161-178.

Hardt, Michael and Negri, Antonio. 2000. *Empire*. Cambridge: Harvard University Press 水嶋一憲・酒井隆史・浜邦彦・吉田俊実訳，2003年『帝国』以文社。

林知己夫，1996年『日本らしさの構造』東洋経済新報社。

Hechter, Michael. 1987. *Principles of Group Solidarity*. Berkeley: University of California Press.

Kropotkin, Pyotr. 1902. *Mutual Aid: A Factor of Evolution*. London: Heinemann. 大杉栄訳（同時代社編集部現代語訳），1996年『相互扶助論』同時代社。

内閣府，2007年『国民生活に関する世論調査』内閣府大臣官房政府広報室。

恩田守雄，1997年『発展の経済社会学』文眞堂。

恩田守雄，2001年『開発社会学―理論と実践―』ミネルヴァ書房。

恩田守雄，2002年『グローカル時代の地域づくり』学文社。

恩田守雄，2006年『互助社会論―ユイ，モヤイ，テツダイの民俗社会学―』世界思想社。

恩田守雄，2008年a『共助の地域づくり―「公共社会学」の視点―』学文社。

恩田守雄，2008年b「日本とベトナムの比較互助社会論」『経済社会学会年報』第30号，32－49頁。

Smith-Doerr, Laurel and Powell, Walter W. 2005. 'Networks and Economic Life', *The Handbook of Economic Sociology* (Second edition), edited by Smelser, Neil J. and Swedberg,

Richard, pp.379-402. Princeton and Oxford: Princeton University Press.

Sugden, Robert. 1984. 'Reciprocity: The Supply of Public Goods through Voluntary Contributions', *The Economic Journal*, 94: 772-787.

統計数理研究所，2004年『国民性の研究（第11次全国調査）—2003年全国調査—』（研究リポート92）統計数理研究所。

Trần Tù, 1984. *Cỏ Cấu Tổ Chức Cử Làng Việt Cổ Truyền ở Bắc Bộ*. Hà Nội:Nhà Xuất Bản Khoa Học Xã Hội.

資料1－1：デプス・インタビュー調査（日本語）

1．生活・社会意識について―階層帰属意識，物質的豊かさ（暮らしぶり），生活満足度
精神的（心の）豊かさ，社会（世の中）に対する満足度

(1) あなたの今の暮らしぶりはどうですか。

(2) 生活するうえで，今何が一番問題になっていますか。

2．生活態度について―生きがい，国民性，ムラの規律やしきたり（郷約）など

(1) あなたの生きがいは何ですか。

(2) ベトナム人についてどう思いますか。

(3) 地域独自の規律やしきたり（郷約―ベトナム独自の村落の約束事）

①あなたの地域には独自の規律やしきたりがありますか。

②それについてあなたはどう思いますか。

③それを守らないとどうなりますか（村八分）。

3．相互扶助について―社会関係，互助意識，互助行為の種類と返礼
地域社会の共同作業（村仕事），互助組織
相互扶助の現状と将来

(1) あなたの日頃のツキアイ（交際）関係について教えてください。

(2) あなたは生活や仕事で困ったときはどうしますか。

(3) あなたの地域ではお互いに助け合うことがありますか。

(4) 互助行為の種類について

①ユイについて

〈1〉お互いに労働力を提供し合うことはありますか。

〈2〉それはどんなときですか。

②モヤイについて

〈1〉村全体で仕事をするときはありますか。

〈2〉それはどんなときですか。

〈3〉村全体の仕事に参加しないとどうなりますか。何らかの罰則がありますか。

〈4〉共有地(コモンズ)はどんなものがありますか。その維持管理はどうしていますか。

〈5〉お互いに労働力を出し合って，順にメンバーがもらうような仕組みがありますか。その仕組みはどうなっていますか（労力モヤイ)。

〈6〉お互いにモノを出し合って，順にメンバーがもらうような仕組みがありますか。その仕組みはどうなっていますか（物品モヤイ)。

〈7〉お互いにお金を出し合って，順にメンバーがもらうような仕組みがありますか。その仕組みはどうなっていますか（金銭モヤイ)。

③テツダイについて

〈1〉冠婚葬祭では手伝うことがありますか。

〈2〉それはどのようにして手伝いますか。

(5) お手伝いをしてもらったとき，その相手に返礼をしますか。
①すぐにしますか，後日しますか。それともしませんか。

②それはどのようにしますか（ヒト，モノ，カネの提供）。

(6) お互いに助け合う組織について
①互助組織はありますか（互助組織の有無）。

②それはどういう組織ですか（互助組織の内容）。

③あなたはその組織にどのように関わっていますか。

(7) 日本には生活に困った人を山や島のコモンズ（共有地）に住まわせ，そこで生活を　立ち直らせることが行われてきました。あなたの地域社会ではそういうことがありますか（「困窮島」，「山上がり」など）。

(8) 相互扶助の将来方向について

4．地域づくり（開発）について―現在の状況，将来の方向，国際協力
(1) 地域づくりの現在の状況について
①地域づくり（開発）の現況についてどう思いますか。

②地域づくり（開発）について何か問題点がありますか。

(2) 地域づくりの将来方向について
①地域づくり（開発）の将来，望ましい方向についてどう思いますか。

②地域づくり（開発）の解決策（課題）について何かありますか。

_____

(3) 国際協力についてどう思いますか。

_____

5．フェイスシート（すべて具体的に記入）

(1) 性別 _____

(2) 年齢 _____

(3) 住所（行政区）

①コミューン（行政村）_____

②サー（自然村） _____

(4) 家族構成（世帯人員数，あなたを含めて）_____人（内子供の人数_____人）

(5) 職業 _____

(6) 収入

①あなたの収入（年収，過去１年間）_____ドン

②世帯全体の収入（年収，過去１年間） _____ドン

(7) 学歴 _____

(8) その他（特記事項）

_____

資料１－２：デプス・インタビュー調査（ベトナム語）

Phỏng vấn sâu về sự giúp đỡ lẫn nhau

Câu hỏi 1. Về cuộc sống
(1) Ông (bà) bằng lòng như thế nào với cuộc sống hiện tại?

(2) Điều gì là quan trọng nhất trong nghề nghiệp mưu sinh của Ông (bà)?

Câu hỏi 2. Sự tiếp cận cuộc sống, luật tục xã hội và tập quán ở địa phương
(1) Ông (bà) tuân thủ những điều gì trong cuộc sống?

(2) Ông (bà) có thể miêu tả đặc tính của người Việt Nam như thế nào?

(3) Quan điểm về chuẩn mực xã hội và giá trị văn hóa để duy trì địa phương ta?
① Ông (bà) có quy tắc xã hội đặc biệt để duy trì sự đoàn kết và hợp tác của cộng đồng như sự hiếu thảo với cha mẹ hay như sự thành công của tập quán trong việc tổ chức các đám hiếu, hỉ?

② Ông (bà) có nghĩ rằng những quy tắc và tập quán truyền thống là cần thiết cho đời sống xã hội?

③ Điều gì sẽ xẩy ra nếu con người không tuân theo quy tắc hoặc tập quán xã hội? Thực tế thì các tập quán này có bị tẩy chay trong cộng đồng của Ông (bà) không?

Câu hỏi 3. Sự giúp đỡ lẫn nhau tại địa phương
(1) Ông (bà) nghĩ như thế nào về mối liên hệ của mình với người địa phương?

(2) Ai sẽ giúp đỡ Ông (bà) nếu Ông (bà) gặp khó khăn trong cuộc sống?

(3) Địa phương của Ông (bà) có cơ chế giúp lẫn đỡ nào không?

(4) Các hình thức giúp đỡ
① Trao đổi lẫn nhau
<1> Ông bà có tham gia nhóm giúp đỡ lẫn nhau bằng hình thức đổi công không?

<2> Xin miêu tả chi tiết nếu câu trả lời là "có"

② Phân phối lại
<1> Bất cứ công việc nào của cộng đồng cũng được thực hiện bởi các thành viên của cộng đồng?

<2> Xin miêu tả chi tiết nếu câu trả lời là "có"

<3>
Có bất kỳ hình thức trừng phạt nào?

<4> Có hình thức sở hữu công cộng nào tại địa phương?
Tài sản được sở hữu công cộng?

<5> Có thể chế xã hội nào mà thông qua đó một số thành viên của cộng đồng có thể tập trung và phân phối lại lao động với các thành viên khác khi cần thiết không?

<6> Có thể chế xã hội nào mà thông qua đó một số thành viên của cộng đồng có thể tập trung và phân phối lại của cải với các thành viên khác khi cần thiết không?

<7> Có thể chế xã hội nào mà thông qua đó một số thành viên của cộng đồng có thể tập trung và phân phối lại của cải với các thành viên khác khi cần thiết không?

③ Giúp đỡ nhau theo một hướng duy nhất
<1> Ông (bà) có giúp đỡ người khác trong các đám hiếu, hỉ của họ không?

<2> Xin miêu tả chi tiết về hình thức giúp đỡ (Nếu trả lời là "có" ở câu hỏi trên)

(4) Nếu những người khác trong địa phương đã giúp đỡ Ông (bà) , Ông (bà) có nghĩa vụ giúp đỡ lại họ không?
① Có giới hạn đặc biệt nào để làm như vậy không? (Dành cho người trả lời "có" ở câu hỏi (4)

② Nếu như vậy, xin miêu tả chi tiết về việc Ông (bà) đã giúp lại họ như thế nào? (Dành cho người trả lời "có" ở câu hỏi (4)

(5) Các tổ chức dành cho sự giúp đỡ lẫn nhau?
① Có bất kỳ tổ chức nào cho sự giúp đỡ lẫn nhau tại địa phương không?

② Xin miêu tả chi tiết ? (Dành cho người trả lời "có" ở câu hỏi ①

③ Ông (bà) có tham gia vào tổ chức này (hoặc có lợi ích) dưới bất kỳ hình thức nào không?

(6) Ở Nhật Bản, có thể chế xã hội mà những người nghèo có thể sử dụng các tài sản chung như núi và đảo để tổ chức cuộc sống của họ bằng sự giúp đỡ của nhân dân địa phương. Có một thể chế nào tương tự để giúp đỡ người nghèo ở địa phương của Ông (bà) không?

(7) Ông (bà) nghĩ như thế nào về tương lai của sự giúp đỡ lẫn nhau ở địa phương ta?

Câu hỏi 4. Xây dựng địa phương

(1) Sự phát triển hiện nay của địa phương

① Ông (bà) nghĩ như thế nào về thực trạng phát triển của địa phương?

② Các khó khăn mà địa phương ta gặp phải trong quá trình phát triển là gì?

(2) Ông (bà) nghĩ như thế nào về sự phát triển trong tương lai của địa phương?

① Địa phương ta sẽ phát triển như thế nào trong tương lai?

② Các đáp án để giải quyết các vấn đề của địa phương là gì?

(3) Ông (bà) nghĩ như thế nào về sự cần thiết hợp tác quốc tế trong lĩnh vực viện trợ tài chính, kỹ thuật?

Câu hỏi 5. Về bản thân người trả lời

(1) Giới tính 1. Nam 2. Nữ

(2) Tuổi 11-20 21- 30 31-40 41-50 51-60 61-70 71-80 trên 80

(3) Địa chỉ

① Xã

② Làng

(4) Số hộ gia đình.....(Số con.....)

(5) Nghề nghiệp

1. Nông nghiệp 2. Công việc độc lập 3. Làm công ăn lương 4. Văn phòng
5. Hoạt động chính trị độc lập 6. Nội trợ 7. Sinh viên, học sinh
8. Bán thất nghiệp 9. Thất nghiệp
10. Khác (Ghi cụ thể).....

(6) Thu nhập

① Thu nhập hàng năm của bản thân Ông (bà).....đồng

② Thu nhập của cả gia đình.....đồng

(7) Giáo dục cơ bản:

Những ý kiến riêng: .....
.....
.....
.....
.....

Xin cảm ơn Ông (bà) đã tham gia cuộc phỏng vấn

資料２－１：質問紙インタビュー調査（日本語）

「ベトナム生活実態」アンケート調査

以下，個別記入項目以外は該当するところに○印をつけてご回答ください。その他の場合は具体的に書いてください。

問１．あなたの生活について聞きます。

(1) ベトナムの社会を五つの層に分けるとすると，あなたの家はこのどれに入りますか。

１．上　２．中の上　３．中の下　４．下の上　５．下の下

(2) あなたの家の暮らしぶり（暮らし向き）はどの程度ですか。

１．非常に豊か　２．やや豊か　３．ふつう　４．やや貧しい　５．非常に貧しい

(3) あなたは今の生活に満足していますか。

１．非常に満足　２．やや満足　３．やや不満　４．非常に不満

(4) 心の豊かさという点で，現在のベトナムはどれに当てはまると思いますか。

１．非常に良い　２．やや良い　３．やや悪い　４．非常に悪い

(5) あなたは社会（世の中）に対して満足していますか。

１．非常に満足　２．やや満足　３．やや不満　４．非常に不満

問２．あなたの生活態度や地域社会の規律，しきたり（郷約）について聞きます。

(1) あなたにとって一番大切なもの（生きがい）は何ですか。

１．生命・健康・自分　２．子供　３．家族　４．家・先祖　５．金・財産
６．愛情・精神　7．仕事・信用　8．国家・社会　9．その他（＿＿＿＿＿＿）

(2) あなたは次のうちどれが最も大切な道徳だと考えますか。

１．親孝行をすること　２．恩返しをすること　３．個人の権利を尊重すること
４．自由を尊重すること　５．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）

(3) 次にあげるもののうちどれが一番あなた自身の気持ち（生き方）に近いですか。

１．一生懸命働き，金持ちになること。　２．まじめに勉強して，名をあげること。
３．金や名誉を考えずに，自分の趣味にあった暮らし方をすること。
４．その日その日を，のんきにクヨクヨしないで暮らすこと。
５．世の中の正しくないことを除き，どこまでも清く正しく暮らすこと。
６．自分のことを考えずに，社会のためにすべてを捧げて暮らすこと。
７．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

(4) ベトナム人についてどう考えますか。

①次のうち，ベトナム人の性格を表していると思うものはどれですか。(複数回答)

1．合理的　2．勤勉　3．自由を尊ぶ　4．淡泊　5．ねばり強い　6．親切
7．独創性に富む　8．礼儀正しい　9．明朗　10．理想を求める
11．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

②あなたはどのようなとき，ベトナム人としての誇りを感じますか。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(5) 社会的規範（規律）や文化的価値（しきたり）についてどう考えますか。

①地域社会の価値（団結や協調など）や習慣（結婚式や葬式など）は大切なことだと思いますか。

1．そう思う　2．そう思わない

②地域社会の価値や習慣について，あなたの考えを自由に聞かせて下さい。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(6) 生活するうえで，あなたが今一番ほしいもの（したいこと）は何ですか。(自由回答)

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問3．あなたが住む地域社会の相互扶助について聞きます。

(1) 日頃のおつきあいについてどう考えますか。

①あなたは毎日家族以外にどういう人たちとつきあっていますか。最もつきあいの深い人を一つだけあげてください。

1．隣家の人　2．親戚の人　3．隣家以外の地域の人　4．仕事関係の人
5．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）　6．特につき合っていない

②あなたは何か困ったとき，誰に相談しますか。

1．家族　2．親戚の人　3．隣家の人　4．隣家以外の地域の人
5．仕事関係の人（同僚）　6．職場の上司　7．行政（地方政府）
8．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）　9．相談する人がいない

(2) 地域社会の助け合いについてどう考えますか。

①地域住民がお互いに生活を支え合うことに対してどう思いますか。

1．生活が苦しいのは行政（国，省，地区，コミューン）の責任で，行政がきちんと対応すべきである（公助）。
2．同じムラに住む者が困っているとき，助けるのはあたりまえである（共助）。

3．生活に困っているのは自分の努力が足りないからで，自分で努力すべきである（自助）。
4．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

②それでは実際に生活に困っている人がいるとき，あなたはどうしますか。
1．困っている人がいれば，すぐに手助けする（共助）。
2．自分に余裕があれば，困っている人を手助けする（共助）。
3．行政がすればいいことで，自分は手助けしない（公助）。
4．自分のことは自分で解決すべきと考えるので，自分は手助けしない（自助）。
5．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

(3) 以下，上記(2)の②の質問で1と2に答えた人に聞きます。それ以外の人は(4)の質問に進んでください。
①あなたはどのようなとき，他人の手助けをしますか（複数回答）。
1．田植えや稲刈りなど農作業のとき
2．屋根の葺き替えや家の修理，家を建てるとき
3．お金に困っているとき　4．地域社会の共同作業があるとき
5．災害で被害に遭ったとき　6．葬式のとき　7．結婚式のとき
8．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

②その手助けをヒト（労働力），モノ（物品），カネ（貨幣）で分けるとすると，どれを提供しますか。
1．労働力を提供する。
2．何らかの物品を与える。（具体的に何を＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
3．お金をあげる。
4．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

③その手助けに対して相手から返礼を期待しますか。
1．期待する。　2．期待しない。

(4) 他人から手助けを受けたとき，あなたはどうしますか。
①手助けをしてくれた相手に対して返礼をしますか。
1．返礼をする。 2．返礼をしない。

次の質問は上記の①で1に答えた人に聞きます。それ以外の人は(5)の質問に進んでください。
②あなたは提供を受けた労働力（1－4），モノ（5－8），お金（9－12）に対して，どのようにして返礼をしますか（複数回答）。
1．提供された労働力に対して，等しい分の労働力で返す。
2．提供された労働力に対して，何らかの労働力で返す。

3．提供された労働力に対して，それに見合うモノで返す。
4．提供された労働力に対して，それに見合うお金で返す。
5．提供されたモノに対して，同じ分量のモノで返す。
6．提供されたモノに対して，何らかの別のモノで返す。
7．提供されたモノに対して，それに見合う労働力で返す。
8．提供されたモノに対して，それに見合うお金で返す。
9．提供されたお金に対して，等しいお金で返す。
10．提供されたお金に対して，何らかのお金で返す。
11．提供されたお金に対して，それに見合う労働力で返す。
12．提供されたお金に対して，それに見合うモノで返す。
13．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

(5) ムラ全体でしなければならない共同作業（村仕事）があるとき，あなたはどうしますか。
1．地域社会の一員として当然の義務なので参加する。
2．労働力を提供するだけの余裕がないので参加しない。
3．参加しない代わりに別のことで責任を果たす。（具体的に何で＿＿＿＿＿＿）
4．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

(6) 互助組織についてどう考えますか。
①あなたが住んでいるところでは，お互いに生活を支え合う組織はありますか。
1．ある　2．ない

上記①の質問で1に答えた人に対して②から④の質問をします。2に答えた人は(7)の質問に進んでください。

②それはどういう互助組織ですか。
1．地域住民が自主的につくった組織　2．行政がつくった組織
3．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

③それはどういうことをする互助組織ですか。
1．米など物を集めて分け合う組織　2．お金を積み立てる組織
3．労働力を集約する組織
4．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

④あなたはその互助組織に参加していますか。
1．参加している。2．以前参加していたが今は参加していない。
3．参加していない。

⑤上記④の質問で２と３に答えた人に聞きます。その理由は何ですか。
１．参加するだけのモノやカネに余裕がないため。　２．参加するメリットがないため。
３．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

(7)　地域社会の相互扶助の現状についてどう考えますか。
①相互扶助全体についてどう思いますか。
１．しだいに相互扶助が少なくなってきた。　２．昔も今も相互扶助は変わっていない。
３．むしろ相互扶助が増えている。
４．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

②上記①の回答理由について聞かせてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③葬式や結婚式のお手伝いについてはどうですか。
１．今もお手伝いをする　２．かつてあったが今はしない
３．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

(8)　地域社会の相互扶助の将来についてどう考えますか。
①相互扶助全体についてどう思いますか。
１．相互扶助がしだいに衰退していく。　２．将来も相互扶助はなくならない。
３．将来相互扶助が増えていく。
４．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

②上記①の回答理由について聞かせてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(9)　地域住民がお互いに生活を支え合う相互扶助について，あなたの考えを自由に聞かせて下さい。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問４．地域づくりについて聞きます。
(1)　あなたが住む地域の開発についてどう考えますか。
①現在の地域の状況をどう思いますか。
１．非常に良い　２．やや良い　３．ふつう　４．やや悪い　５．非常に悪い

②上記①の質問で４と５に答えた人に聞きます。どのようなところがよくない（遅れている）と思いますか（複数回答）。１と２，３に答えた人は(2)の質問に進んでく

ださい。

1．産業（農業，工業） 2．地場産業（伝統的な産業） 3．雇用 4．財政状態
5．道路 6．交通 7．電気 8．上水道（飲料水） 9．トイレ（下水道）
10. 医療 11. 保健・衛生 12. 教育（小学校，中学校の初等教育）
13. 中等教育（高等学校） 14. 高等教育（大学）
15. 専門教育（専門学校，職業訓練校） 16. 自然環境 17. 社会風紀（社会環境）
18. 地域の住民組織 19. 地域住民の郷土（ふるさと）意識
20. その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

③上記の停滞の原因は何だと思いますか（以下の4段階の一つにお答えください）。

	強くそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
1．国の対応が十分ではない。	1	2	3	4
2．省の対応が十分ではない。	1	2	3	4
3．地区の対応が十分ではない。	1	2	3	4
4．コミューンの対応が十分ではない。	1	2	3	4
5．行政からの様々な規制が強い。	1	2	3	4
6．コミューン(行政村)と村(自然村)の意思疎通不足。	1	2	3	4
7．行政と住民のコミュニケーションが少ない。	1	2	3	4
8．地域住民の組織活動が弱い。	1	2	3	4
9．地域住民の行動力が足りない。	1	2	3	4
10. 地域住民一人ひとりの危機意識(関心）が低い。	1	2	3	4
11. その他（具体的に）				

---

(2) 自分たちの地域の将来についてどう考えますか。

①将来の発展（近代化）についてどう思いますか。

1．もっと開発すべきである。
2．自然に配慮して適度な開発をすべきである。
3．もうこれ以上開発すべきでない。
4．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

②地域が今後発展（近代化）すると，どのような影響があると思いますか（以下の4段階の一つにお答えください）。

	強くそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
1．生活が豊かになる（量的側面）。	1	2	3	4
2．雇用（働き口）が増える。	1	2	3	4
3．生活が便利（楽）になる（質的側面）。	1	2	3	4
4．人口が増大する。	1	2	3	4
5．地域社会が元気になる。	1	2	3	4

6．過疎化（人口減少）が進行する。 1 _____2 _____3 _____4
7．高齢化（高齢者の割合増加）が進行する。 1 _____2 _____3 _____4
8．自然環境が悪化する。 1 _____2 _____3 _____4
9．社会風紀が乱れる。 1 _____2 _____3 _____4
10．ふるさと意識が薄れる。 1 _____2 _____3 _____4
11．その他（具体的に_____）

③地域が発展（近代化）すると，人の心の豊かさはどうなると思いますか。
1．減る。　2．減らない。　3．どちらとも言えない。

(3) 地域づくり（開発）の主体についてどう考えますか。
①地域づくりは誰が中心になって進めるべきだと思いますか。
1．中央政府，省，地区，コミューン）が積極的に取り組むべきである（公助）。
2．地方の省が積極的に取り組むべきである（公助）。
3．各地区の行政が積極的に取り組むべきである（公助）。
4．各コミューンが積極的に取り組むべきである（公助）。
5．地域づくりに住民がもっと参加し協力すべきである（共助）。
6．各自が自分のことをできる範囲でやればよい（自助）。
7．その他（具体的に_____）

②上記①の質問で5に答えた人に聞きます。住民はどのように地域づくりをすべきだと思いますか（複数回答）。それ以外の人は(4)の質問に進んでください。
1．行政機関（地区やコミューン）に対して積極的に意見を述べる。
2．今ある地区やコミューンの組織活動を活発にする。
3．行政に頼らない自分たちの自主的な活動を多くする。
4．多様な意見を吸収できる新しい住民組織をつくる。
5．自分たちの地域に対する意識を高める。
6．その他（具体的に_____）

(4) 国際協力についてどう考えますか。
①自分たちの地域づくりに国際協力は必要だと思いますか。
1．必要である。　2．必要ではない。

②上記①の回答理由について聞かせてください。

_____

③上記①の質問で1に答えた人に聞きます。それではどのような国際協力（援助）が必要ですか。2に答えた人は，(5)の質問に進んでください。
1．先進国の政府から支援を受ける。　2．先進国の政府よりもNGOの支援を受ける。

3．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

(5) 地域づくりについて，あなたのお考えを自由に聞かせ下さい。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問5．あなた自身のことについて聞きます。

(1) 性別　1．男性　2．女性

(2) 年齢

1．10代　2．20代　3．30代　4．40代　5．50代　6．60代
7．70代　8．80歳以上

(3) 住所（行政区）

①コミューン（行政村）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
②サー（自然村）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(4) 家族構成（世帯人員数，あなたを含めて）＿＿＿＿人（内子供の人数＿＿＿人）

(5) 職業

1．農業　2．自営業　3．会社員　4．公務員　5．自由業　6．主婦　7．学生
8．臨時雇用・パート・アルバイト　9．無職　10．その他 ＿＿＿＿＿＿

(6) 収入

①あなたの収入（年収，過去1年間）＿＿＿＿＿＿＿＿ドン
②世帯全体の収入（年収，過去1年間）＿＿＿＿＿＿＿＿ドン

(7) 学歴

1．小学校卒　2．中学校卒　3．高等学校卒　4．大学卒
5．学校に行かなかった（学歴なし）　6．その他 ＿＿＿＿＿＿

(8) 居住年数（何年ここに住んでいますか）＿＿＿＿＿＿年

(9) その他（特記事項）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご協力ありがとうございました。

資料２－２：質問紙インタビュー調査（ベトナム語）

BẢNG PHỎNG VẤN CÁ NHÂN VỀ SỰ GIÚP ĐỠ LẪN NHAU

Kính thưa Ông (bà): được sự đồng ý của chính quyền địa phương, chúng tôi đang tiến hành nghiên cứu chủ đề ***"Sự giúp đỡ lẫn nhau trong cộng đồng"*** *xin Ông (bà) vui lòng trả lời các câu hỏi sau đây. Chúng tôi xin phép không ghi tên người trả lời và nội dung các câu trả lời chỉ phục vụ cho mục đích nghiên cứu khoa học.*

CÂU HỎI NHÓM I: VỀ CUỘC SỐNG

(1) Xin Ông (bà) tự xếp hạng kinh tế của gia đình ta?
1. Giàu có 2. Khá giả 3. Trung bình 4. Nghèo 5. Đói
(2) Xin Ông (bà) tự xếp hạng thu nhập của gia đình ta?
1. Cao 2. Trên trung bình 3. Trung bình 4. Dưới trung bình 5. Rất thấp
(3) Ông (bà) có bằng lòng với cuộc sống hiện tại của mình không?
1. Rất bằng lòng 2. Một số điều bằng lòng 3. Một số điều kbl 4. Rất không bằng lòng
(4) Ông (bà) nghĩ gì về xã hội Việt Nam từ cái nhìn phong phú nhất về tinh thần?
1. Rất giàu 2. Giàu có mức độ 3. Nghèo có mức độ 4. Rất nghèo
(5) Ông (bà) có bằng lòng với Nhà nước và xã hội Việt Nam nói chung?
1. Rất bằng lòng 2. Một số điều bằng lòng 3. Một số điều kbl 4. Rất không bằng lòng

CÂU HỎI NHÓM II: TIẾP CẬN CUỘC SỐNG, LUẬT LỆ XÃ HỘI VÀ TẬP QUÁN XÃ HỘI

(1) Theo Ông (bà) điều gì là quan trọng nhất?
1. Cuộc sống, sức khoẻ và bản thân 2. Con cái 3. Gia đình 4. Nhà cửa và tổ tiên
5. Tiền bạc và nghèo khổ 6. Được yêu mến và kính trọng 7. Đảm bảo công việc
8. Nhà nước và xã hội 9. Khác (Ghi cụ thể) .....
(2) Theo Ông (bà) giá trị đạo đức nào sau đây là quan trọng nhất?
1. Con cái hiếu thảo với cha mẹ 2. Sự khoan dung 3. Tôn trọng quyền của người khác
4. Tôn trọng tự do 5. Khác (Ghi cụ thể) .....
(3) Mô tả nào dưới đây gần với sự mong muốn trong cuộc sống của Ông (bà)?
1. Trở nên giàu có thông qua làm việc nhiều
2. Trở nên nổi tiếng nhờ các công việc nghiên cứu học thuật
3. Được sống theo ý thích của mình, không lo về tiền bạc hay danh tiếng
4. Có cuộc sống thuận lợi, thoát khỏi mọi lo lắng
5. Có cuộc sống trong sạch, đạo đức tốt, thông qua việc làm để góp phần xoá bỏ bất công
6. Hiến dâng cho xã hội, không có suy nghĩ ích kỷ
7. Khác (Ghi cụ thể) .....
(4) Mô tả về đặc tính của người Việt Nam
①. Mô tả nào dưới đây Ông (bà) cho rằng đúng với người Việt Nam? (khoanh các câu tl)
1. Có lý trí 2. Cần cù 3. Tôn trọng tự do 4. Ngay thẳng 5. Kiên nhẫn 6. Tử tế
7. Sáng tạo 8. Lịch sự 9. Thật thà 10. Mẫu người lý tưởng
11. Khác (Ghi cụ thể) .....
② Đức tính nào của người Việt Nam là đáng tự hào?

.....

(5) Các quy tắc xã hội và giá trị văn hóa được gìn giữ tại địa phương:
① Ông(bà) cho rằng các giá trị đoàn kết và hợp tác, các tập quán cổ truyền như trong các đám ma chay, cưới xin là quan trọng tại địa phương?
1. Có 2. Không
② Ông (bà) nghĩ như thế nào về giá trị của các tập quán cổ truyền tại địa phương?
……..
(6) Ngoài cuộc sống ra thì vật chất, xã hội và tinh thần. Ông (bà) mong muốn điều gì nhất?
……

CÂU HỎI NHÓM III: VỀ SỰ GIÚP ĐỠ LẪN NHAU TẠI ĐỊA PHƯƠNG

(1) Mối quan hệ của nhân dân địa phương?
①. Trong cuộc sống hàng ngày của Ông (bà), ngoài gia đình, ai là người có mối liên hệ mật thiết?
1. Hàng xóm 2. Họ hàng 3. Người địa phương, nhưng không phải hàng xóm
4. Đồng nghiệp 5. Khác (Ghi cụ thể) ……..
② Ai là người góp ý nếu Ông (bà) gặp khó khăn trong cuộc sống?
1. Gia đình 2. Họ hàng 3. Hàng xóm 4. Người địa phương, không phải hàng xóm
5. Đồng nghiệp 6. Ông chủ hoặc người giám sát 7. Chính quyền địa phương
8. Khác (Ghi cụ thể) ……..
9. Không ai cả (Tôi tự giải quyết lấy một mình)
(2) Sự giúp đỡ lẫn nhau tại địa phương
①. Theo Ông (bà) câu nói nào dưới đây mô tả đúng nhất về sự giúp đỡ lẫn nhau tại địa phương?
1. Chính quyền địa phương có thể giúp đỡ nhân dân vì đó là trách nhiệm của họ.
2. Nếu một vài thành viên tại địa phương gặp khó khăn thì hàng xóm và các thành viên khác (cá nhân, gia đình, nhóm) có thể giúp đỡ họ.
3. Con người có thể tự giúp đỡ lẫn nhau bởi vì trách nhiệm con người là quan trọng
4. Khác (Ghi cụ thể) ……..
② Ông (bà) sẽ làm gì nếu biết rằng một số người tại địa phương đang thật sự khó khăn?
1. Tôi sẽ giúp đỡ họ ngay, không ngập ngừng
2. Tôi sẽ giúp họ nếu tôi có thời gian và tiền bạc
3. Tôi không giúp họ bởi vì đã có chính quyền địa phương giúp đỡ
4. Tôi sẽ không giúp họ, bởi vì họ phải có trách nhiệm giải quyết khó khăn của mình.
5. Khác (Ghi cụ thể) ……..
(3) Nếu người trả lời đồng ý với 1 hoặc 2 câu trên đây, xin mời trả lời tiếp.
Nếu không, xin chuyển đến câu (4) dưới đây
①. Ông (bà) có thể giúp đỡ người khác trong lĩnh vực nào?
1. Nông nghiệp: kế hoạch sản xuất và thu hoạch lúa
2. Sửa chữa và xây dựng nhà cửa
3. Tiền bạc 4. Làm các việc chung như: sửa đường và khai thông kênh mương
5. Giúp khắc phục hậu quả thiên tai 6. Tang ma 7. Cưới xin
8. Khác (Ghi cụ thể) ……..

② Ông bà có thể giúp đỡ người khác bằng hình thức nào?
1. Công sức 2. Của cải (Ghi cụ thể) .....
3. Tiền bạc 4. Khác (Ghi cụ thể) .....
③. Ông (bà) có chờ đợi bất cứ điều gì từ người mà đã được Ông (bà) đã giúp đỡ không?
1. Có 2. Không

(4) Sự giúp đỡ của người khác đối với Ông (bà)

①. Ông (bà) đã bao giờ nhận sự giúp đỡ của người khác dưới bất cứ hình thức nào chưa?
1. Có 2. Không

Nếu trả lời là "CÓ" trong câu hỏi trên, xin hỏi tiếp các câu hỏi dưới đây; nếu trả lời là "KHÔNG" xin chuyển đến câu (5) bên dưới đây:

*② Ông (bà) sẽ làm gì nếu được người khác giúp đỡ bằng **lao động** (1- 4), **của cải** (5- 8) hay **tiền bạc** (9-12)? (Khoanh tất cả các câu trả lời)*
1. Tôi sẽ trả lại chính xác số lao động mà họ đã giúp tôi
2. Tôi sẽ trả lại tương đối chính xác số lao động mà họ đã giúp tôi
3. Tôi sẽ trả lại giá trị lao động mà họ đã giúp tôi bằng của cải
4. Tôi sẽ trả lại giá trị lao động mà họ đã giúp tôi bằng tiền
5. Tôi sẽ trả lại chính xác giá trị của cải mà tôi đã nhận
6. Tôi sẽ trả lại tương đối chính xác giá trị của cải mà tôi đã nhận
7. Tôi sẽ trả lại giá trị của cải mà tôi đã nhận bằng lao động
8. Tôi sẽ trả lại giá trị của cải mà tôi đã nhận bằng tiền
9. Tôi sẽ trả lại chính xác số tiền mà họ đã giúp tôi
10. Tôi sẽ trả lại tương đối chính xác số tiền mà họ đã giúp tôi
11. Tôi sẽ trả lại số tiền mà họ đã giúp bằng lao động
12. Tôi sẽ trả lại số tiền mà họ đã giúp tôi bằng của cải
13. Khác (Ghi cụ thể) .....

(5) Ông (bà) sẽ làm gì khi các công việc chung như: nạo vét kênh mương, dọn dẹp đường làng diễn ra tại địa phương?
1. Tôi sẽ tham gia các công việc đó như là trách nhiệm của mình
2. Tôi sẽ không tham gia các công việc đó bởi vì tôi không có nhiều lao động
3. Tôi sẽ làm đúng trách nhiệm bằng hình thức khác thay vì làm công việc đó
   Đó là hình thức nào? (Ghi cụ thể) .....
4. Khác (Ghi cụ thể).....

(6) Ông (bà) nghĩ như thế nào về ý tưởng về tổ chức cho việc giúp đỡ lẫn nhau?

①. Có bất kỳ tổ chức nào cho việc giúp đỡ lẫn nhau ở địa phương ta hay không?
1. Có 2. Không

Nếu câu trả lời là "CÓ" xin tiếp tục hỏi từ câu ② đến ④
Nếu câu trả lời là "KHÔNG" xin chuyển đến câu (7) dưới đây

②. Địa phương ta có hình thức nào về tổ chức giúp đỡ lẫn nhau không?
1. Hình thức đó do người dân địa phương tự tổ chức ra
2. Hình thức đó được chính quyền địa phương tổ chức.
3. Khác (Ghi cụ thể).....

③. Các tổ chức đó hoạt động như thế nào?
1. Thu thập của cải, ví dụ như lúa
2. Thu thập tiền
3. Đổi công
4. Khác (Ghi cụ thể).....

④. Ông (bà) có tham gia một hình thức vào tổ chức giúp đỡ lẫn nhau nào không?
1. Có 2. Không, hiện nay không tham gia nhưng trước đây có tham gia
3. Không
⑤ Nếu trả lời 2 hoặc 3 ở trên, xin cho biết lý do
1. Tôi không đủ khả năng phân chia của cải hay tiền bạc
2. Tôi nghĩ rằng mình không đủ điều kiện để tham gia vào tổ chức
3. Khác (Ghi cụ thể).....

(7) Quan điểm của Ông (bà) về vai trò của Nhà nước trong sự giúp đỡ lẫn nhau trong xã hội hiện tại:

① Những sự thay đổi nào đã diễn ra trong lĩnh vực giúp đỡ lẫn nhau trong những năm gần đây?
1. Sự giúp đỡ lẫn nhau bị mất đi
2. Sự giúp đỡ lẫn nhau không thay đổi so với quá khứ
3. Sự giúp đỡ lẫn nhau tăng lên
4. Khác (Ghi cụ thể).....
② Xin Ông (bà) cho biết lý do của các câu trả lời: .....
.....
③. Ông (bà) đã giúp đỡ người khác như thế nào trong các đám hiếu, hỉ?
1. Tôi giúp đỡ công việc 2. Tôi đã giúp, nhưng không phải bây giờ
3. Khác (Ghi cụ thể).....

(8) Quan điểm của Ông (bà) về vai trò của Nhà nước trong lĩnh vực giúp đỡ lẫn nhau tại địa phương ta trong tương lai:

① Ông (bà) nghĩ rằng điều gì sẽ xảy ra trong lĩnh vực giúp đỡ lẫn nhau ở xã hội ta?
1. Sự giúp đỡ lẫn nhau sẽ biến mất ở từng cấp độ
2. Sự giúp đỡ lẫn nhau sẽ không biến mất trong tương lai
3. Sự giúp đỡ lẫn nhau sẽ gia tăng trong tương lai
4. Khác (Ghi cụ thể).....
②. Xin Ông (bà) cho biết lý do của các câu trả lời trên: .....
.....

(9) Ông (bà) nghĩ như thế nào về sự cần thiết của sự giúp đỡ lẫn nhau để góp phần vào cuộc sống của người dân địa phương?

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

NHÓM CÂU HỎI 4: XÂY DỰNG ĐỊA PHƯƠNG

(1) Thực trạng phát triển kinh tế và xã hội của địa phương ta:

① Quan điểm của Ông (bà) như thế nào về thực trạng phát triển kinh tế và xã hội của địa phương?

1. Rất lạc quan 2. Lạc quan 3. Trung bình 4. Bi quan 5. Rất bi quan

*② Nếu câu trả lời là **4 hoặc 5**, xin mời lựa chọn các phương án về sự cải tiến cần thiết dưới đây (Khoanh tất cả các phương án trả lời) và cũng xin trả lời câu hỏi ③ tiếp theo.*

*Nếu câu trả lời **từ 1-3**, xin chuyển xuống câu (2) dưới đây.*

1. Nông nghiệp và công nghiệp 2. Công nghiệp địa phương 3. Lao động 4. Tài chính
5. Đường 6. Giao thông 7. Điện 8. Cấp nước 9. Thoát nước
10. Ytế 11. Sức khoẻ và vệ sinh 12. Giáo dục tiểu học
13. Giáo dục PTCS 14. Giáo dục PTTH 15. Dạy nghề
16. Môi trường tự nhiên 17. Đạo đức xã hội 18. Tổ chức dân sự tại địa phương
19. Văn hoá truyền thống và sự sảng khoái về tinh thần
20. Khác (Ghi cụ thể).....

③ Ông (bà) tin tưởng như thế nào vào các lý do của sự kém phát triển trong các câu trả lời trên?

	Hoàn toàn đồng ý	Đồng ý một phần	Không đồng ý một phần	Hoàn toàn không đồng ý
1. Hành động của Nhà nước là không đủ	1	2	3	4
2. Hành động của cấp tỉnh là không đủ	1	2	3	4
3. Hành động của cấp huyện là không đủ	1	2	3	4
4. Hành động của cấp xã là không đủ	1	2	3	4
5. Sự kiểm soát hành chính quá mạnh	1	2	3	4
6. Thiếu thông tin giữa xã và làng	1	2	3	4
7. Thiếu thông tin giữa hành chính và dân sự	1	2	3	4
8. Hoạt động của các tổ chức dân sự là yếu	1	2	3	4
9. Các công dân nói chung là không hoạt động	1	2	3	4
10. ý thức phê bình của công dân là yếu	1	2	3	4

11. Khác (Ghi cụ thể).....
.....
.....

(2) Tương lai của địa phương ta:

①. Ông (bà) nghĩ rằng điều gì sẽ xẩy ra?

1. Sẽ diễn ra quá trình phát triển
2. Chỉ diễn ra quá trình phát triển cùng với việc bảo vệ môi trường tự nhiên
3. Quá trình phát triển sẽ không diễn ra hơn nữa
4. Khác (Ghi cụ thể).....

②. Theo Ông (bà) kết quả của sự phát triển của địa phương trong tương lai sẽ như thế nào?

	Hoàn toàn đồng ý	Đồng ý một phần	Không đồng ý một phần	Hoàn toàn không đồng ý
1. Cuộc sống sẽ trở nên giàu có	1	2	3	4
2. Tăng việc làm	1	2	3	4
3. Cuộc sống sẽ tiện nghi hơn	1	2	3	4
4. Dân số sẽ tăng	1	2	3	4
5 Địa phương sẽ có cuộc sống mới	1	2	3	4
6. Dân số địa phương sẽ giảm	1	2	3	4
7. Tuổi thọ trung bình của dân sẽ tăng đột ngột	1	2	3	4
8. Môi trường tự nhiên sẽ bị ô nhiễm	1	2	3	4
9. Đạo đức xã hội sẽ xuống cấp	1	2	3	4
10. Văn hoá truyền thống biến mất	1	2	3	4

11. Khác (Ghi cụ thể):
.....
.....

③ Theo Ông (bà) điều gì sẽ xẩy ra đối với sự phong phú của đời sống tinh thần nếu xã hội địa phương phát triển?

1. Sự phong phú của đời sống tinh thần sẽ giảm đi
2. Sự phong phú của đời sống tinh thần sẽ không giảm
3. Không thể dự báo trước được điều gì
4. Khác (Ghi cụ thể).....

(3) Chịu trách nhiệm xây dựng địa phương

① Theo Ông (bà) ai chịu trách nhiệm? (Khoanh tất cả các phương án trả lời)

1. Chính phủ trung ương phải có hoạt động xây dựng địa phương
2. Cấp tỉnh phải có hoạt động xây dựng địa phương
3. Cấp huyện phải có hoạt động xây dựng địa phương
4. Cấp xã phải có hoạt động xây dựng địa phương
5. Công dân trước hết phải có hoạt động xây dựng địa phương thông qua hợp tác với nhau
6. Mỗi công dân phải bằng năng lực của mình làm việc để xây dựng địa phương
7. Khác (Ghi cụ thể).....

*② Nếu trả lời **5 câu hỏi trên**, xin Ông (bà) trả lời về các hoạt động nào dưới đây cần được triển khai. Nếu KHÔNG, xin chuyển đến câu (4) bên dưới đây:*

1. Các công dân phải tích cực trình bày ý kiến của mình với UBND huyện hoặc xã
2. Các công dân phải tham gia vào các tổ chức của xã và huyện
3. Các công dân phải đưa ra sáng kiến không phụ thuộc vào bộ máy hành chính
4. Các công dân phải xây dựng các tổ chức mới ở địa phương để tập hợp các sáng kiến
5. Tất cả công dân đều phải bày tỏ chính kiến của họ để làm chủ địa phương
6. Khác (Ghi cụ thể).....

(4) Các quan điểm về hợp tác quốc tế

①Theo Ông(bà), hợp tác quốc tế có cần thiết cho những lợi ích của địa phương không?

1. Có 2. Không

② Nếu có hoặc không thì tại sao?.....

.....

.....

③ Nếu câu trả lời là "CÓ", xin trả lời về sự giúp đỡ của hợp tác quốc tế mà Ông (bà) cho là có hiệu quả?

1. Hợp tác với các nước đã phát triển
2. Hợp tác với các tổ chức phi chính phủ (NGO)
3. Khác (Ghi cụ thể).....

(5) Ông (bà) có suy nghĩ gì về biện pháp cải thiện đời sống nói chung ở địa phương?

.....

.....

.....

NHÓM CÂU HỎI 5. VỀ BẢN THÂN NGƯỜI TRẢ LỜI

(1) Giới tính: 1. Nam 2. Nữ

(2) Tuổi: 1. 11-20 2. 21- 30 3. 31-40 4. 41-50 5. 51-60 6. 61-70 7. 71-80 8. trên 80

(3) Địa chỉ:

①Xã:

②Làng:

(4) Số hộ gia đình:.....**(Số con:**.....)

(5) Nghề nghiệp:

1. Nông nghiệp 2. Công việc độc lập 3. Làm công ăn lương 4. Văn phòng
5. Hoạt động chính trị độc lập 6. Nội trợ 7. Sinh viên, học sinh
8. Bán thất nghiệp 9. Thất nghiệp
10. Khác (Ghi cụ thể).....

(6) Thu nhập:

①Thu nhập hàng năm của bản thân Ông (bà).....*đồng*

②. Thu nhập của cả gia đình.....*đồng*

(7) Giáo dục:

1. Tiểu học 2. PTCS 3. PTTH 4. Đại học
5. Không đi học. 6. Khác (Ghi cụ thể).....

(8). Thời gian đi học: ..... năm

(9). Những ý kiến riêng: .....

.....

.....

.....

.....

XIN CẢM ƠN ÔNG (BÀ) ĐÃ THAM GIA CUỘC PHỎNG VẤN !

資料３：質問紙インタビュー調査の単純集計

問１．生活意識

(1)社会階層意識

社会階層	上	中の上	中の下	下の上	下の下
度数149	0	25	94	27	3
割合％	0	16.8	63.1	18.1	2

(2)物質的豊かさ（暮らしぶり）

暮らしぶり	非常に豊か	やや豊か	ふつう	やや貧しい	非常に貧しい
度数148	0	22	95	27	4
割合％	0	14.9	64.2	18.2	2.7

(3)生活に対する満足度

生活満足度	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
度数149	44	46	47	12
割合％	29.5	30.9	31.5	8.1

(4)精神的豊かさ（心の豊かさ）

心の豊かさ	非常に良い	やや良い	やや悪い	非常に悪い
度数147	45	78	24	0
割合％	30.6	53.1	16.3	0

(5)社会に対する満足度

社会満足度	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
度数143	67	46	29	1
割合％	46.9	32.2	20.3	0.7

問２．生活態度

(1)大切なもの

生きがい	生命・健康	子供	家族	家・祖先	金・財産	愛情・精神	仕事・信用	国家・社会	その他
度数149	64	20	46	1	9	5	2	1	1
割合％	43	13.4	30.9	0.7	6	3.4	1.3	0.7	0.7

(2)大切な道徳

大切な道徳	親孝行	恩返し	個人利益	自由尊重	その他
度数143	102	12	18	6	5
割合％	71.3	8.4	12.6	4.2	3.5

(3)生き方

生き方	働き金持ち	勉強名声	趣味暮らし	のんきに	清く正しく	社会のため	その他
度数146	56	3	15	41	16	8	7
割合％	38.4	2.1	10.3	28.1	11	5.5	4.8

(4)国民性

生き方	合理的	勤勉	自由尊重	淡白	ねばり強い	親切	独創性	礼儀正しい	明朗	理想求める	その他
度数868	74	144	70	93	98	90	101	49	122	3	24
割合％	8.5	16.6	8.1	10.7	11.3	10.4	11.6	5.6	14.1	0.3	2.8
ケースの％	49.7	96.6	47	62.4	65.8	60.4	67.8	32.9	81.9	2	16.1

複数回答

(5)規範と価値

規範・価値	大切	大切でない
度数148	146	2
割合％	98.6	1.4

問3．相互扶助

(1)つきあい

①つきあいの深い人

つきあい	隣家	親戚	仕事関係	その他
度数149	41	86	8	14
割合%	27.5	57.7	5.4	9.4

②困ったときの相談相手

相談相手	家族	親戚	隣家	仕事関係	行政	その他	相手なし
度数149	88	39	8	3	2	6	3
割合%	59.1	26.2	5.4	2	1.3	4	2

(2)助け合い

①互助意識

助行為観	公助	共助	自助	その他
度数149	18	88	41	2
割合%	12.1	59.1	27.5	1.3

②互助態度

相談相手	共助	条件共助	公助	自助	その他
度数149	101	41	2	3	2
割合%	67.8	27.5	1.3	2	1.3

(3)互助行為の内容

①互助行為の種類

互助内容	農作業	家の補修	金銭困窮	共同作業	災害被害	葬式	結婚式	その他
度数551	76	59	77	48	43	119	109	20
割合%	13.8	10.7	14	8.7	7.8	21.6	19.8	3.6
ケースの%	51.4	39.9	52	32.4	29.1	80.4	73.6	13.5

複数回答

②互助行為の交換内容

互助形態	労力提供	モノ提供	お金提供	その他
度数253	124	26	95	8
割合%	49	10.3	37.5	3.2
ケースの%	84.4	17.7	64.6	5.4

複数回答

③相手からの返礼期待

返礼期待	期待する	期待しない
度数145	73	72
割合%	50.3	49.7

(4)他者からの支援

①相手への返礼の有無

返礼有無	返礼する	返礼しない
度数144	133	11
割合%	92.4	7.6

②返礼の内容

返礼内容	等量労働	適量労働	労働対モノ	労働対カネ	等量モノ	適量モノ	モノ対労働	モノ対カネ	等量カネ	適量カネ	カネ対労働	カネ対モノ	その他
度数380	38	78	5	11	40	51	16	9	63	44	14	2	9
割合%	10	20.5	1.3	2.9	10.5	13.4	4.2	2.4	16.6	11.6	3.7	0.5	2.4
ケースの%	27	55.3	3.5	7.8	28.4	36.2	11.3	6.4	44.7	31.2	9.9	1.4	6.4

(5)共同作業

作業参加	参加する	参加しない	代替行為	その他
度数148	125	0	13	10
割合%	84.5	0	8.8	6.8

(6)互助組織
①互助組織の有無

互助組織	あり	なし
度数149	146	3
割合%	98	2

②互助組織の種類

組織種類	住民組織	行政組織	その他
度数207	80	119	8
割合%	38.6	57.5	3.9
ケースの%	55.6	82.6	5.6

複数回答

③互助組織の内容

組織内容	モノの組織	カネの組織	労働力組織	その他
度数252	30	125	78	19
割合%	11.9	49.6	31	7.5
ケースの%	20.5	85.6	53.4	13

複数回答

④互助組織への参加

組織参加	参加	以前参加	不参加
度数146	127	10	9
割合%	87	6.8	6.2

⑤互助組織不参加の理由

不参加理由	余裕なし	メリットなし	その他
度数19	0	12	7
割合%	0	63.2	36.8

(7)相互扶助の現状
①互助行為の現状

互助現状	少ない	変わらない	増えている	その他
度数149	7	30	111	1
割合%	4.7	20.1	74.5	0.7

②冠婚葬祭の手伝い

葬式結婚式	手伝いする	今はしない	その他
度数149	120	8	10
割合%	80.5	5.4	6.7

(8)相互扶助の将来

互助現状	衰退する	変わらない	増えていく	その他
度数149	9	38	98	4
割合%	6	25.5	65.8	2.7

問4．地域づくり
(1)地域づくりの現状
①現在の状況

地域開発	非常に良い	やや良い	ふつう	やや悪い	非常に悪い
度数149	27	77	29	14	2
割合％	18.2	51.7	19.5	9.4	1.3

②よくない内容

悪い内容	産業問題	伝統産業	雇用問題	財政問題	道路問題	交通問題	電気問題	上水道	下水道
度数50	6	1	6	5	2	5	4	10	1
割合％	12	2	12	10	4	10	8	20	2
ケースの％	37.5	6.3	37.5	31.3	12.5	31.3	25	62.5	6.3

医療問題	保険衛生	初等教育	中等教育	高等教育	専門教育	自然環境	社会風紀	その他
3	5	0	0	0	2	0	0	0
6	10	0	0	0	4	0	0	0
18.8	31.3	0	0	0	12.5	0	0	0

複数回答

③よくない理由

	度数	強く思う	そう思う	思わない	全く思わない
国対応不足	15	5	4	2	4
省対応不足	15	5	5	2	3
地区対応不足	15	5	5	2	3
行政村対応不足	15	6	6	1	2
行政の規制	15	2	5	6	2
行政間の意思疎通	15	9	2	4	0
行政対話不足	15	6	5	4	0
住民組織不足	15	4	1	9	1
住民行動不足	15	3	3	5	4
住民意識不足	14	2	7	4	1

(2)地域づくりの将来方向
①将来方向

将来方向	開発すべき	適度な開発	開発しない	その他
度数149	99	37	12	1
割合％	66.4	24.8	8.1	0.7

②将来の影響

	度数	強く思う	そう思う	思わない	全く思わない
生活豊か	149	106	38	4	1
雇用増加	148	67	49	29	3
生活便利	148	104	39	4	1
人口増加	148	25	62	42	19
地域社会元気	147	99	42	4	2
過疎化	149	12	38	45	54
高齢化	147	7	62	58	20
自然環境悪化	149	36	66	33	14
社会風紀悪化	149	13	49	40	47
郷土意識希薄	149	9	36	32	72

③近代化による心の影響

近代化と心	豊かさ減る	減らない	どちらも	その他
度数148	2	111	15	20
割合％	1.4	75	10.1	13.5

(3)地域づくりの主体
①担い手

開発主体	中央政府	省	地区行政	行政村	地域住民	各自	その他
度数673	93	103	117	139	103	115	3
割合%	13.8	15.3	17.4	20.7	15.3	17.1	0.4
ケースの%	62.4	69.1	78.5	93.3	69.1	77.2	2

複数回答

②住民参加

住民参加	行政へ意見	行政組織	自主活動	新住民組織	意識向上	その他
度数264	76	45	38	35	55	15
割合%	28.8	17	14.4	13.3	20.8	5.7
ケースの%	66.1	39.1	33	30.4	47.8	13

複数回答

(4)国際協力
①国際協力の必要性

国際協力	必要	不必要
度数146	135	11
割合%	92.5	7.5

②国際協力の形態

協力種類	政府支援	NGO支援	その他
度数132	74	30	28
割合%	56.1	22.7	21.2

資料４：生活態度の自由回答　　以下（　）の数字は同一内容の意見数を示す。

４－１：ベトナムとしての誇り〈質問紙問２の(4)の②〉

勤勉（88）　正直（24）　創造的（8）　忍耐（5）　親切（5）
相互扶助（3）　率直（3）　知的（3）　礼儀正しい（2）
合理的（2）　自尊心（1）　自由（1）　互酬的（1）

４－２：地域社会の価値と習慣について〈質問紙問２の(5)の②〉

・重要であるため，維持していかなければならない（36）。
・人々を親密にする（13）。
・伝統的な文化を維持していくべきである（11）。
・伝統的な価値を維持していくべきである（5）。
・いくつかの習慣が変わってしまった（5）。
・私はムオン族で，ムオン族の文化を維持しなければならない（4）。
・伝統的な習慣は価値があり，それらはけっして消えない（4）。
・伝統的な文化は地域の価値を表している（3）。
・若い世代に伝えるために維持しなければならない（3）。
・結婚式はお金を節約すべきである（3）。
・それはムオン族固有の文化である（2）。
・良い文化である（2）。
・廃止すべき時代遅れのものもある（2）。
・コミュニティが発展していくためには非常に重要である（2）。
・伝統的な価値のいくつかを復活させるべきである（2）。
・地域社会を守るために規範と価値を維持すべきである（2）。
・人々を結びつけ，お互いに支え合う（2）。
・地域の価値と伝統的な習慣を維持すべきである（2）。
・国の文化が消えていくものもあるので，それを維持しなければならない。
・注意していかなければならない。
・変えていくべきである。
・若い人にとってもいいものである。
・いくつかは古く前近代的だが，維持していくべきである。
・生活にとっていいものだが，現在消えつつある。
・困難に打ち勝つためのもの。
・困難に打ち勝つためのもので，人々を親密にする。
・発展するために本質的なものである。
・コミュニティを相互に結びつける。
・より効果的にするのを助ける。
・（習慣は）伝統的な価値をもたらす。
・発展するのを助ける。
・共産主義者。
・困難を分かち合う。

・困難に打ち勝ち，経済発展を助ける。
・共産主義者，人々が困難に打ち勝つのを助ける。
・良い価値が現在も存在している。
・これらは文化的な国民性である。
・人々は伝統的な価値を変え，現代社会に適応させた。
・伝統的な習慣は良いが，結婚式のいくつかはなくなっている。
・伝統的な習慣のいくつかは機械化によりなくなるだろう。
・伝統的な習慣は地方のルーツであり，維持していくべきである。
・伝統的な習慣は世代から世代へと受け継がれるべきものである。
・われわれは伝統的な習慣を誇りに思うべきである。
・人々は外国人から新しい経験を学ぶ。
・伝統的な習慣は失われるだろう。
・伝統的な習慣は良い。
・目上の人を尊重し，伝統的な文化を維持していくべきである。
・相互精神と相互知性。
・社会がより統一される。
・習慣がないと，われわれは発展できない。
・人々がより良く生活するのを助ける。
・われわれの祖先を思い出させてくれる。
・お金を節約すべきである。
・良いものは維持し，悪く古いものはなくすべきである。
・コミュニティを強くする。

4－3：一番ほしいものについて〈質問紙問2の(6)〉

・精神的なもの（67）
・物質的なもの（56）
・社会的なもの（16）
・お金（2）
・社会の平等
・仕事による物質生活の改善

資料５：互助意識の自由回答

５－１：相互扶助の現状について〈質問紙問３の(7)の②〉

（減った理由）

・私の家族は大変困難で，ほとんど助けてもらえない。
・社会は発展し多くのお金を得ている。それ故彼らは助けを必要としない。
・人々は他者を助けることを望まない。
・私の家族は地域社会の中でこのような（貧しい）状態にある。
・進歩のためにはともに助け合うことが大切である。
・地域社会の支援が減っている。
・生活は過去ほど困難ではない。

（変わらない理由）

・生活は何も変わっていない（7）。
・わからない（5）。
・そう思う（2）。
・国の伝統的な慣習と習慣を守る（2）。
・社会は発展し，人々はより良い生活をしているので，助けを必要としない。
・多くの人が困難であるが，彼らは助けられていない。
・生活は何も変わっていない。村の人々はより豊かであるが，労働力を雇うことができるので，相互扶助を必要としない。
・伝統的な価値が市場経済の商業化によって失われた。
・地域社会の困難に打ち勝つ。
・人々の知識はより良くなっている，伝統的な慣習と習慣を守る。
・援助があればこの農場を変えることができる。それはなくならないだろう。
・相互扶助はベトナムの国民性である。
・人々の生活は変わった。

（増えた理由）

・人々はより豊かになり，他者を助けることができる（21）。
・地域経済が発展した（17）。
・人々の知識はより良くなっている（5）。
・多くの家族が助けられている（3）。
・生活がより良くなっている（3）。
・社会は発展し，より多くの助けを求めている（2）。
・政府は貧しい人を助ける政策をもっている（2）。
・相互扶助は貧困と困難を削減する（2）。
・社会がより良くなり，人々はまとまっている（2）。
・人々の生活をよりよくするために助ける（2）。
・わからない（2）。
・多くの人が前よりも助けてくれるようになった。

・政府は困難な人を助けるのにより良い状態にある。
・地方の積極的な指導者（の存在）。地方の指導者と政府が効果的に行っている。
・政府が貧しい人の家を建てるのに資金を援助している。
・多くの人が政府から援助を受けている。
・昨年私は家を建てるのにお金を借りて助けてもらい，経済が良くなった。
・地方では貧しい家庭が助けられている。政府が家具をつくるのにお金を貸す。
・政府が国民を助ける計画をもっていると思う。
・政府は人々が豊かになるようにしてもらいたい。
・政府は貧しい人を助けるべきである。親戚はお互いにつながりが深く，その関係で貧しい人を助けている。
・地方の人は生活を改善するために助けられていると思う。
・テレビを見たりラジオを聞いたりして，人々はより多くの知識をもつようになった。そのため彼らは他者を助けるのに心も広くなった。
・人々は豊かになり，他者を助けることができる。テレビやラジオも貧しい人を助けることを求めている。
・困難な人についての情報を多くもつようになった。
・人々はより豊かになり，村の関係も良くなっている。このため人々はお互いに助け合っている。
・貧しい人に対する地域社会の関心。
・生活は変わり，経済は発展しているので，人々はより多くの人に関心をもつ時間がもてるようになった。
・相互扶助はベトナムの伝統である。
・相互扶助は村のそしてムオン族の伝統的な習慣である。
・個々の家庭は多くの問題があるので，より多くの助けを必要とする。
・生活で困難な状態にある人がいるので，相互扶助は良くならなければならない。
・より多くの会社をもつことで人々の仕事が見つかり，他者を助けるためさらに豊かになれる。
・人々の知識は高くなり，政府も宣伝を多くしている。
・地域社会の組織による相互扶助。
・経済発展のための相互扶助は貧困を削減する。
・相互扶助は地域社会の発展のためには非常に重要である。
・地域社会にとって良いことである。
・前進のための相互扶助。
・地域社会は困難を解決できる。
・人々の知識はより良くなり，経済発展にとって良い状態になっている。
・多くの共産主義の組織をもっている。
・生活が改善しあなたが困っているとき他者は助けるだろう。
・人々は物質的に生活が良くなり，精神生活で他者は助けることができる。
・より多くの組織がつくられ，人々を多く助けることができる。
・豊かな者は貧しい者を助けるべきである。

・生活が良くなり，友人は他者に関心をもち助けるべきである。
・社会の発展だけでなく，人々もより良くなっている。
・相互扶助はわれわれが維持すべき良い行為であるから。
・市民は統合され，ともにより良い状態にある。
・人間はともに助けることを必要とする。
・人々は礼儀正しくなり，物質的な援助が人々を幸福にしている。
・われわれは他者を助けなければならない村の生活がある。
・社会生活がより良くなれば，人々は他者を助けなければならない。
・社会がより良くなり，人々の知識も高くなっている。
・私は社会がより良くなったと信じている。

（その他）
・最近ここに来たので，わからない。
・生活が速くかわるので予測できない。

5－2：相互扶助の将来について〈質問紙問3の(8)の②〉

（減る理由）
・経済が発展している（2）。
・なぜかわからない。ただそう思う。
・人々は自分たちの家族のことしか知らない（関心をもたない）。
・人々は他者に関心をもたない。
・人々は豊かになったので，他人を助けることを必要としない。
・地域の関係が数年前ほど良くない。

（変わらない理由）
・相互扶助はベトナムの伝統的な特徴である（6）。
・相互扶助は国の伝統である（4）。
・わからない（2）。
・相互扶助は生活を改善するために必要である。
・多くの人々が助けを必要としている。
・ベトナムには貧しい人が多くいる。
・社会はいつも困難な人をかかえ，他者を助けることができる人が多くいる。
・商業化。
・相互扶助は国の伝統的な価値を守り維持する。
・地域社会が存続し発展するためには重要である。
・社会には不平等があるから。
・相互扶助の伝統を守る（べきである）。
・相互扶助は人々の感情を示す。
・相互扶助は進歩をつくる。
・相互扶助は共産主義の発展にとって重要である。

・（将来を）予測できない。
・人々はもっと親切になるべきである。
・社会が発展すればするほど，それだけ人々を助けることができる。
・人々は自分自身で生活できる。
・社会の人間はいつも親戚と隣人を必要とする。
・生活はより良くなる。

（増える理由）
・経済はより発展する（17）。
・人々はより豊かになり，他者を助けることができる（6）。
・人々の知識はより良くなっている（5）。
・わからない（4）。
・相互扶助は国の伝統である（3）。
・社会がより発展する（3）。
・相互扶助は発展にとって重要である（2）。
・そう（互助行為が増えると）思う（2）。
・政府は地方の経済を発展させてほしい。また政府はわれわれを助けなければならない（2）。
・人々は他者を助けるだけのより多くのお金を得る（2）。
・村には多くの貧しい人がいるので，より多くの助けを必要としている（2）。
・人々の生活が貧しくならないようにする。
・多くの人が経済を改善するために助け合うことを必要としている。
・政府が豊かになればお金が増え，その分貧しい人を助けるだろう。
・政府が貧困者を減らすようにしてもらいたい。
・政府に誰もが生活が豊かになるようにしてもらいたい。
・誰もが豊かになりたいと思い，政府は発展するためにお金を投資すべきである。
・将来社会はより豊かな人をもち，彼らが別の貧しい人を助けるだろう。
・将来もベトナムは貧しい家庭をもつ。
・ムオンの経済はキンの経済と同じになる。
・人々はより豊かになり，他者を助けるのに多くのお金をもつようになる。
・生活は良くなるが，人々はいつでも困難を乗り越えることができるわけではないので，助けを必要とする。
・生活はより発展し，人々は他者を助ける時間とお金ができる。
・相互扶助は発展するためにはいつも重要で，社会はなお困難な人をかかえているので，より豊かな人が他者を助けることができる。
・経済発展が貧しい人の仕事探しを助ける。
・社会における相互扶助の重要性が理解される。
・地域社会の人々の知識がより良くなる。相互扶助はベトナムの伝統である。
・社会は進歩し，人々は互いに助けを必要とする。
・わが国と党は国民を助ける政策をもっている。

・社会が豊かになってほしいなら，他者を助けるべきである。
・相互扶助は村の特徴である。
・人々は将来の生活を改善するために全力を尽くしている。
・物質的生活が改善する。
・今日私が困難な人を助けると，次の日には彼らが助けを返してくれるだろう。
・社会には助ける多くの組織がある。
・人間関係がより親密になる。
・人々はより親切になる。
・生活が発展すれば，われわれはよりまとまることが必要である。
・社会が良くなれば，人々も良くなる。
・海外のベトナム人は非常にまとまっている。
・われわれの国はより豊かになり，人々はよりまとまる。

（その他）
・わからない（3）。

5－3：相互扶助についての自由回答〈質問紙問3の(9)〉
・相互扶助は人々をより親密にする（12）。
・相互扶助は人々の生活をより良くする（7）。
・相互扶助は生活の困難に直面したとき，人々を助ける（6）。
・われわれは隣人なしには生活できない。われわれは困難な人を助けるべきである。そうすればわれわれが困難なとき，その人が同じように助けてくれるだろう（4）。
・人々は一人では生きることができない（4）。
・相互扶助は人々の生活がより良くなるために必要である（3）。
・相互扶助は地域社会の困難に打ち勝つ（3）。
・相互扶助はベトナムの良い伝統的な習慣である（3）。
・人々は隣人の助けなしには生きられない（3）。
・相互扶助は重要で，それは不幸なあるいは幸福な感情を分かち合う（3）。
・相互扶助は生活の困難（物質面）に直面したとき，人々を助ける。またそれは知性（精神面）のためである（3）。
・相互扶助は物質的および精神的生活のためのものである（2）。
・相互扶助は地域住民の物質的および精神的生活を改善する（2）。
・相互扶助は貧困を削減する（2）。
・相互扶助は生活の困難に打ち勝つ経験を分かち合う（2）。
・相互扶助はベトナムの良い文化である。人々が助けられるなら，より良く生活するだろう（2）。
・相互扶助は生活の困難を解決し，地方経済を発展させる（2）。
・相互扶助は困難な問題を解決するのを助ける（2）。
・われわれは困難に直面するかもしれないので，貧しい人を助けるべきである。われわれは他者の助けを必要としている（2）。

・相互扶助は人々の経済発展を助け，社会も発展する（2)。
・相互扶助はすべての人にとって良いことで，特に貧しい人の生活を向上させる。
・相互扶助は現在だけでなく困難である限り必要で，分かち合うべきである。
・相互扶助は生活の困難を減らすための手段である。
・相互扶助は良い行為なので，誰もがお互いに助けるべきである。
・地方の生活は大変困難で，より良い生活をするのに助け合わなければならない。
・私たちは一人では生きていけない。生活を維持していくことができないため，他者の助けを必要とする。それ故まず私たちは他者を助ける。幸せと悲しみを地域社会で分け合い，経済発展のための方法を分かち合う。
・経済における経験を分かち合いながら，困難な人が悪いときを乗り越えるのに相互扶助は必要である。地域社会がまとまりお互いが尊重し合うべきである。
・相互扶助は貧しく困難な人を助け，地域社会で困窮者の問題を分かち合うことで，村の関係もより密接なものになる。
・多くの人は貧しく，親戚が助け，地域社会も助けるが，政府はより多く関心をもつべきである。
・相互扶助は悪いときと幸福なときをともに分かち合うのに必要で，精神的なものが最も重要である。
・生活において最も重要なことは精神的なもので，感情を分かち合うことである。
・相互扶助は他者の困難，悲しみ，幸福を分かち合い助けるために非常に重要である。それは人々を親しくさせ，お互いに愛し合うようにする。
・相互扶助は生活における困難，悲しみ，技術を分かち合うため非常に重要である。地方の人々は貧困を削減するために助け合っている。
・相互扶助は地域社会の感情を示し，困難に打ち勝つのを助ける。
・人間は地域社会なしには生活できないので，相互扶助は重要である。
・相互扶助は貧しい人々が発展するのを助ける。
・相互扶助は（人々が）まとまるため，また経済を発展させるため，生産の経験を分かち合うため必要である。
・相互扶助は地域社会の統合を示すために重要である。
・地域社会では困難な家族がいる。相互扶助は地域社会がより豊かになり，密接になるのを助けるのに必要である。
・相互扶助は貧しく困難な人を助けることで悪いときを乗り越え，経済発展の経験を分かち合い，村民がより親密になるため非常に重要である。
・相互扶助は困難な人が厳しい生活を乗り越え，村人がお互いに親しくなるために必要である。
・村の多くの家族が貧しいので相互扶助は重要である。その支援によってこれらの家族はより良い生活ができ子供も学校に行く機会が得られる。
・相互扶助は非常に重要である。それは多くの困難な人の悪いときを乗り越え生活を改善するのを助ける。
・相互扶助は困難に打ち勝ち，経済を発展させ，人々を親密にする。
・相互扶助は困難に打ち勝つ国の伝統を示す。

・相互扶助は社会の困難を分かち合い，人々の感情を示す。
・社会（コミュニティ）なしに大きな問題を解決することは大変難しい。
・相互扶助は非常に重要である。
・相互扶助は発展のためにある。
・相互扶助は地域社会で常に存続し発展してきた。
・相互扶助は国の伝統であり，進歩のために人々を助ける。
・相互扶助は国の伝統で，（人間）関係の手段でもあり，困難を解決する。
・相互扶助は伝統であるため重要で維持すべきである。それは人々が困難を乗り越えるのを助ける。
・相互扶助は国の習慣を導き，困難を解決しそれに打ち勝つ。
・相互扶助は経済発展にとって重要であり，人々の生存は相互扶助に依存する。
・相互扶助は人々が発展するのを助け，人々の感情を示す。
・相互扶助は働く方法を分かち合い人々をより親密にする。
・相互扶助は共産主義の感情を維持し，人々が困難に打ち勝つことを助ける。
・人々は他者を助けることで経験を分かち合うことができる。
・人々は相互扶助がふるさとに対する愛情のシンボルと考えるので他者を助ける。
・人々は他者を助けることで，地方は発展することができる。
・相互扶助は人々をより親密にする。それは文明社会の指標である。
・人々は他者や親戚から助けられれば，より良い生活をすることができるだろう。
・人々が他者を助けるなら，国も豊かになり強くなる。
・人々は同じ場所に住むとき，他者を助けなければならない。
・相互扶助は生活の困難に直面したとき，地域住民を結合するのを助ける。
・相互扶助は知的な生活のためのものである。
・相互扶助は地域経済を発展させるが，それは精神的生活のためである。
・相互扶助は知性（精神面）のためのもので，地域社会を良くする。
・相互扶助は人々を経済的に発展させ，物質的生活を改善する。
・相互扶助は人々を経済的に発展させ，人々を知（精神）的に動員する。
・村で物質的精神的に困難な人を救済するために，相互扶助は必要である。
・相互扶助は精神的に人々を一つにするのを鼓舞し，隣人の感情を教える。それは生活の困難に直面したとき，人々を助ける。
・相互扶助は良い関係をつくり，地域経済を発展させるのを助ける。
・われわれは村に住んでいる。そのため人々は幸福なまた悪いことをともに分かち合いながら他者を助ける必要がある。
・われわれは隣人なしには生活できない。将来助けてくれる人をわれわれは助ける。
・相互扶助は隣人間の関係のために重要である。われわれが今助ければ，別のときわれわれを助けてくれるだろう。
・われわれは相互扶助を維持し，良くない人を助けるよう人々を組織化すべきである。
・土地を平等に分けるべきで，経済発展のためにお金を貸すべきである。
・行政は困難な人を組織化し助けるべきである。地域社会の決定をはっきりさせ，すべての文化を維持し，すべての人はそれを尊重すべきである。

・人々は心をもたなければならない。相互扶助は困難に直面したとき，その人々を助ける。
・政府と組合の役割を発展させるべきである。
・政府は困難な人を助け，仕事を見つけるべきである。
・われわれは誰とも良くやっていくべきである。政府は人々がお互いに助け合うように多くの方法をもつべきである。
・行政は困難な人を組織化し助けるべきである。
・相互扶助はまとまりを改善し，お互いに愛し合う。
・相互扶助はお互いの助け合いを愛することを教える。
・われわれは困難に直面するかもしれない。それ故他者からのお返しを受けるよう貧しい人を助けるべきである。
・相互扶助は人々を統合し，お互いに助け合うのに重要である。
・すべての人はいつでも困難なときがあり得る。それ故相互扶助を必要とする。
・人間は人々がまとまりより親密になるよう相互扶助を愛する必要がある。

資料6：地域づくりの自由回答

6－1：国際協力について〈質問紙問4の(4)の②〉

（賛成）

・先進国は豊かで，われわれが資金を得て発展するのを支援してほしい（15）。
・地方経済が発展する（15）。
・仕事を見つけお金を得るよう貧しい人々を助け，経済的に発展するため（9）。
・人々が仕事を見つけお金を得る，また心が広くなる機会をもつため（4）。
・社会経済発展にとって重要である（4）。
・地方の人々の雇用創出（4）。
・われわれが発展しようとするなら，関係を広くしなければならない（4）。
・発展のためには国際協力を必要とする（4）。
・国際協力を活用して，財を交換する（3）。
・地域を発展させる（3）。
・工場をつくり地方の労働（問題）を解決してほしい（3）。
・資本と技術を助けるのに活用する（3）。
・外資による資本を引きつけることができる（3）。
・経済，社会，文化を発展させるために良い条件をつくる（3）。
・外資を導入するなら，地方は発展する機会が得られる（3）。
・われわれは貧しく，より多くの資本と経験をもち発展するため（3）。
・私の地域は大変貧しいから（2）。
・われわれの財を先進国に輸出する（2）。
・地方経済発展のための投資（2）。
・先進国はわれわれが学ぶべき資本と技術をもっている（2）。
・先進国の経験を学ぶことができる（2）。
・外国からの支援によって地域が発展し，双方にとっていい結果がもたらされる。
・われわれは経済を発展させる先進国の方法を学ぶべきである。
・われわれの経済を発展させるため科学技術に投資できるようにする。
・関係を広げ，輸出をし投資するため。
・ハイテク技術をもつためには，先進国からの投資を必要とする。
・国を発展させ，心を広くし，よい未来をもつため。
・われわれは貧しく，村に工場があると仕事が得られお金も手に入る。
・経済を発展させる多くのよい経験をもつため。
・新しい世界と広い心をもつため。
・人々が仕事を見つけお金を得る，また家族を改善するため。
・村に会社をつくり，経済的に発展するため。
・他国との経済関係を拡大する。
・貿易を強化し，科学と技術を交換する。
・経済を発展させ，世界に地方の生産物を輸出する。
・国際協力は国を友好にする。
・国際協力を活用する。

・生産，マーケティング，投資の方法を学ぶ。
・雇用の創出，所得の向上など，国際協力によって利益を得る。
・収入の向上。
・労働力の輸出を容易にする。
・社会をつくる資本が増えるだろう。
・生産の増大。
・海外から地方投資がされると，地方の人々は知識を改善することができる。
・未開の土地がより多く利用されるなら，人々の雇用が生まれる。
・外国が地方を助けることは良いことである。
・国際協力から利益を得ることができる。
・地域インフラの整備。
・地方が発展する機会が得られる。
・雇用の創出，地域インフラの整備。
・地域社会構築への投資。
・他国が開発すれば，高い科学技術がもたらされる。
・われわれを助けることができる他国との関係を開放すべきである。
・資本を増やすことができる。
・貧しい人々は関係を広げることを必要とする。
・先進国は生産投資でわれわれを助けてくれる。
・われわれはより多くの資本をもち，貧しい人々は仕事を得る機会をもつことができる。

（反対）
・先進国はあまりにも知的でわれわれとはかけ離れているので，彼らと接触することができない。
・協力関係を築く条件がない。
・今は国際協力を受ける必要がない。
・国は自分で良くできるので，国際協力を受ける必要がない。
・他国と問題解決をする必要性があるとは思わない。

6－2：地域づくり全体について〈質問紙問4の(5)〉

・労働のために仕事をつくってほしい（8）。
・政府は困窮者にお金を与え，経済を発展させてほしい（6）。
・水供給システムの再構築，政府による支援（貨幣），科学・技術の農業生産への活用（5）。
・地元産業に投資するため資金を得たい（3）。
・若い労働者が仕事を見つけお金を得るようにしなければならない（3）。
・この村では行政が住民の問題を解決する方法をもっていない（3）。
・人々の生活を改善する方法をもっていない（3）。
・地域の人々が科学技術を自分たちで学び，それを生産につなげる（3）。
・行政は人々の生活に関心をもち続けるべきである（3）。
・人々は他人から新しい経験を学ぶべきである（3）。
・行政は人々をもっと助け，人々はよりまとまり熱心に働くべきである（2）。
・行政は人々がお金を借りられるようにし，家計を助けるべきである（2）。
・家畜類をもてるようにしてほしい（2）。
・何ら方法がないため，自ら助け合っている（2）。
・地域経済を発展させる（2）。
・地方政府がもっと機能すべきである（2）。
・地方政府がもっと雇用を創出すべきである（2）。
・水，ガス，耕作の改善（2）。
・科学技術の農業生産への活用（2）。
・人民委員会の知識の向上（2）。
・経済発展のための投資（2）。
・教育のために投資すべきである。
・工場をつくり仕事を増やしてほしい。
・地域づくりが効果的なものとなるよう，行政は関心を示すべきである。
・村でいろいろな問題を解決するようになったが，それらは効果的とは言えず，依然として人々は貧しい。
・村は近年困難な人々を助けるようになったが，それらの方法は効果的なものである。
・経済を発展させるため人々に方法を教えるべきだが，それだけで完全というわけではない。
・行政は人々を助ける方法をもっていない。多くの者は自らを助けている。
・人々は農民としてだけでなく，企業でもより多く働けるようにしてもらいたい。
・自らでは発展が困難である。
・貧しい者は豊かな者が発展するのを見ているだけである。
・村の経済が発展する方法，それによって人々が良い仕事を得ることができる。
・問題解決により良い状態の家族もあるが，それを維持すべきである。
・より効果的な方法を必要としている。
・困難な時期を終わらせ生活を変えてより良い状態になるため，人々を助ける方法が必要である。

・コミューン（行政村）が助けるなら，多くの人々はより良い生活をもてるだろう。
・行政がお金を貸し，経済的に発展するための方法を教えてくれることを期待したい。
・人々の知識とテクノロジーを訓練する。
・仕事をつくり，生産を拡大する。
・生産のために資本を提供し，輸送システムを発展させる。
・豊かでない村を伸ばし，教育を発展させる。
・生産を発展させ経済関係を拡大する，地方の生産を伸ばすために投資する。
・教育，社会経済発展の拡大と国の伝統的な文化を守る。
・社会経済発展に焦点を当てる。
・社会経済発展のための良い条件をつくり，雇用を増やす。
・国際協力，相互扶助，社会経済発展。
・雇用と所得の増大。
・経済発展の政策をもち，雇用を拡大する。
・投資と雇用の拡大。
・人々の知識と生産技術の訓練。
・雇用創出と生産方法の変革。
・水道設備を改善して，人々に水を供給すべきである。
・地方政府はかなり良く，その解決策に賛成する。
・生活を改善し解決するためのシステムが社会の中でよく機能することを望む。
・地方政府は国と党の政策に従い，人々にお金を貸すべきである。
・人々は他人から新しい経験を学び，地方をつくるうえでまとまるべきである。
・人々はより一生懸命働こうとする。
・人々と地方政府は生活を改善するコミュニティをつくらなければならない。
・地方の人々の知識を改善する。
・地方をつくるという意識を人々はもたなければならない。
・地方政府は衛生（安全で清潔な水）に関心をもつべきである。
・地方政府は人々の生活を改善する正しい解決策を実施すべきである。
・地方の人々はすべて自分の故郷をつくらなければならない。
・地方政府は人々の生活を改善するため重要な役割を果たすべきである。
・地方政府はコミュティの家や子供のための遊び場をつくるべきである。
・未知の経験をより多く学ぶ。
・人々の生活の改善。
・道路の改善。
・科学と技術を生産にもたらし，多くの雇用を創出する。
・人々の生産増大を助ける。
・生産における技術，機械の使用。地方政府は水供給を改善し，より活動的になるべきである。
・地域インフラの整備。
・電気供給システムの再構築，科学技術の生産への活用。
・水供給システムの再構築，科学技術の生産への活用。

・人々を助けるためにより効果的なモデルを必要とする。
・無農薬栽培の促進，汚染野菜の偽物からの信頼回復による農民の生活安定。
・行政は農民の生活を助ける計画をもつべきである。
・科学技術を高めるべきである。
・経済発展と安定化。
・工業化や農業開発はもう古い。
・農業で科学技術を使い，農民の知識を向上させること。
・生産を拡大し，科学技術を用いること。
・土地を平等に分割し，貧しい人々の資本を増やすこと。
・行政は村の仕事を組織しなければならない。
・良い米（種）をもたなければならない。
・資本と良い米（種）をもたなければならない。
・教育を身につけ，貧しい人々がお金を借りることができるよう助けるべきである。
・人々がまとまり，生産をよくすること。
・良い確かなプロジェクト（計画）をもつべきである。
・村のリーダーを訓練し，人々をよく指導できるようにすること。
・行政がもっと一生懸命働くべきである。
・多くの（産業）セクターで良い計画をもつべきである。